

学習の手引き

スクーリング履修科目編

2026



ともに学び ともに成長する

神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部

『学習の手引き 2026』の 「テキスト履修科目編」と 「スクーリング履修科目編」の 分冊について

『学習の手引き』は、「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」に分冊しています。分冊にあたり、下記内容について注意してください。

1. テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞〔例：教育学科・児童教育学科専門教育科目群「子どもと人間関係」「教科教育法・外国語（英語）」など〕については、テキスト履修科目分とスクーリング履修科目分をそれぞれ冊子を分けて掲載しています。レポート作成・提出、科目修了試験受験、スクーリング受講の際には、該当の『学習の手引き』を必ず確認してください。
2. 実習科目については、「テキスト履修科目編」に掲載しています。ただし、スクーリング履修科目である「教育実習事前・事後指導（初等）」「特別支援学校教育実習事前事後指導」「保育実習指導ⅠA（保育所）」「保育実習指導Ⅱ（保育所）」「保育実習指導ⅠB（施設）」は、「スクーリング履修科目編」に掲載していますので注意してください。

＜10月入学生への「学習の手引き」配付について＞

10月入学生には、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』（レポート課題有効期限：2026年10月～2027年10月レポート提出受付期間。詳しくは、『親和通信』にて連絡。）を2026年9月（予定）に配付します。2026年4月～2027年2月開講のスクーリング履修科目については、本冊子掲載の内容となります。なお、2027年4月～2028年2月開講分の『学習の手引き2027 スクーリング履修科目編』は2027年3月（予定）に配付します。

テキスト購入の際は、「テキスト購入について」（はじめにⅢ）を確認してください。

目 次

はじめに.....	2
Ⅰ 『学習の手引き スクーリング履修科目編』について	
Ⅱ カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて	
Ⅲ テキスト購入について	
Ⅳ 参考文献について	
Ⅴ スクーリング履修科目 学習の流れ	
Ⅵ スクーリング受講にあたって	
Ⅶ 単位数と必要な学習時間について	
Ⅷ 気象警報等発表時などのスクーリングの取り扱いについて	
Ⅸ 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について	
Ⅹ カリキュラムマップ	
科目別索引（五十音順）	12
共通教育科目群.....	15
教育学科・児童教育学科専門教育科目群.....	35
保育士特例制度科目.....	127
・ 校舎配置図.....	131
・ テキスト購入 F A X（郵送）申込書	

はじめに

I 『学習の手引き スクーリング履修科目編』について

『学習の手引き スクーリング履修科目編』には、スクーリング履修科目を共通教育科目群、教育学科・児童教育学科専門教育科目群、特例制度（保育士資格取得）に分け、科目コード順に掲載しています。

スクーリング履修科目については、指定期間内に受講申請をしたうえで、本学が指定する日時・開講形態（対面授業・遠隔授業）で、教員から授業を直接受け、科目ごとに定められた授業時間すべてに出席しなければなりません。そして、担当教員が科目ごとに『学習の手引き スクーリング履修科目編』で定める「評価基準」（試験、発表等の結果）により評価（合格・不合格）され、合格すれば単位を修得することができます。

本冊子には、テキスト、科目の目的、到達目標、授業計画・方法、授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間、受講上の注意事項（持参物など）、生成AIの利用について、評価基準、参考文献等を記載しています。スクーリングを受講するための申請方法等については、『学生要覧』、『親和通信』で確認してください。

II カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

カリキュラム改正が行われた場合、指定年度から新しい科目名での開講となります。カリキュラム改正後の新しい科目名で開講するスクーリングを受講・合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格とします。

対象科目については、科目別索引（p.12）の＜注意：カリキュラム改正について＞、『学生要覧』を参照してください。

III テキスト購入について

テキストは、各自で必要分を実費購入することになります。2026年4月～2027年2月開講のスクーリング履修科目のテキストを購入する際は、それぞれの科目について本冊子のテキスト欄記載分を購入してください。テキストについては、2026年1月現在のものになっており、期中に新版が発行される場合がありますので、購入の際には新版を購入するようにしてください。

本学大学生協への注文の際は、本冊子巻末の「テキスト購入FAX(郵送)申込書」を使用のうえ、直接本学大学生協に注文してください。※用紙が不足する場合は、各自でコピーを取って使用してください。また、「親和deネット」の「お知らせ」からダウンロード（プリントアウト）することもできます。

一般書店・ネット通販での購入など購入方法は他にもありますが、本学大学生協のみでの取り扱いとなるテキストもありますので注意してください。

※ほとんどが専門書のため、本学大学生協や一般書店等に在庫がなく、取り寄せとなります。取り寄せには日数（2週間程度）がかかる場合がありますので、購入に際しては、日程に余裕をもってください。（スクーリング受講の際は、特に注意してください。）

●テキスト購入に関する問い合わせ先●

〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号 学生会館地下1階
神戸親和大学生協 書籍部（担当：木村） URL: <https://shinwa.u-coop.net>
TEL.078-595-0303 FAX.078-595-0565

＜テキストの購入は計画的に＞

まず、自分で卒業・修了までの学習計画を立て、その中で本学年の学習計画をさらに練り、本学年にスクーリング受講する科目のテキストだけを購入してください。なお、次学年以降、テキストが変更になることもありますので、注意してください。

（例）

科目コード	10000	科目名 [単位数/学習時間]	通信教育入門〔2単位/90時間〕				
テキスト	●『自立学習の手引き』私立大学通信教育協会						
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円) (2026年1月現在)	510	生協 テキストNo.	26001	生協へお申し込みください	

一般書店等で購入する際は、確認のために必要となります。

本学大学生協で購入の際は、必ず記入してください。

本学大学生協のみでの販売となります。

【10月入学生の「学習の手引き」について】

2026年4月～2027年2月開講のスクーリング履修科目については、本冊子の内容で開講されます。

なお、『学習の手引き スクーリング履修科目編』は来年3月（中旬）に更新・配付します。10月入学生は、テキスト購入の際は十分注意してください。

スクーリング受講の際は、次の（例）を参考に受講計画を立てて、テキストを購入してください。

（例）

- ・2026年4月～2027年2月スクーリング開講分 本冊子 記載内容
- ・2027年4月～2028年2月スクーリング開講分 『学習の手引き2027 スクーリング履修科目編』 記載内容

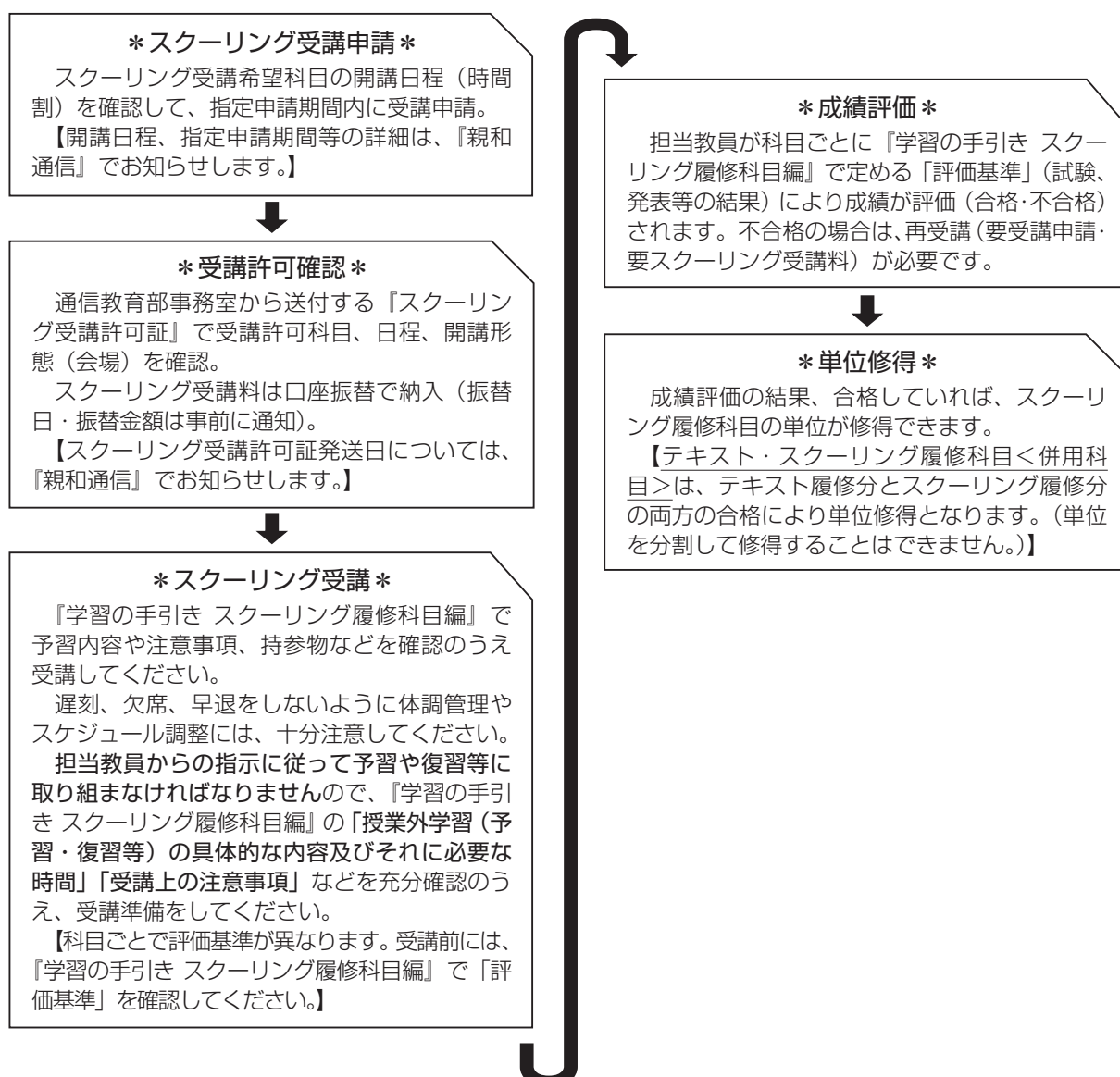
テキスト履修科目については、2026年10月レポート提出受付期間まで『学習の手引き2025 テキスト履修科目編』の課題が有効です。

※卒業判定・実習受講資格判定や単位認定処理を受けるためのスクーリング受講最終期限が定められています。最終期限については、『親和通信』でお知らせしますので、必ず確認してください。

Ⅳ 参考文献について

本学図書館に蔵書がありますが、科目修了試験前などは貸出中のことが多く、予約待ちになることをあらかじめご了承ください。本学図書館利用については、『学生要覧』を参照してください。

Ⅴ スクーリング履修科目 学習の流れ



Ⅵ スクーリング受講にあたって

1. 持ち物

- ①学生証または科目等履修生証<出席確認時に提示できない場合は、スクーリング受講が認められないことがあります。>
- ②スクーリング受講許可証（該当期間のもの）<事前に内容を確認してください。>
- ③テキスト<予習（含む事前課題作成）などで必要となりますので、計画的に購入してください。>
- ④筆記用具（ノート、鉛筆、黒インクボールペン、消しゴムなど）
- ⑤健康保険証（マイナ保険証）<急な発病等に備えての携帯を勧めます。>
- ⑥本冊子、『親和通信』等で科目ごとに事前に指示があった提出物・持参物<各自で事前に確認してください。>

2. 授業外学習（予習・復習等）について

スクーリング履修科目には予習（含む事前課題作成）や復習等が必要です。本冊子には、「授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間」を掲載していますので、担当教員からの指示に従って予習や復習等に取り組まなければなりません。また、事前に課題を作成し、スクーリング当日に提出するよう指示がある場合は、指示どおりに課題提出ができなければ、不合格になることもあります。スクーリング受講後には、スクーリングで学んだことをより一層深めるために復習が必要となります。スクーリング受講希望科目については、本冊子の内容を充分確認し、テキスト購入・予習（含む事前課題作成）等に遺漏がないよう留意してください。授業外学習に必要な時間（予習・復習等）については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて確保し、積極的かつ自主的に取り組んでください。（Ⅶ 単位数と必要な学習時間について を参照してください。）

3. 出席確認

授業の開始時間に出席確認をします。学生証または科目等履修生証、スクーリング受講許可証を用意してください。遅くとも授業開始5分前には、授業を受ける準備をしてください。スクーリング受講を許可された科目は、すべての授業に出席しなければなりません。しかし、やむを得ない事情（忌引・病気等）で欠席する場合を想定して、出席ポイント制を設けています。スクーリング出席ポイントが不足（規定最大ポイントの5/6以上必要）すると、当該科目の成績評価を受ける資格がなくなり、再受講（要受講申請・要スクーリング受講料）しなければなりません。＜出席免除はありません。＞

※授業開始（出席確認後）30分以上の遅刻は欠席となります。また、授業終了の30分以上前の早退についても欠席となります。欠席するとポイントは加算されません。

スクーリング受講前、スクーリング期間中は体調を十分に整えてください。また、自身のスケジュール調整にも注意してください。

4. <対面授業>受講上の注意

- ①学生証（科目等履修生証）とスクーリング受講許可証は、必ず携帯してください。学生証（科目等履修生証）を提示できない場合、受講が認められないことがあります。
- ②スクーリングには遅刻・早退・欠席のないよう、すべての時間に出席してください。
- ③スクーリング会場は、全面禁煙です。
- ④スクーリング会場への子ども連れでの入構（入室）は許可できません。
- ⑤授業中は、携帯電話等の電源は必ず切ってカバンにしまってください。
- ⑥私語など授業の進行の迷惑になる行為および他の学生や教職員に迷惑になる行為は禁止します。
- ⑦学生の車両（自動車、自動2輪車、原動機付自転車、自転車等）での通学は、禁止しています。通学時は、公共交通機関を利用してください。
- ⑧手荷物・貴重品は各自管理し、必要以外の貴重品は持参しないでください。万一、紛失・盗難が発生しても、本学では責任は負えません。

5. 遠隔授業について

一部の科目については、遠隔授業で開講します。遠隔授業では、Microsoft Teams<オンライン（同期型）授業、授業資料の配付、課題の提出、小テスト・質疑応答などができるシステム>を利用します。

2026年度開講スクーリングの授業形式（対面授業・遠隔授業）については、本冊子を参照してください。

1) 遠隔+対面スクーリング

遠隔授業+対面授業形式での開講を「遠隔+対面スクーリング」と呼びます。「遠隔+対面スクーリング」は、遠隔授業のみ又は対面授業のみの受講では単位修得できません。

「遠隔+対面スクーリング」の授業の流れは次のとおりです。

スクーリング1日目	・ Microsoft Teamsを利用 ・ オンライン（同期型）授業とオンデマンド（非同期型）授業の併用 ・ 通学の必要はなく、自宅等でパソコンを使用して受講
↓	1日目受講後、2日目対面授業までの間に、各自（又はグループ）で課題に取り組み、担当教員の指示に従って、課題を提出
スクーリング2日目	本学キャンパスにおいて対面授業を受講

2) 遠隔授業（リアルタイムオンライン）

遠隔授業<オンライン（同期型）>形式のみでの開講を「遠隔授業（リアルタイムオンライン）」と呼びます。通学の必要はなく、自宅等のパソコンで、Microsoft Teamsを使用しての受講となります。

【注意事項】

- ・ 遠隔授業で開講するスクーリングを受講申請された方には、受講許可時にMicrosoft TeamsにサインインするためのIDとパスワードをお知らせしますので、サインインができるか必ず確認してください。また、受講予定科目のスクーリング初日5日前からは、できれば毎日Microsoft Teamsにサインインし、担当教員からの連絡事項等がないかを確認してください。
- ・ Microsoft Teamsを用いた授業では、データ通信量が多くなります。このため、自宅のWiFiなど通信量を気にしないでよい環境で授業を受けることを強く勧めます。
- ・ Microsoft Teamsの利用はスマートフォンからでもできますが、基本的にはパソコンで使うことを推奨します。自宅で家族共有のパソコンを利用している場合は、ユーザーを分けることを勧めます。方法はインターネットで「Windows11 ローカルユーザー 追加」等で検索してください。
- ・ オンライン（同期型）授業では、Webカメラとマイクが必要です。円滑な授業実施のため、オンライン（同期型）授業受講中は、教員の指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフしてください。

遠隔授業の受講にあたり、受講する環境（パソコン等やネット環境）がないために授業が受けられない場合は、本学キャンパスのパソコン演習室を開放しますので、マイク付きイヤホンを持参のうえ、本学キャンパスまで通学してパソコンを使用してください。（パソコン演習室使用希望の願い出については、スクーリング受講許可時に連絡します。）

6. スクーリング受講の結果等について

当該科目の評価基準にもよりますが、授業時間中にスクーリング試験等が行われます。なお、試験方法（筆記試験・発表・課題提出など）は科目により異なります。実施方法の詳細は、担当教員の指示に従ってください。スクーリング受講の結果（「合」または「否」の表示）は、「親和deネット」でお知らせします。（結果発表（予定）日は、『親和通信』月別予定表参照。）なお、「スクーリング申請票」で受講申請された場合に限り、「スクーリング結果通知書」を郵送します。

不合格（否）・出席不足の場合は、その科目について再度スクーリング受講し（要スクーリング受講料）、合格しなければなりませんので、当該科目のスクーリング申請期間内にあらためて受講申請する必要があります。＜出席免除はありません。＞

VII 単位数と必要な学習時間について

1. 単位数と学習時間数

文部科学省が定める大学通信教育設置基準により、本学通信教育部では単位制としています。「単位」とは、科目を修了するために必要な学習量（時間数）となります。

本学通信教育部では、すべての授業科目に対して、学習時間数に応じて単位数を設定し、45時間の学習時間をもって1単位と定めています。

スクーリング履修科目では、スクーリング受講時間だけではこの要件を満たすことができません。スクーリング受講時間だけでなく、授業外学習（スクーリング受講前の予習、受講後の復習など）の自主的な学習時間も科目を修了するために必要となります。

本冊子の「授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間」を必ず確認のうえ、必要となる授業外学習（スクーリング受講前の予習、受講後の復習など）に積極的かつ自主的に取り組んでください。

授業外学習に必要な時間（予習・復習等）については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて確保するように努めてください。

2. 授業時間と授業外学習時間

スクーリング履修科目には、主に3日間開講（2単位）と2日間開講（1単位）があります。本学通信教育部では、原則として3日間開講科目（2単位）の授業（スクーリング）時間数は30時間、2日間開講科目（1単位）の場合は15時間としています。（※1回90分授業を2時間とみなします。）

それぞれの科目を修了するために必要な学習時間数については、原則として下表のとおりとなります。

3日間開講科目（2単位）の場合		
予習 30 時間	スクーリング受講 30 時間	復習 30 時間

※予習30時間 + スクーリング受講30時間 + 復習30時間 = 90時間 = 2単位

3日間開講科目（1単位）の場合		
予習 7.5 時間	スクーリング受講 30 時間	復習 7.5 時間

※予習7.5時間 + スクーリング受講30時間 + 復習7.5時間 = 45時間 = 1単位

2日間開講科目（1単位）の場合		
予習 15 時間	スクーリング受講 15 時間	復習 15 時間

※予習15時間 + スクーリング受講15時間 + 復習15時間 = 45時間 = 1単位

VIII 気象警報等発表時などのスクーリングの取り扱いについて

「気象警報等発表時」または「災害等による交通機関途絶の場合」のスクーリングの取り扱いについては、別に定めます。詳しくは、『学生要覧』（第7章）を参照してください。

IX 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

本学通信教育部学生及び科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における下記の不正な行為、不適切な学習態度には、本学では、懲戒処分、厳重注意や履修登録の取り消しといった厳しい態度で臨みます。真摯な態度で学習に取り組んでください。

<注意：スクーリング受講時の不適切な学習態度について>

スクーリング受講時の次のような行為などは、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となる場合があります。

なお、事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。

- ・授業中に私用でスマートフォン等の通信機器を使用したり、私語をするなどの行為。
- ・出席ポイントを計算し、意図的に欠席、遅刻、早退する行為。
- ・授業時間中に正当な理由なく教室から入退室する行為。
- ・他の受講者への迷惑になる言動。
- ・第三者が作成したものを流用して作成したと推定される課題を提出する行為。
- ・提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりする行為など

学生懲戒規程<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（懲戒の対象となる行為）

第4条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

- （4）通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
- （9）その他学生の本分に反する行為

2 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

（懲戒の種類）

第5条 学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。

- （1）退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
- （2）停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。
- （3）譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

通信教育部学生および科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における不正行為に対する取扱要項<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（処分の対象となる不正行為）

第4条 不正行為の種類は、次の各号のとおりとする。

- （1）科目修了試験時及びスクーリング試験時にカンニングペーパー、机上・手掌等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成する行為。
- （2）科目修了試験時及びスクーリング試験時に他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、若しくは答案用紙を交換する行為。インターネット等を利用した同様の行為（含む公開・提供する行為）。
- （6）科目修了試験時及びスクーリング時に教職員からの指示、注意に従わない行為、暴言行為、暴力行為。
- （7）科目修了試験における代理受験、スクーリングにおける代理受講。
- （8）その他、前各号の一つに類すると認められる行為。

（履修の取扱い）

第5条 不正行為を為した学生及び不正行為に関与した学生の履修の取り扱いについては、次の各号とする。

- （3）スクーリングで不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月に受講したすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。

神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針

生成AI活用に関する基本方針

近年の生成AI技術の急速な発展は、社会に大きな変化をもたらそうとしている。あらゆる場面で広く活用され、教育・研究・事務処理等においても、様々な活用できる。一方、誤情報の生成、プライバシー侵害、著作権問題、不正行為といったリスクも伴っている。これらの状況を踏まえ、学生・教職員が生成AIリテラシーを身に付け、適切（かつ積極的）に活用することを本学の方針とする。その際の留意点は以下のとおりである。

- (1) 生成AIは、教育・研究・業務を効率化するツールとして、適切な利用を推奨する。ただし、生成AIはあくまで補助ツールであり、人間の思考力、創造性、学びの主体性を代替するものではないという基本認識が重要である。
- (2) 生成AIの利用にあたっては、潜在的なリスクを踏まえ、対策を講じる。特に、個人情報や機密情報の入力による情報漏洩、生成されたコンテンツの正確性やバイアス、著作権侵害の可能性には細心の注意を払う。不正確な情報の鵜呑みは避け、必ずファクトチェックを行う。
- (3) 学術的なインテグリティの観点から、生成AIの回答をそのまま提出することは認めない。利用した場合は、文献引用と同様に、利用箇所、ツール名、プロンプト等の情報を明確に記載する。
- (4) 学生および教職員の生成AIリテラシーの向上に努める。生成AIの仕組み、能力、限界、リスク、適切な利用方法に関して理解し、適切に活用する力を向上させることが重要である。

なお、本方針については、今後社会や技術の発展状況に応じて適切に見直しを行うこととする。

【学修などでの生成AI活用ガイドライン】

1. 大学における生成AIの利活用について

大学での学修は、単に知識を記憶することだけではありません。自ら問題を発見し、深く思考し、判断し、多様な方法で表現するといった、主体的な活動が重要です。これらの能力は、今後の社会で活躍するために不可欠な力と言えます。

生成AIは、情報収集や文章作成の「補助」をしてくれる便利なツールですが、これに依存しすぎることで、思考力や創造力を養う貴重な機会を失わせてしまう可能性があります。学びの過程で生じる「分からないこと」に自ら向き合い、解決策を探ることこそが、成長につながります。生成AIは、この主体的な学びのプロセスをサポートするためにこそ使用すべきです。

2. 生成AIを使用するメリットとデメリット

【メリット】

- ・学習効率の向上……情報収集や文章作成のサポート等により、学習が効率的になります。
- ・創造の広がり……自分では思いつかなかった、様々な視点やアイデアを生成AIから得ることによって、自身の思考を深めたり広げたりできる可能性があります。

【デメリット】

- ・誤情報・偏見のリスク……生成AIは常に正確な情報を返すとは限らず、誤った情報や特定の意見に偏った情報を生成する可能性があります。
 - ・思考力・意欲の低下……生成AIに頼りすぎると、自ら考えるプロセスが失われます。また、学ぼうとする意欲も失われる可能性があります。
 - ・情報漏洩のリスク……個人情報や機密情報（研究データなど）を入力すると、意図せず情報が外部に流出する可能性があります。
 - ・著作権侵害のリスク……生成されたコンテンツが既存の著作物に類似している場合、著作権侵害となる可能性があります。
- これらのメリットとデメリットを理解した上で、生成AIを使用することが重要です。

3. 生成AI利活用における留意点

生成AIを安全かつ適切に利活用するために、以下の点に留意してください。

- ・学修・研究に取り組み、研鑽に励むことが大学生活の基本です。生成AIを利用することによって、より理解を深める、新たな考え方を身につける意識を持つことが重要です。
- ・生成AIが生成したものが既存の著作物と類似している可能性を検討し、他者の著作権を侵害しないよう十分注意してください。
- ・情報漏洩のリスクが高いため、生成AIサービスへの個人情報や大学の機密情報（研究データなど）の入力は、絶対に避けてください。

の機密情報（研究データなど）の入力は、絶対に避けてください。

- ・生成AIの出力は不正確な場合があるため、得られた情報が正しいかどうかを必ず複数の信頼できる情報源で確認（ファクトチェック）してください。
- ・生成AIを利用した結果生じた問題や損害については、原則として利用した皆さん自身が責任を負うことになります。

レポートや論文での利用

課題の作成に生成AIを利用した場合は、どの部分でどのように利用したか、どのように質問したのかを「明記」することが求められます。具体的な記載の内容や方法は、担当教員の指示に従ってください。

授業（スクーリング）での利用

科目によっては、生成AIの利用について個別のルール（利用の可否、利用範囲など）が指示される場合があります。その場合、授業中の説明等をよく確認し、担当教員の指示に必ず従ってください。場合によっては不正行為となり、単位認定できなくなる可能性もあります。

4. 生成AI利活用の適切な例

●テーマ設定のアイデアを得る

➢ レポートや論文のテーマ探し、構成検討、議論の視点整理など、行き詰まったときにアイデアを広げることができます。

●文献調査・資料収集する

➢ 複数の資料やWebサイトの情報を効率的に収集し、要約する手助けになります。

●文章作成・推敲をする

➢ 表現の言い換え、誤字脱字のチェックなど、文章を作成する際に効率化が図れます。

●理解を深める・考え方を広げる

➢ 授業で分からなかったことを質問したり、教科書の内容について詳しい説明を求めたりすることができます。

【Point】

生成AIを使用する際は、ファクトチェックが必要です。ファクトチェックとは、生成された内容をそのまま鵜呑みにせず、必ず自身の頭で考え、他の情報源と照らし合わせ、内容を検証することです。

5. 生成AI利活用の不適切な例

●レポートや論文、課題の回答として、生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりする。

➢ 何も思考しておらず、学修とは言えません。また、盗作や剽窃といった不正行為にもあたります。

●生成AIが生成した情報を検証せずに正しいと判断し、学修や研究にそのまま使用する。

➢ 誤った知識を広げることや不正確な結論を導き出すことにつながります。また、生成AIが既存の著作物に類似したコンテンツを生成した場合、その利用方法によっては著作権侵害となる可能性があります。

●氏名、学籍番号、住所、成績情報、未公開の研究データなど、個人が特定できる情報や機密性の高い情報を生成AIに入力する。

➢ 情報漏洩のリスクを伴います。

【Point】

課題を解決するための思考や調査、実験といった主体的なプロセスを生成AIに代替させ、結果だけを得ようとすることは、自身の成長の機会を放棄することになります。

【ガイドラインの見直し（学生・教職員）】

技術の発展や社会の対応状況に応じて、本ガイドラインの見直しを行い、必要に応じ改訂することとします。

X カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは、科目区分の下に科目を構成し、科目区分間、科目間の関係性や配当年次等を記し、科目と修得できる知識・能力との対応関係等を示したもので、科目に係る体系性・有機的連携を確保するためのものです。学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、各科目の学習によって『修得できる力』を表記していますので、確認のうえ学習を進めてください。

教育学科・児童教育学科 カリキュラムマップ

				学習によって『修得できる力』																						
				実践力			専門性				共生力															
				単位 数	配 当 年 次	使命感・責任感	互助的精神 (人間愛)	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	関係性			社会貢献										
学科	科目区分	授業科目名 (※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。)	テキスト履修										豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力									
共通教育科目群	ベイスック・スキル	通信教育入門	2		1	○			○	○	○	○														
		日本語表現	2		1				○	○	○	○	○	○	○											
		総合英語<2025年度以降入学生対象科目>		2	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○									
		英語コミュニケーションⅠ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○									
		英語コミュニケーションⅡ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○									
		英語	2		1				○	○	○					○										
		スポーツ実技		2	1				○	○	○		○	○	○											
		基礎体育学		1	1				○	○	○		○	○	○											
		健康行動学	2 or 2		1	○			○	○	○															
		情報基礎	2		1				○		○															
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1				○		○					○										
		文学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○										
		心理学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○										
		哲学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○										
		経済学	4		1				○		○					○										
		法学	4		1				○		○					○										
		社会学	4		1				○		○					○										
		地理学	4		1	○			○	○	○					○	○									
		文化人類学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○									
		数学	4		1				○	○	○															
		生物学	4		1				○	○	○					○										
		栄養学	4		1				○	○	○			○												
	総合学習	多文化社会	2 or 2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○									
		情報と社会	2 or 2		2				○	○	○															
		国際理解教育論	2 or 2		2		○	○	○		○		○		○	○										
		環境教育論	2 or 2		2	○	○	○	○	○	○		○			○	○									
専門教育科目群	基本科目	教育原理	2 or 2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○									
		教育心理学	2		1				○		○															
		教育哲学	2		3	○	○		○		○		○			○										
		人権教育	2		3	○		○	○		○		○	○			○									
	演習科目	児童教育学演習Ⅰ【2025年度以降：教育学演習Ⅰ】		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○											
		児童教育学演習Ⅱ【2025年度以降：教育学演習Ⅱ】		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○											
		教育学演習Ⅰ<2025年度以降入学生対象科目>		2	1			○	○	○	○	○	○	○	○											
		教育学演習Ⅱ<2025年度以降入学生対象科目>		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○											
	基幹科目・発展科目	国語	2		2		○		○		○	○		○												
		算数	2		2			○	○	○		○			○											
		生活	2		2	○		○	○		○		○	○			○									
		社会	2		2			○	○		○		○			○	○									
		理科		2	2				○	○	○					○										
		家庭	2		2				○	○	○				○											
		外国語(英語)	2		2	○		○	○	○	○	○		○		○										
		体育	1	1	1	○		○	○	○	○	○	○	○	○											
		音楽	1	1	1			○	○	○	○	○	○		○											
		美術	1	1	1		○	○	○	○	○	○														
		児童体育<2025年度以降入学生対象科目>		2	1	○		○	○	○	○	○	○	○	○											
		児童音楽<2025年度以降入学生対象科目>		2	1			○	○	○	○	○			○											
		図画工作<2025年度以降入学生対象科目>		2	1		○	○	○	○	○	○														
		子どもと健康	1	1	1				○	○			○													
		子どもと人間関係	1	1	1				○	○				○												
		子どもと環境	1	1	1				○	○			○													
		子どもと言葉	1	1	1				○	○				○												
		子どもと音楽表現	1	1	2				○	○					○											
		子どもと造形表現	1	1	2				○	○					○											
		子どもと身体表現	1	1	2				○	○					○											

					学習によって『修得できる力』													
					実践力			専門性					共生力					
													関係性			社会貢献		
授業科目名 （※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）				単位数	配当年次	使命感・責任感	互助的精神（人間愛）	教育・保育の実践力	専門的知識	専門的技能	主体的な思考力・判断力	創造的な表現力	豊かな社会性	人間関係形成力	他者との協働性	国際的な視野	地域社会に貢献する力	
テキスト履修	スクーリング履修																	
専門教育科目 基幹科目・発展科目	子育て相談・支援の理論と実際	2		4	○	○	○	○	○	○				○				○
	児童教育学特殊講義Ⅰ		2	3				○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	児童教育学特殊講義Ⅱ		2	4				○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	教育実習事前・事後指導（初等）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	教育実習（初等）	実習4		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	保育実習ⅠA（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導ⅠA（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習ⅠB（施設）	実習2		4	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導ⅠB（施設）		1	4	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○	○					○		○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	特別支援教育基礎理論	1	1	1	○				○									
	知的障害児の心理A	1		1					○	○	○						○	
	知的障害児の心理B		1	2					○	○	○						○	
	知的障害児の生理・病理	2		1					○	○	○						○	
	肢体不自由児の心理・生理・病理A	1		1					○	○	○						○	
	肢体不自由児の心理・生理・病理B		1	2					○	○	○						○	
	病弱児の心理・生理・病理A	1		1					○	○	○						○	
	病弱児の心理・生理・病理B		1	2					○	○	○						○	
	知的障害児教育論ⅠA	1		1	○	○	○	○	○	○							○	
	知的障害児教育論ⅠB		1	2	○	○	○	○	○	○							○	
	知的障害児教育論Ⅱ	2		1	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	肢体不自由児教育論A	1		1	○													
	肢体不自由児教育論B		1	2	○				○									
	病弱児教育論	2		1	○				○								○	
	視覚障害児の心理・生理・病理		1	1					○	○	○						○	
	聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1					○	○	○						○	
	視覚障害児教育指導法		1	2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	聴覚障害児教育指導法	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
	発達障害児教育論A	1		1	○	○	○	○	○	○							○	
	発達障害児教育論B		1	2	○		○	○	○	○	○	○					○	
	特別支援学校教育実習事前事後指導		1	4	○		○	○	○	○	○	○	○				○	
	特別支援学校教育実習	実習2		4	○		○	○	○	○			○	○			○	

科目別索引

五 十 音 順

<注意：カリキュラム改正について>

本学ではカリキュラム改正を行いました。このため、入学年度・入学学年により、カリキュラムが異なります。『学生要覧』の入学年度・入学学年・コース別の科目表を必ず確認してください。

なお、④欄のカリキュラム改正前科目については、⑤欄の2026年度開講科目として開講しますので、本冊子では⑤欄の科目コード・科目名で掲載しています。

④ カリキュラム改正前科目		⑤ 2026年度開講科目	
科目コード	科目名	科目コード	科目名
20005	児童教育学演習Ⅰ	20184	教育学演習Ⅰ
20006	児童教育学演習Ⅱ	20185	教育学演習Ⅱ

<2026年度不開講科目について>

下記の科目については、2026年度は不開講となります。

科目コード	科目名	科目コード	科目名
20082	児童教育学特殊講義Ⅱ	20145	保育実習指導ⅠB（施設）
20138	保育実習指導ⅠA（保育所）	20180	保育・教職実践演習（幼）
20139	保育実習指導Ⅱ（保育所）		

【エ】

英語コミュニケーションⅠ【◆1】	16
英語コミュニケーションⅡ【◆1】	17

【オ】

音楽【◆1】	74
--------	----

【カ】

環境教育論	29
-------	----

【キ】

基礎体育学【◆1】	19
教育学演習Ⅰ〔隈元泰弘〕	114
教育学演習Ⅰ〔間瀬泰尚〕	115
教育学演習Ⅱ〔榎藤眞織〕	116
教育学演習Ⅱ〔横田郁子〕	118
教育原理	36
教育実習事前・事後指導（初等）〔小学校〕	83
教育実習事前・事後指導（初等）〔幼稚園〕	81
教科教育法・音楽	44
教科教育法・外国語（英語）	101
教科教育法・図画工作	46
教科教育法・体育	48
教科教育法・理科	42
教職実践演習（幼・小）〔小学校教育実習終了者用〕	72
教職実践演習（幼・小）〔幼稚園教育実習終了者用〕	70

【ケ】

健康行動学	20
-------	----

【コ】

国際理解教育論	27
子育て支援	98
子ども家庭支援論【特例制度】	128
子どもと音楽表現	110
子どもと環境	107
子どもと健康	103
子どもと言葉	109
子どもと身体表現	113
子どもと造形表現	111
子どもと人間関係	105
子どもの健康と安全	96
子どもの食と栄養	79
子どもの理解と援助	91

【シ】

視覚障害児教育指導法【特支】	64
視覚障害児の心理・生理・病理【特支】	62
肢体不自由児教育論B【特支】	60
肢体不自由児の心理・生理・病理B【特支】	56
児童音楽【◆2】	122
児童教育学特殊講義Ⅰ	52
児童体育【◆2】	120
社会的養護Ⅱ	95
障害児保育論Ⅰ	50
情報と社会	26

【ス】

図画工作【◆2】	125
----------	-----

スポーツ実技	33
【ソ】	
総合英語【◆2】	31
【タ】	
体育【◆1】	40
多文化社会	24
【チ】	
知的障害児教育論ⅠB【特支】	58
知的障害児の心理B【特支】	55
【ト】	
特別支援学校教育実習事前事後指導【特支】	68
特別支援教育入門（初等）	99
特別支援教育基礎理論【特支】	54
【ニ】	
日本国憲法	22

乳児保育演習	93
乳児保育【特例制度】	129
【ハ】	
発達障害児教育論B【特支】	66
【ヒ】	
美術【◆1】	77
病弱児の心理・生理・病理B【特支】	57
【ホ】	
保育内容（環境）	88
保育内容（健康）	85
保育内容（人間関係）	86
保育内容（表現）	89
【リ】	
理科	38

【◆1】 教育学科・児童教育学科2024年度以前入学生対象科目

【◆2】 教育学科・児童教育学科2025年度以降入学生対象科目

【特支】「特別支援学校教諭1種免許状取得課程」履修者対象科目＜1年次入学時履修許可者のみ＞

【特例制度】認定こども園法改正に伴う特例制度により、保育士資格の取得を希望する科目等履修生対象科目

共 通 教 育 科 目 群

科目コード	10002	科目名 [単位数/学習時間]	英語コミュニケーションⅠ [1単位/45時間]				対面授業
テキスト	●土屋麻衣子『Happy English for Childcare』金星堂						
ISBN	9784764740082	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,300	生協 テキストNo.	26003		
科目担当		水田 時男					
科目の目的 英語コミュニケーションに必要な4技能（読み・書き・聴き・話す）の基礎力育成を図るのが、本科目の目的である。学校や保育の現場等で役立つ表現と語彙に取り組みながら、会話表現を習得するとともに意味伝達に不可欠な基礎的な文法及びアクセントやイントネーションなどの英語独特の音やリズムを身につける。また、説明文から必要な情報を取り出すための読解力の向上を目指す。							
到達目標 ・ 基本的な英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）に重点を置き、さらに語彙・発音に関する知識も習得していく。 ・ 英語独特の音の特徴を理解する。 ・ 状況に適した英語表現をなるべく自然に使えるようにする。							
授業計画 第1回 Introduction / Unit 01 Hi, I'm Yuri Tanaka 第2回 Unit 02 Where Is the Multi-purpose Room? 第3回 Unit 03 Good Morning. How Are You Today? / 英語の歌① 第4回 Unit 04 What Color Do You Like? 第5回 Unit 05 There's a Ladybug on the Leaf 第6回 Unit 06 It's Time to Play Outside 第7回 Unit 07 She Is Allergic to Eggs 第8回 Unit 08 You Should Go to the Bathroom / 英語の歌② 第9回 Unit 09 We Made Masks Today 第10回 Unit 10 If It Rains, What Happens? 第11回 Unit 11 What Shall We Do Today? / 英語の歌③ 第12回 Unit 12 I Feel Feverish 第13回 Unit 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center 第14回 Unit 14 Thank You Very Much for Everything 第15回 まとめ（これまでの振り返り）と確認							
授業方法 授業では、学校や保育の現場等で必要となる英語表現及び基本的な英文法の定着を図る。ペアワーク等により受講生同士コミュニケーションをとりながら、英語の楽しさを共有していく。また、各Unit終了後、確認テストを行い、定着度を確認する。「英語の歌」では、過去半世紀の間に流行したいくつかのPopsを聞き、その歌詞の意味を考える。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 「受講理由について」「週末の過ごし方」などの質問に、英語 30words 以上で回答するアンケートをスクーリング受講許可時に各自に送付する。これは、各自の英語力を事前に判断するので、期限を守って必ず提出すること。 テキストは音声ファイルをダウンロード/ストリーミングができるようになっているのでそれを繰り返し聞いて、予習・復習に役立ててもらいたい。準備学習として、上記の授業計画に記載の範囲（Unit01-14まで）における音声ファイルを聞きながら予習をしておくこと。 語学の学習は習慣化することが望ましい。上述の内容を繰り返して、できれば毎日20分間（少なくとも5分間）、英語にふれる時間を確保し、こつこつと継続するよう努めてもらいたい。（学習時間15時間）							
受講上の注意事項 ・ テキストは、余裕を持ってスクーリング前に必ず購入し持参すること。 ・ ペアワークを取り入れるので、積極的、協調的な授業参加が望ましい。 ・ 各Unit終了後、確認の小テストを実施するので、ポイントを押さえて理解するよう努めること。							
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準 真摯な受講態度で授業に臨み、授業で学んだ内容を理解していること。 ・ 授業での積極性 40% ・ 文法・語彙知識の理解度および状況に応じた英語表現の習得（小テストの結果） 60%							
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。							
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	10003	科目名 [単位数/学習時間]	英語コミュニケーションⅡ [1単位/45時間]			遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 相羽千州子 藤原真知子 『Hello, English - English for Teachers of Children - 』 成美堂					
ISBN	9784791947973	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26004	
科目担当		平松 さやか				

科目の目的

基本的な文法・語法を確認しつつ、英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）をバランス良く取り入れて学習していく。実践的な「聴く・話す」ばかりではなく「読み・書き（academic writing）」も総合的に含めた科目と理解しておく。時間の許す限りディスカッション、グループワークも取り入れて英語のアウトプットの時間も設ける。

到達目標

- ・基礎的な英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）に重点を置き、さらに語彙・発音の知識も習得する。
- ・状況に適した英語表現をなるべく自然に使えるようになる。
- ・英語を積極的に使い、学ぶと同時に英語と日本語の構造や概念の違いも意識できるようになる。

授業計画

第1回

Unit 1 : ALT's First Visit to Miami Elementary School

第2回

Unit 2 : Getting to Know Each Other

第3回

Unit 3 : School Lunch

第4回

Unit 4 : Play Time

第5回

Unit 5 : The First English Class

第6回

Unit 6 : Teaching Numbers1 / Unit7 : Teaching Numbers2

第7回

Unit 8 : Reflection

第8回

Unit 9 : Activities at a Kindergarten

第9回

Unit 10 : Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle

第10回

Unit 11 : Making Onigiri and Curry chantsで英語の発音、リズムを学習

第11回

Unit 12 : Making a Town Map

第12回

Unit 13 : Introducing Japanese Culture

第13回

Unit 14 : Evacuation Drills

第14回

Unit 15 : Graduation

第15回

全体の振り返り、質疑応答と試験

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

授業では、英語の発音の特徴にも気を配りながら、日常的に使用する英語表現を学習し、受講生が発話できるよう練習を重ねる。ペアまたはグループワークにより受講生同士が交流を図りやすくする。童謡や英語の絵本など様々なマテリアルを使用しつつ、英語を学ぶ楽しさを見出していく。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講許可後に英語 40words 以上で回答するアンケートを実施する。各自の英語力を事前に判断するので、期限を守って必ず提出すること。この作文をもとに授業内でacademic writingを学び、スクーリング最終日に行う試験までに書き方を習得する。また、テキストのダウンロード可能な音声部分を繰り返し聞き、空欄を埋める問題を解き、予習・復習に役立ててほしい。準備学習として、上記の「授業計画」に記載の範囲Unit 1 -15部分の内容確認と英語の耳慣らし時間を確保するとよい。事前に質問を準備しスクーリング時に担当者に確認すると、各自の学びをより深めることもできる。(学習時間15時間)

受講上の注意事項

- ・テキストは、余裕をもってスクーリング前に必ず購入すること。
- ・英語辞書も紙／電子問わず手元にあると役立つため、準備しておくとう良い。（携帯のアプリ辞書は不向きではあるが、他に所持していない場合は科目担当者に申し出てから使用すること。）
- ・ペアワーク、グループワークを取り入れるので、積極的、協調的な授業参加が望ましい。
- ・スクーリング最終日に行う試験については、初日に詳細を説明する。
- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。特にディスカッションに参加しない者、一定時間応答がない者は、欠席もしくは早退等とみなし成績に反映させる。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

真摯な受講態度で授業に臨み、必要な提出物課題に取り組み、授業で学んだ内容を理解していること。

- ・発表、プレゼンテーションを含む積極性 20%
- ・文法、語彙知識の理解度および英語表現の習得 50%
- ・授業内での提出物課題 30%

参考文献

・南出康世 中邑光男 『ジーニアス英和辞典（第6版）』 大修館書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10005	科目名 [単位数/学習時間]	基礎体育学 [1単位/45時間]			対面授業
テキスト						
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		山中 裕太				
科目の目的 現代社会は、物の豊かさをわれわれに与えてくれ、運動や労働による身体活動を奪った。また、医療の発達により平均寿命が80余才と超高齢化社会を迎えた。このような社会構造の変革により個々人が考えなければならない問題が山積みされている。健康問題もその一つであり、その一役を担うのが体育・スポーツである。 そこで本科目を通じて、身体は勿論のこと、精神的・社会的健康を学ぶことを目的に、スポーツ実践に取り組んでもらう。						
到達目標 ・運動の必要性を考え、自らが積極的に運動に取り組む態度を身につける。 ・運動する上で、自身で安全管理ができるような態度を身につける。						
授業計画 第1回 オリエンテーション アイスブレイク 第2回 体ほぐしの運動、体づくり運動 第3回 フィットネストレーニング① 第4回 フィットネストレーニング② 第5回 フィットネストレーニング③ 第6回 フィットネストレーニング④ 第7回 器械運動① 第8回 器械運動② 第9回 ネット型運動① 第10回 ネット型運動② 第11回 ゴール型運動① 第12回 ゴール型運動② 第13回 ターゲット型 第14回 ベースボール型 第15回 まとめ（生涯スポーツを考える）及び確認テスト						
授業方法 実技を中心に展開するが必要に応じてグループワークを実施し、活動内容に関する課題について意見を出し合う場を設け双方向的な授業を展開する。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業は実技が中心となるため、スクーリング受講の1週間前より、1日1時間程度のウォーキングやストレッチ等の運動を行い体調管理（動ける体づくり）をしておく。（事前7.5時間） また、スクーリング終了後1週間は、運動の習慣付けを目的として1日1時間程度の運動を継続する。（事後7.5時間）						
受講上の注意事項 《持参する物》 運動に適した服装（ジャージ、Tシャツ、ショートパンツ等）、体育館シューズ、タオル、飲み物（水分補給用）。初日から運動を行う。 《注意事項》 母子の健康を最優先としますので、妊娠している方の体育実技を含むスクーリングの受講は認めません。						
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
評価基準 ・授業への取り組み 60% ・グループワーク 20% ・確認テスト 20%						
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。						
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。						

科目コード	10006	科目名 [単位数/学習時間]	健康行動学 [2 単位／90時間]				対面授業
テキスト	● 安部孝 瑠子友男 『これからの健康とスポーツの科学 第5版』 講談社						
ISBN	9784065180952	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26006		
科目担当		久永 将太					
実務経験のある教員による科目		スポーツ関連企業にて全世代の健康づくり（健康増進・競技力向上）サポート業務に従事					

科目の目的

わが国の平均寿命はここ数十年で飛躍的に伸び、世界でも有数の健康水準を誇る国となっている。しかし、豊かさがもたらす食過ぎや運動不足が引き起こす生活習慣病の増加や、それに伴う国民医療費の高騰など現代社会において多くの問題を抱えている。こうした現状で健康を維持・増進するには然るべき理論を理解し、実践方法を身につけることが必要となる。そこで本科目では、健康の問題を自分自身の生活を振り返ることから始め、今後の生活の中で健康を増進するための考え方を身につけるべく、基本的な知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

今日の情報化社会では、健康に関する情報が溢れている。おもにデジタルメディアから届けられるたくさんの健康情報を、キャッチーなコピーに惑わされることなく正否の判断を下すために必要な知識を身につけること。商業ベースのまことしやかな情報に流されない知的体力をつけることが、一つ目の到達目標である。

二つ目は、運動実践への意欲と積極的な態度の素地を身につけること。デジタルメディアの出現など様々な分野での「便利化」は、今も着実に進行中である。身体をそれほど使わなくても済む現代社会では、健康を維持するためには運動実践が必要不可欠である。そのためには、多くの人が抱えている「スポーツや体育への苦手意識」を払拭することも必要で、競技力を高めるための運動と、健康を維持・増進するためのそれとは根本的に異なる。この違いを理解することにより、運動実践への一歩を踏み出せるようになる。以上が本科目の到達目標である。

授業計画

第 1 回

オリエンテーション

・身近にある健康問題について

第 2 回

健康を推進するための生活スタイルとは①

・日本人は健康といえるのか？ ・食生活と健康 ・飲酒と喫煙 ・休養のとりかた

第 3 回

健康を推進するための生活スタイルとは②

・健康を脅かすものから身を守る

第 4 回

健康を推進するための生活スタイルとは③

・環境と健康 ・日本人のライフスタイル

第 5 回

運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？

・運動不足が生活習慣病を招く ・三大死因とライフスタイル
・運動習慣と死亡率の関連性 ・健康づくりのための身体活動基準および運動指針

第 6 回

肥満を改善するための方法

・安静時エネルギー代謝を高める ・運動と肥満との関係 ・食事と運動と肥満の関係

第 7 回

いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは

・猛暑での運動（暑熱環境） ・寒い環境での運動（寒冷環境） ・山地などでの運動（高所環境）

第 8 回

健康づくり運動－実践 1 基礎的な全身ストレッチなど

第 9 回

健康づくり運動－実践 2 エアロバイク、トレッドミル、体組成、マシントレーニングなど

第10回

健康づくり運動－実践 3 エアロバイク、ミニトラ、バランスボール、ストレッチボールなど

第11回

ストレスと運動

・運動はストレス解消に役立つか？ ・なぜ運動はストレスに対して効果的なのか？
・運動の負の側面 ・どのような生活をすればストレスに強くなれるのか？

第12回

栄養とスポーツ

・五大栄養素の役割 ・エネルギーや栄養素の摂取量 ・バランスのよい食事

第13回

健康づくり運動－実践 4 ピックルボールなど

第14回

加齢による筋萎縮に対する運動の役割

・加齢による筋萎縮と身体障害 ・高齢者における運動処方

第15回

健康概念のまとめと最終試験（60分）

授業方法

・グループディスカッションを挟みながら、テキストおよび配付資料による講義を中心に行う。

・第 8 回～第10回、及び第13回では、実技を予定している。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・日常生活で何気なく耳にし、目にする健康についての情報を記憶に留めておいてほしい。具体的には新聞や雑誌およびネットなどから健康関連の記事を切り抜き、それに対する疑問や自らの考えをメモしておく。（学習時間30時間）

・実技に向けての準備をしておくこと。行うのは息が切れるような激しい内容ではなく、あくまでも軽度の運動だが、怪我をする恐れがないわけではない。ウォーキングやジョギング、あるいは寝る前にストレッチを行うなど、怪我なく実りある実技を行うために自らの身体を整えておく。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

授業計画では2日目・3日目に実技を予定している。体育館シューズ、運動に適した服装（ジーパン、綿パンツ、スカートなど動きの制限される物は不可）、タオル、飲み物（水分補給用）を準備すること。初日は講義のみなので、これらの準備は2日目・3日目だけでよい。詳しくはスクーリング初日に説明する。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・最終試験 70%
- ・授業への取り組み 30%

参考文献

- ・必要に応じて配付する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10009	科目名 [単位数/学習時間]	日本国憲法〔2単位/90時間〕				対面授業
テキスト	● 君塚正臣 大江一平 松井直之 『大学生のための憲法 第2版』 法律文化社						
ISBN	9784589043344	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,500	生協 テキストNo.	26008		
科目担当		小野 晃正					
科目の目的 憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。 日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。 これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。							
到達目標 テキストを読み込み、日本国憲法の諸規定をめぐる紛争はどのようなものなのかについて、具体的事例をイメージできるようになる。その上で、具体的事例から憲法上の争点を抽出し、この争点を解決するための理論（判例や学説）を理解する。さらに、これらを論理的にまとめ、自分なりの結論を提示する能力を身につける。 本科目は試験（小テストや最終試験）を通じて、こうした諸点の能力を向上させることを最終的な到達目標とする。							
授業計画 第Ⅰ部 憲法総論 第1回 憲法と立憲主義 第2回 日本憲法史 国民主権の原理 基本的人権の尊重 平和主義の原理 第Ⅱ部 基本的人権 第3回 基本的人権の原理と限界 第4回 法の下での平等 第5回 精神的自由権① 内心の自由（思想良心の自由、信教の自由、学問の自由）、小テスト 第6回 精神的自由権② 表現の自由①（表現の自由の意味とその内容） 第7回 精神的自由権③ 表現の自由②（表現の自由の限界、集会・結社の自由、通信の秘密） 第8回 経済的自由権 職業選択の自由、居住・移転の自由 第9回 財産権の保障 第10回 人身の自由 適正手続の保障、被疑者・被告人の権利、小テスト 第11回 国務請求権・参政権・社会権、裁判を受ける権利、生存権・教育を受ける権利、労働基本権 第12回 包括的基本権 幸福追求権 第Ⅲ部 統治機構 第13回 国会と内閣 第14回 裁判所、地方自治、憲法の保障 第15回 講義のまとめ、確認テスト							
授業方法 - 授業方法は、質疑応答を交えつつ、講義形式で行う。 - 知識の定着をはかるため、適宜小テストを行う。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキストのはじめの数章を熟読したうえで、「近代憲法における立憲主義とはどのような考え方か」について1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング最終日に提出すること。（学習時間60時間）							
受講上の注意事項 受講日までに各自で指定テキストを必ず入手すること。							
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準 - 問題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか） 20% - 講義内容を理解しているか 80%							
参考文献 芦部信喜 『憲法 第8版』 岩波書店							

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	10022	科目名 [単位数/学習時間]	多文化社会 [2単位/90時間]	対面授業
テキスト	●スクーリング時に資料を配付する。			
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)	生協 テキストNo.	
科目担当	日比野 純一			
実務経験のある教員による科目	特定非営利活動法人理事、社会福祉法人評議員（在日外国人への多言語での情報提供事業、多文化共生のコミュニティづくり事業、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援事業など）			

科目の目的

多文化社会とは、多数者とは生活条件の異なる少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指し、本科目では、社会の周縁に位置づけられがちな人達（外国人、先住民族、女性、LGBTQ、貧困層、障害者など）の中で、特に外国人及び外国にルーツのある人達に焦点を当て、政治的・社会的・文化的な権利擁護、共存と相互理解について学ぶ。世界の多くの文化について学ぶ科目ではない。多文化共生のコミュニティづくり、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援、在日外国人等の生活相談、多文化共生のアドボカシーといった実務経験を活かして教授する。

到達目標

同質性の居心地の良さとその裏側にある異質な者を外国人、障害者、同性愛者、ホームレス、被差別部落出身者、先住民族、イスラム教徒などとレッテルを貼り排除してしまう現実が社会には依然として存在する。そこには“異質な者”も自分と同じ一人の人間であり、地域社会における生活者である視点が抜けており、無知とメディアからのステレオ的な情報がそれを後押しする。多文化社会の根幹をなす人権について深く理解し、異文化間対話を促進する力を身につけることが到達目標である。

授業計画

- 第1回 多文化社会が意味するもの
- 第2回 多様性と社会的排除
- 第3回 災害と在日外国人
- 第4回 移民がホスト社会で生きるとは① 地域社会からの考察
- 第5回 移民がホスト社会で生きるとは② 学校現場からの考察
- 第6回 多文化教育の可能性を探る
- 第7回 多文化社会と人権① 在日外国人の社会保障、保健医療、政治参加について考える
- 第8回 多文化社会と人権② 外国人労働者、難民の受け入れについて考える
- 第9回 差別（ヘイトスピーチなど）を生み出す背景を考える
- 第10回 地域社会と多文化共生－無理解、偏見、差別を越える① 国内外の事例考察
- 第11回 地域社会と多文化共生－無理解、偏見、差別を越える② グループディスカッション
- 第12回 外国人労働者の受け入れと日本社会の現実
- 第13回 マイノリティとアイデンティティ① 在日外国人からの発信
- 第14回 マイノリティとアイデンティティ② 先住民族アイヌの現在
- 第15回 多文化社会へ向けて私たちができること

授業方法

- ・DVD教材などを活用した講義とグループ学習を織り交ぜて行う。
- ・配付資料により講義を進める。
- ・グループ学習では、テーマに基づいた討議、発表を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・日本社会は今、さまざまな地域社会の働き手として外国人労働者に大きく依存している。外国人労働者が単に働き手としてだけでなく、地域社会の一員として受け入れていくことが求められている。そのためにはどのような取り組みが必要であるか、課題があるのか、自分の周りの環境にも照らし合わせ、またインターネットや新聞などを通じて調べ、**1,200字程度のレポートにまとめ（A4用紙でパソコン等による作成可）、「スクーリング受講許可証」到着後、スクーリング初日10日前＜最終日消印有効＞までに、レポート提出用封筒を使用して提出すること。**（学習時間30時間）
- ・スクーリング終了後は、講義で配付した資料と紹介したWEBページを読み、同じく紹介したオンライン上の動画を視聴すること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

対話型で行う時間を可能な限り多くとる。その時間は積極的に意見を述べることを期待する。スクーリング最終日の試験は、持ち込み一切不可で行う。なお、障害を有し、意見を述べにくい受講生は、特性に応じて配慮する。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・最終レポート 60%
- ・授業中レポート 20%
- ・授業への取り組み姿勢 20%

参考文献

- ・高谷幸 『移民政策とは何か』 人文書院
- ・吉富志津代 『同級生は外国人！？多文化共生を考えよう①②③』 汐文社
- ・吉富志津代 『多文化共生社会と外国人コミュニティの力 ゲットー化しない自助組織は存在するか？』 現代人文社
- ・吉富志津代 『複数言語で育つ子どもたちの可能性ーボリビアの日系人からの学び』 現代人文社
- ・落合知子 『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー NPOと学校、子どもたちの育ちゆく現場から』 現代人文社
- ・吉富志津代 日比野純一 『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』 PHD協会
- ・萱野茂 『アイヌの碑』 朝日新聞出版
- ・田中宏 『在日外国人 法の壁、心の溝』 岩波書店
- ・毛受敏浩 鈴木江理子 『「多文化パワー」社会 多文化共生を超えて』 明石書店
- ・駒井洋 鈴木江理子 『東日本大震災と外国人移住者たち』 明石書店
- ・加藤直樹 『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』 ころから
- ・宗田勝也 『誰もが難民になりうる時代にー福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 現代企画室
- ・安田浩一 『ネットと愛国』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10024	科目名 [単位数/学習時間]	情報と社会 [2単位/90時間]				対面授業
テキスト	● 駒谷昇一 山川修 『IT Text 一般教育シリーズ 情報とネットワーク社会』 オーム社						
ISBN	9784274211218	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26021		
科目担当		河原 優子					
科目の目的 情報技術やインターネットの発展に伴い、社会生活は大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術とコミュニケーションの方法、社会の変化について理解するとともに、社会を支え、企業活動に利用されている情報システムの役割と性質について学ぶ。							
到達目標 ・コンピュータやインターネットなどの情報技術がどのように発展したのかを説明することができる。 ・情報技術の進展によって、日常生活と社会にどのような変化が起きたのか、具体例を用いて述べることができる。 ・情報社会の利点と問題点について、さまざまな視点から説明することができる。							
授業計画 第1回 情報と人間の関わり<情報とは何かを、メディアやコミュニケーションとの関わりから学ぶ> 第2回 ユーザインタフェース<ユーザインタフェースとアクセシビリティの基本的な考え方について学ぶ> 第3回 情報とネットワーク<インターネットと情報技術の歴史について学ぶ> 第4回 情報社会のコミュニケーション<技術的な観点からコミュニケーションとメディアについて学ぶ> 第5回 情報ネットワークと知的財産<情報技術と知的財産の関係について学ぶ> 第6回 情報社会と法<知的財産権や個人情報保護に関する法律について学び、情報倫理について理解する> 第7回 情報ネットワークのしくみ<インターネットの仕組みと、代表的なアプリケーションである WWW と E-mail について学ぶ> 第8回 インターネットとデータベース<検索エンジンの効果的な利用方法を学び、情報検索の仕組みを理解する> 第9回 情報システム<社会基盤となっている情報システムについて学ぶ> 第10回 企業活動と情報システム<企業が活用している情報システムについて学ぶ> 第11回 情報システムと社会<情報ネットワークと技術の動向について学ぶ> 第12回 情報セキュリティ<情報セキュリティについて理解し、インターネット被害とその対策方法について学ぶ> 第13回 情報と社会の変化<コンピュータやインターネットなどの情報技術の発展が社会にどのような影響を与えてきたかを学ぶ> 第14回 情報社会のメリットとデメリット<インターネットの発展によってもたらされた様々な社会への影響と課題について学ぶ> 第15回 まとめ<今後の情報社会のあり方について考える>および試験							
授業方法 講義形式の授業を基本とするが、場合によってワークショップ形式やディスカッション、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを織り交ぜながら進める。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・①日常生活の中で、インターネットや、スマートフォン・パソコンなどのアプリや生成AIをどのように利用しているか、具体例を挙げて説明する（600字程度）。②もしインターネットやアプリがなかったら、どのように生活していると思うかを説明する（600字程度）。それぞれA4用紙にまとめ（パソコン等による作成可）、スクーリング初日に提出すること。 (学習時間55時間) ・1日目と2日目の授業内容について、感想と疑問をまとめた小レポートを作成し、それぞれの翌日に提出する。 (学習時間 5 時間)							
受講上の注意事項 ・日常生活に使われている情報技術について調べる。例) インターネットバンキング、カーナビゲーションシステムなど。 ・テキストは必ず持参すること。 ・スクーリング最終日に試験を実施する。テキスト、自筆の講義ノートのみ持ち込み可。							
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準 ・最終試験 50% ・授業中の発表やディスカッションなど授業中の積極性（含む授業後提出小レポート） 30% ・事前レポート 20%							
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の X）を参照すること。							
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	10026	科目名 [単位数/学習時間]	国際理解教育論 [2単位/90時間]				対面授業
テキスト	● 田中治彦 三宅隆史 湯本浩之 『SDGsと開発教育—持続可能な開発目標のための学び』 学文社						
ISBN	9784762026492	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,000	生協 テキストNo.	26022		
科目担当		江原 等子					

科目の目的

本科目の目的は、現在私たちが生きている世界の特徴と状況を知り、人類共通の課題を考察する仕方を身につけることである。国際理解、開発援助、多文化共生といった国連やUNESCOの主導してきた枠組みを学び、一人の地球市民としてどのように他者と共に生きていくのかを探究する。具体的には、貧富の格差、環境問題、戦争と平和、ジェンダーに基づく差別、移民や難民といったテーマを取り上げる。これらの問題を、グローバルな視点を持ちながら、かつ自分自身の経験や生活と結びつけて理解することを目指す。

到達目標

人類共通の課題を、その構造や歴史的経緯を把握し、同時に自分自身の考え方や感じ方、生活の仕方を振り返りながら考えることができるようになること。地球規模でのつながりを読みとる視点と、課題の克服に向けて必要な基礎的な知識を身につけること。

授業計画

第1回

導入：オリエンテーション（国際理解教育とは、進め方、評価方法、課題や最終試験について）

第2回

文化とその多様性について考える

第3回

国家の主権とはなにか

第4回

紛争

第5回

難民

第6回

移民

第7回

人種差別

第8回

南北問題

第9回

貧困と格差①

第10回

貧困と格差②

第11回

ジェンダーに基づく差別

第12回

性暴力

第13回

映画視聴①

第14回

映画視聴②

第15回

最終試験とまとめ

授業方法

講義と参加型で行う。（講義、DVD映像、配付資料講読、テキスト内容についてのディスカッション）

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。特に、開発教育を紹介する第1章（pp.2-17）、グローバル化について論じている第3章（pp.38-55）、SDGsについて説明する第4章（pp.58-74）は、各章の概要をノートにまとめておくこと。また、第8章（pp.136-157）、第10章（pp.176-191）、第13章（pp.235-254）、第14章（pp.255-272）で取り上げられている人類共通の課題の要点を把握しておくこと。（学習時間30時間）

・スクーリング受講後は、授業で取り上げた内容の中から、興味あるテーマを1つ選び、授業で紹介する書籍のうちの1冊を読みこんで、さらなる学習を進めること。また、各自の仕事や地域活動、家庭において、学んだ視点や知識を具体的に活用してみること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

・グループ活動を行ったり話し合ったりするので、積極的に参加すること。

・テキストについては、印象に残った点を出し合って話し合う。

・最終試験は、配付資料やノート、テキストの持ち込み可。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

・最終試験 40%

・課題 30%

・授業への取り組み 30%

参考文献

・日本国際理解教育学会 『国際理解教育ハンドブック—グローバル・シティズンシップを育む』 明石書店

・クロード・レヴィ＝ストロース 『人種と歴史』 みすず書房

・ジョルジョ・アガンベン 『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』 以文社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10028	科目名 [単位数/学習時間]	環境教育論 [2単位/90時間]				対面授業
テキスト	● 今井清一 今井良一 『環境教育論 現代社会と生活環境 増補改訂版』 鳥影社						
ISBN	9784862658104	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26023		
科目担当		天野 雅夫					

科目の目的

日本における環境問題は、はじめは地域的な公害として顕在化したが、近年では新たな問題として地球規模の環境問題が現われてきた。それらは、大気・土壌・海洋汚染、森林破壊、ダイオキシンの脅威、オゾン層の破壊、地球温暖化の問題など、多様化し深刻化しつつある。こうした環境問題を解決するためには、各人が人間と環境とのかかわりについて理解し、行動力を身につけることが必要である。そこで本科目では、実際の環境教育活動を紹介し、感じ、考え、行動し、持続可能な社会をつくるために必要な環境教育について考究する。

到達目標

環境教育とは、環境全体とそれに関連する問題に対する「①気づき」と感性を身につけ、自らが責任ある存在であり役割を負うことを「②知識」として理解し、環境に対する社会的価値基準と環境を気づかう気持ち、および環境の保護と改善に積極的に参加する「③態度」を養い、環境問題を解決する「④技能」を身につけ、環境対策や教育プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的、教育的観点から「⑤評価」し、そして最後にこれらの活動に「⑥参加」し、適切な行動をとれるようにすることがその目標である（ベオグラード憲章）。従って、本科目では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。

授業計画

第1回 環境問題と環境教育について
第2回 地球温暖化・気候変動による環境への影響について考える
第3回 地球温暖化・気候変動における政府の対策、民間の活動について考える
第4回 PM2.5についてその原因や環境、健康に及ぼす影響について考える
第5回 合成洗剤と水の環境汚染、日本の下水道や水の利用について考える
第6回 水源の涵養と環境保全の取り組みについて考える
第7回 放射線と環境破壊について考える
第8回 里山の保全と生態系について考える
第9回 里山における環境教育の実践について考える
第10回 食生活の変化と輸入食品の氾濫、その危険性について考える
第11回 遺伝子組み換え食品の危険性について考える
第12回 農薬、ポストハーベスト、食品添加物について考える
第13回 食生活における安全性や地産地消の取り組みについて考える
第14回 グループ討論によりいくつかの班に分かれて環境問題の解決について考える
第15回 まとめ（各グループの討論結果の発表とコメント：30分）と確認（試験：60分）

授業方法

テキストを中心とした講義形式の授業で、ノートを正確に筆記することによって講義内容を理解する。また、講義中に適時、関連する書籍の紹介やDVD等による映像の鑑賞をする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・スクーリング受講までに、テキスト各章の四角で囲まれた部分を読んで予習をしておくこと。（学習時間25時間）
・スクーリング受講までに、テキストの中から関心のある環境問題を一つ選び、その解決方法として考えられる実践を1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間10時間）
・スクーリング受講後は、テキストを読み自分の関心のあることについて調べ、配付資料およびノートを参考にして対応を考え、自分の生活の中にどのように取り入れていくかを考える。（学習時間25時間）

受講上の注意事項

・グループ討論を行い、KJ法による整理の後、発表する。
・スクーリング最終日の試験は、手書きノートおよび配付資料を持ち込み可とするので、ノートには授業内容を簡潔にまとめて筆記しておくこと。
・テキストは必ず持参すること。
・3日目で実習をするのでハサミか定規を持ってくること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ①最終試験による（筆記試験を実施する※最終時間に実施） 50%
 - ・ 解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。
 - ・ 誤字脱字には注意し、自分の考えを十分に説明していること。
 - ・ 授業の内容を理解したうえで、自ら何ができるかを考察し、答案に反映すること。
- ②授業への取り組み（初日提出のレポート、授業態度、関心・意欲、発表・表現などにより評価する） 25%
- ③その他（KJ法を使って情報を共有する方法や、自分の意見を正確に他人に伝えることができるかどうかを小レポートで確認する） 25%

参考文献

- ・ 日本環境教育学会 『環境教育』 教育出版
- ・ 水山光春 『よくわかる環境教育 やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10030	科目名 [単位数/学習時間]	総合英語 [2単位/90時間]			遠隔 (リアルタイムオンライン)	
テキスト	● 相羽千州子 藤原真知子 『Hello, English - English for Teachers of Children - 』 成美堂						
ISBN	9784791947973	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26004		
科目担当		平松 さやか					

科目の目的

基本的な文法・語法を確認しつつ、英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）をバランス良く取り入れて学習していく。実践的な「聴く・話す」ばかりではなく「読み・書き（academic writing）」も総合的に含めた科目と理解しておく。時間の許す限りディスカッション、グループワークも取り入れて英語のアウトプットの時間も設ける。

到達目標

- ・基礎的な英語の4技能（読み・書き・聴き・話す）に重点を置き、さらに語彙・発音の知識も習得する。
- ・状況に適した英語表現をなるべく自然に使えるようになる。
- ・英語を積極的に使い、学ぶと同時に英語と日本語の構造や概念の違いも意識できるようになる。

授業計画

第1回

Unit 1 : ALT's First Visit to Miami Elementary School

第2回

Unit 2 : Getting to Know Each Other

第3回

Unit 3 : School Lunch

第4回

Unit 4 : Play Time

第5回

Unit 5 : The First English Class

第6回

Unit 6 : Teaching Numbers1 / Unit7 : Teaching Numbers2

第7回

Unit 8 : Reflection

第8回

Unit 9 : Activities at a Kindergarten

第9回

Unit 10 : Growing Plants and Observing the Butterfly Lifecycle

第10回

Unit 11 : Making Onigiri and Curry chantsで英語の発音、リズムを学習

第11回

Unit 12 : Making a Town Map

第12回

Unit 13 : Introducing Japanese Culture

第13回

Unit 14 : Evacuation Drills

第14回

Unit 15 : Graduation

第15回

全体の振り返り、質疑応答と試験

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

授業では、英語の発音の特徴にも気を配りながら、日常的に使用する英語表現を学習し、受講生が発話できるよう練習を重ねる。ペアまたはグループワークにより受講生同士が交流を図りやすくする。童謡や英語の絵本など様々なマテリアルを使用しつつ、英語を学ぶ楽しさを見出していく。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講許可後に英語 40words 以上で回答するアンケートを実施する。各自の英語力を事前に判断するので、期限を守って必ず提出すること。この作文をもとに授業内でacademic writingを学び、スクーリング最終日に行う試験までに書き方を習得する。また、テキストのダウンロード可能な音声部分を繰り返し聞き、空欄を埋める問題を解き、予習・復習に役立ててほしい。準備学習として、上記の「授業計画」に記載の範囲Unit 1 -15部分の内容確認と英語の耳慣らし時間を確保するとよい。事前に質問を準備しスクーリング時に担当者に確認すると、各自の学びをより深めることもできる。(学習時間60時間)

受講上の注意事項

- ・テキストは、余裕をもってスクーリング前に必ず購入すること。
- ・英語辞書も紙／電子問わず手元にあると役立つため、準備しておくとうい。 (携帯のアプリ辞書は不向きではあるが、他に所持していない場合は科目担当者に申し出てから使用すること。)
- ・ペアワーク、グループワークを取り入れるので、積極的、協調的な授業参加が望ましい。
- ・スクーリング最終日に行う試験については、初日に詳細を説明する。
- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。特にディスカッションに参加しない者、一定時間応答がない者は、欠席もしくは早退等とみなし成績に反映させる。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

真摯な受講態度で授業に臨み、必要な提出物課題に取り組み、授業で学んだ内容を理解していること。

- ・発表、プレゼンテーションを含む積極性 20%
- ・文法、語彙知識の理解度および英語表現の習得 50%
- ・授業内での提出物課題 30%

参考文献

・南出康世 中邑光男 『ジーニアス英和辞典（第6版）』 大修館書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	10031	科目名 [単位数/学習時間]	スポーツ実技〔2単位／90時間〕			対面授業																																													
テキスト																																																			
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.																																															
科目担当		山中 裕太																																																	
科目の目的 現代社会は、物の豊かさをわれわれに与えてくれ、運動や労働による身体活動を奪った。また、医療の発達により平均寿命が80余才と超高齢化社会を迎えた。このような社会構造の変革により個々人が考えなければならない問題が山積みされている。健康問題もその一つであり、その一役を担うのが体育・スポーツである。 そこで本科目を通じて、身体は勿論のこと、精神的・社会的健康を学ぶことを目的に、スポーツ実践に取り組んでもらう。																																																			
到達目標 ・運動の必要性を考え、自らが積極的に運動に取り組む態度を身につける。 ・運動する上で、自身で安全管理ができるような態度を身につける。																																																			
授業計画 <table><tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション</td><td>アイスブレイク</td></tr><tr><td>第2回</td><td>体ほぐしの運動、体づくり運動</td><td></td></tr><tr><td>第3回</td><td>フィットネストレーニング①</td><td></td></tr><tr><td>第4回</td><td>フィットネストレーニング②</td><td></td></tr><tr><td>第5回</td><td>フィットネストレーニング③</td><td></td></tr><tr><td>第6回</td><td>フィットネストレーニング④</td><td></td></tr><tr><td>第7回</td><td>器械運動①</td><td></td></tr><tr><td>第8回</td><td>器械運動②</td><td></td></tr><tr><td>第9回</td><td>ネット型運動①</td><td></td></tr><tr><td>第10回</td><td>ネット型運動②</td><td></td></tr><tr><td>第11回</td><td>ゴール型運動①</td><td></td></tr><tr><td>第12回</td><td>ゴール型運動②</td><td></td></tr><tr><td>第13回</td><td>ターゲット型</td><td></td></tr><tr><td>第14回</td><td>ベースボール型</td><td></td></tr><tr><td>第15回</td><td>まとめ（生涯スポーツを考える）及び確認テスト</td><td></td></tr></table>							第1回	オリエンテーション	アイスブレイク	第2回	体ほぐしの運動、体づくり運動		第3回	フィットネストレーニング①		第4回	フィットネストレーニング②		第5回	フィットネストレーニング③		第6回	フィットネストレーニング④		第7回	器械運動①		第8回	器械運動②		第9回	ネット型運動①		第10回	ネット型運動②		第11回	ゴール型運動①		第12回	ゴール型運動②		第13回	ターゲット型		第14回	ベースボール型		第15回	まとめ（生涯スポーツを考える）及び確認テスト	
第1回	オリエンテーション	アイスブレイク																																																	
第2回	体ほぐしの運動、体づくり運動																																																		
第3回	フィットネストレーニング①																																																		
第4回	フィットネストレーニング②																																																		
第5回	フィットネストレーニング③																																																		
第6回	フィットネストレーニング④																																																		
第7回	器械運動①																																																		
第8回	器械運動②																																																		
第9回	ネット型運動①																																																		
第10回	ネット型運動②																																																		
第11回	ゴール型運動①																																																		
第12回	ゴール型運動②																																																		
第13回	ターゲット型																																																		
第14回	ベースボール型																																																		
第15回	まとめ（生涯スポーツを考える）及び確認テスト																																																		
授業方法 実技を中心に展開するが必要に応じてグループワークを実施し、活動内容に関する課題について意見を出し合う場を設け双方向的な授業を展開する。																																																			
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 授業は実技が中心となるため、スクーリング受講の2週間前より、1日1時間程度のウォーキングやジョギング等の運動を行い体調管理（動ける体づくり）をしておく。（事前17時間） また、授業計画に記載してある種目について事前に調べ、運動内容について理解を深めておく。（予習20時間） また、スクーリング期間中においては、ストレッチなどを行い翌日に疲労を残さないようにする。（3時間） さらに、スクーリング終了後2週間は1日1時間程度の運動を継続し、運動習慣の獲得を目指す。（事後20時間）																																																			
受講上の注意事項 《持参する物》 運動に適した服装（ジャージ、Tシャツ、ショートパンツ等）、体育館シューズ、タオル、飲み物（水分補給用）。初日から運動を行う。 《注意事項》 母子の健康を最優先としますので、妊娠している方の体育実技を含むスクーリングの受講は認めません。																																																			
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。																																																			
評価基準 ・授業への取り組み 60% ・グループワーク 20% ・確認テスト 20%																																																			
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。																																																			
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。																																																			

教育学科・児童教育学科専門教育科目群

科目コード	20000	科目名 [単位数/学習時間]	教育原理〔2単位／90時間〕				対面授業
テキスト	● 広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 上巻』 風間書房						
ISBN	9784759922172	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,700	生協 テキストNo.	26024		
科目担当		廣岡 義之					
科目の目的							
今日、教育と子どもをめぐる問題がクローズアップされている。教育の在りようはもとより社会の在り方が根本的に問われているといえる。このような社会的背景をもとに、本科目では、教育とはなにか、について、さまざまな観点からアプローチし、その原理的な理解を深めることを目的とする。そのことによって、教育に関する基本的な知識と知見を養う。							
到達目標							
テキストを精読することが大切である。また、この章立てには順序性もあり、この順序で読むことが重要である。（スクーリング受講までに必ず一読して予習をしっかりとしておくこと。） もう1つの目標として、テーマが教育なので、自分なりの問題意識の射程内で、読み、考察することが必要である。							
授業計画							
第1回 オリエンテーション：教育原理を学ぶことの意味 第2回 教育学の根本問題① 開かれた問いの原理 <テキスト第2章第1節1～3> 第3回 教育学の根本問題② 教育の連続性と非連続性 <テキスト第2章第1節6> 第4回 現代における教育の時間論 <テキスト第2章第2節1～4> 第5回 現代における教育の空間論 <テキスト第2章第3節1～5> 第6回 言語の教育学的意義 <テキスト第2章第4節1～4> 第7回 教育における真理論 <テキスト第2章第5節1～4> 第8回 危機概念の教育学的意義 <テキスト第2章第6節1～5> 第9回 教育に関する集団討論① 第10回 教育における経験論 <テキスト第3章第2節1～4> 第11回 教師と生徒の信頼関係 <テキスト第4章第1節1～4> 第12回 代表的教育者（フレーベル等）のビデオ鑑賞 第13回 教育に関する集団討論② 第14回 練習の精神の教育学的意義 <補論第1章第1節～第5節> 第15回 まとめと確認：第14回までの講義のふりかえりを受講生の感想とともにシェアする。							
授業方法							
・提示したテーマについてグループでの議論および発表を数回行う。 ・教育の実践に関する映像資料を用いることもある。 ・各講義に必要な資料を配付することもある。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
・スクーリング受講までに、テキストをすべて読んでおくこと。（学習時間20時間） ・スクーリング受講後には、テキストをしっかりと読んで、講義の内容を復習すること。（学習時間15時間） ・スクーリング受講後には、各回の講義ノートを作成する。たんなる講義のメモではなく、テキストを参照したり、講義で使われたキーワードを使ったりしながら、自分の言葉で講義の内容を整理すること。（学習時間15時間） ・スクーリング受講後には、講義で紹介した参考文献等を利用し、スクーリングでの学習内容をさらに深めること。（学習時間10時間）							
受講上の注意事項							
・テキストは初日から必ず持参すること。事前に上記テーマについて予習しておくこと。 ・配付資料は、スクーリング受講後に復習する必要があるので整理して保存すること。 ・スクーリング最終日の試験は、テキストおよび自筆ノートのみ持ち込みを可とする。 ・講義中の私語など、他の学生に迷惑を及ぼす行為には厳しく対応する。							
生成AIの利用について							
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準							
・最終試験 50% ・授業への取り組み（コメントペーパーの記入、グループ討議への参加） 50%							
参考文献							
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）<平成29年3月>』 東京書籍又は文部科学省HP ・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』 ミネルヴァ書房							

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20012	科目名 [単位数/学習時間]	理科 [2 単位/90時間]					対面授業
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍							
ISBN	9784487287048	本体価格(円) (2026年1月現在)	189	生協 テキストNo.	26035	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		「親和通信」で連絡						
実務経験のある教員による科目		公立中学校主幹教諭・教諭（理科）、公立高等学校非常勤講師						
科目の目的								
社会人の素養としての自然科学の成果を正しく理解し、地球環境問題と自然災害の問題について、地球史・人類史の視点からアプローチするための基礎学力を養う。地球環境問題の解決と火山や地震など自然災害を軽減することは人類が直面する重要な現代的課題である。その理解のためには、地球がどのように誕生し、生物と人類がどのように環境とかかわってきたかについて理解する必要がある。地球史と人類史、身近な環境問題について科学的で主体的な判断ができることをめざす。 様々な実験観察を行い、身近な自然の教材化や実験・観察の基本的な技能、科学的に解決する指導法や問題解決能力の育成、理科の実践的指導力の基礎の習得を目指す。実務経験を活かして、教授する。								
到達目標								
・地球史、人類史の基礎知識と科学的な考え方を身につける。 ・自然を科学的に認識する化学・物理学の概念・法則の基本を理解する。 ・基本的な実験と観察を通して自然を理解する技術を身につける。 ・小学校理科教育の目標及び各学年の学習内容について理解する。								
授業計画								
第 1 回 オリエンテーション、人類の誕生 <実習>NHK for School YouTubeの活用 第 2 回 人類の進化とホモサピエンスの誕生 <実験>火をつくる、理科室における火の扱い 第 3 回 ホモサピエンスの世界拡散と文明の誕生、日本人のルーツ <実験>ピーカーで米を炊く 第 4 回 地球と月と太陽の特長と違い <実験>地球の石と月の石を観察する 第 5 回 宇宙の誕生と進化 <実験>宇宙で最も多い元素、人が生きていくために必要な元素 第 6 回 星の進化と太陽系の誕生 <実験>二酸化炭素の化学 第 7 回 地球の誕生と生命の誕生 <実験>細胞の観察・人工細胞をつくる 第 8 回 地球と生物の共進化① <実験>海藻、コケ類、シダ植物、種子植物の観察 第 9 回 地球と生物の共進化② <実験>ちりめんモンスター・化石の観察 第10回 なぜ日本は地震が多いのか～六甲変動と近畿地方の大地の成り立ち <実験>非常食を考える 第11回 日本列島の成り立ち <実験>近畿地方の地質図を作成しよう 第12回 SDGs・ESDについて指導できる教師になろう <実験>コイルモーターを作ろう 第13回 小学校理科のカリキュラムと教科書 <実験>デジタル教科書を使ってみよう 第14回 小学校の電気教材を体験しよう <実験> 3 ～ 6 年生の電気教材 ミクロの世界～生物顕微鏡と双眼実体顕微鏡 <実験>微生物や砂粒・火山灰等の観察 第15回 地球と人類の未来を考える～総括レポート・課題実験								
授業方法								
・各回で次の方法を組み合わせて行う。【講義、グループワーク、観察、実験、実習】 ・各回のテーマにそったワークシートを用意する。パワーポイント、資料映像等を見ながら各回のテーマについて学習を深める。理科の授業との関連を考えながら授業を展開する。 ・関連する実験を、グループで協力して楽しく行う。レポート 1 日分をまとめて翌日に提出すること。 ・3 日目の第15回目には課題テスト（総括レポートの作成）を行う。配付したワークシート類は持ち込み可とする。また、「課題実験」は、教科書に記載された観察実験の中から 1 つを選んで、実際に取り組む。実験の目標、準備、方法、結果、考察等をまとめたレポートが課題となる。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
<スクーリング受講前（予習）> テキストの内容、特に第 2 章（pp.24-101）の各学年の目標及び内容については十分予習しておくこと。（学習時間30時間）								
<スクーリング受講後（復習）> 毎回の授業の内容を復習し、ワークシートの内容を十分把握しておくこと。（学習時間30時間）								
受講上の注意事項								
・授業内容はやや専門的な部分もあるが、基本的には中学校で学んだ内容がほとんどである。ESDやSDGs等の新しい考え方も含まれる。 ・観察、実験等の活動には積極的に参加すること。								
生成AIの利用について								
本科目の課題等作成においては、生成AIの利用は認めない。								

評価基準

- ・ 1 日目・ 2 日目の提出レポート 各30%
- ・ 総括レポート 20%
- ・ 課題実験レポート 20%

参考文献

- ・ 文部科学省検定済 小学校理科の教科書（3 年～ 6 年）※理科室で自由に見ることができる

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20014	科目名 [単位数/学習時間]	体育 [1 単位／45時間]			対面授業
テキスト	● 必要に応じてスクーリング時に資料を配付する。					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		田中 聡				
実務経験のある教員による科目		教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				
科目の目的						
幼児、児童が習得していく運動遊び・運動種目について、運動実技の体験を通し、基礎的な運動技能やその楽しさの特性、指導法を理解・習得していく。さらに運動遊びや運動の実技を通して、幼児や児童の全人的な発育・発達と運動実践との関係を考える機会とする。						
到達目標						
・ 子どもの発達段階に応じた適切な運動、運動遊びの実施方法を知る。 ・ 幼児、児童が習得していく基礎的な運動技能について、実技を通して理解する。 ・ 実技を行う中で、各種の運動遊び、運動種目特有の楽しさを、「運動特性」として体験的に理解する。 ・ 各種運動遊び、運動種目における運動技術や支援方法、指導方法を身に付ける。						
授業計画						
第 1 回 体ほぐしの運動①ーペアを中心にー 第 2 回 体ほぐしの運動②ー用具を用いてー 第 3 回 体ほぐしの運動③ー「気づき」をテーマにー、小学校低学年の体育①ー体ほぐしの運動遊びー 第 4 回 小学校低学年の体育②ー幼児期の運動遊びと小学校低学年の運動遊びの接続ー 第 5 回 小学校低学年の体育③ー身近な用具を使った幼児期の運動遊びー 第 6 回 器械運動① マット運動 第 7 回 器械運動② 跳び箱運動 第 8 回 器械運動③ 鉄棒運動、陸上運動① 短距離・リレー 第 9 回 陸上運動② ハードル走 第10回 陸上運動③ 走り幅跳びと走り高跳び 第11回 ボール運動① ゴール型 第12回 ボール運動② ネット型 第13回 ボール運動③ ベースボール型、表現運動① リズム遊び 第14回 表現運動② 表現 第15回 表現運動③ リズムダンス・フォークダンス						
授業方法						
6 つの運動領域について運動実技中心に行う。各運動領域の実技にあたっては内容に応じて小グループを作り活動する。また、実技内容に関する解説を随時行う。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業では、小学校体育の運動領域より、体づくり運動・器械運動・陸上運動・ボール運動・表現運動の 5 領域の運動実技、そして、幼児教育から小学校体育への接続を意識するために幼児教育の中で取り上げられる運動遊びに関する運動実技を行う。これらの運動領域の実技内容については、小学校学習指導要領ならびに指導要領解説・体育編に記載、例示されている技能内容、また文部科学省「幼児期運動指針」を事前に理解した上で受講し、さらに受講後に確認することが望まれる。(学習時間＜予習・復習＞15時間) 実際に学校園現場で指導すべき実技内容、望ましい運動経験をふまえた上で体験的に学んでほしい。						
受講上の注意事項						
《持参する物》 運動着（ジャージ等）、体育館シューズ、フェイスタオル、飲み物（水分補給用）、筆記用具 本科目では運動実技を行う。上記の物を毎回準備すること。指導者も実技内容には配慮するが、1 日の授業（実技）は長時間となり、それなりに体力が必要となる。けが防止のために、スクーリングまでに体を動かしておくこと。 《注意事項》 母子の健康を最優先としますので、妊娠している方の体育実技を含むスクーリングの受講は認めません。						
生成AIの利用について						
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
評価基準						
・ 授業への取り組み 80％ ・ 実技技能・指導法理解 20％						

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼児期運動指針ガイドブック＜平成24年 3 月＞』
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
- ・クルト・マイネル 『スポーツ運動学』 大修館出版
※その他「スポーツ運動学」の名称がつく専門書、入門書

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20049	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・理科 [2単位/90時間]					遠隔 + 対面
テキスト	● 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編＜平成29年7月＞』 東京書籍							
ISBN	9784487287048	本体価格(円) (2026年1月現在)	189	生協 テキストNo.	26035	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		「親和通信」で連絡						
実務経験のある教員による科目		公立中学校主幹教諭・教諭（理科）、公立高等学校非常勤講師						
科目の目的								
小学校学習指導要領に示されている「理科の目標」をふまえて、各学年・各分野において、何をどのように学ばせるのかを課題として、指導計画・指導案の作成、教材研究、観察・実験の計画、準備、実施などを実践的に学習する。学校現場での理科指導、授業研究等の実務経験を生かして、小学校理科教育の面白さや楽しさ、等を伝えるとともに、理科に対する苦手意識の払拭に努める。実践的な指導力を身につけるために、グループでの指導案づくりや対面での模擬授業の実施など、多様な学習形態、方法を組み合わせて授業を進める。								
到達目標								
・ 小学校理科の目標と学習内容について理解する。 ・ 理科教育における学習指導法、実験観察法、評価法などについて理解する。 ・ 理科の授業を設計し、学習指導案を作成し、それに基づき授業展開できる力を身につける。 ・ 観察・実験の基本操作と情報機器の利用等の知識と技術を身につける。								
授業計画								
第1回	【オンライン】	オリエンテーション、理科では何を学ぶか、理科の授業の進め方について グループワーク①自己紹介とチーム作り						
第2回	【オンライン】	学習指導要領に示される小学校理科の目標と内容、教育課程と単元構成 理科における学習指導案の書き方、学習評価						
第3回	【オンライン】	模擬授業に向けた学習指導案づくり① 授業準備のためのグループワーク②（授業計画、単元指導計画等の策定）						
第4回	【オンライン】	模擬授業に向けた学習指導案づくり② 授業準備のためのグループワーク③（模擬授業・学習指導案の役割分担）						
第5回	【オンライン】	模擬授業に向けた学習指導案づくり③ 授業準備のためのグループワーク④（学習指導案づくり）						
第6回	【オンデマンド】	理科の目標と内容、3・4年生の学習内容と観察・実験のポイント（テキストでの学習と課題提出）						
第7回	【オンデマンド】	5・6年生の学習内容と観察・実験のポイント（テキストでの学習と課題提出）						
第8回	【オンデマンド】	指導計画の作成と内容の取扱い（テキストでの学習と課題提出）						
第9回	【オンデマンド】	模擬授業の学習指導案作成とミニ模擬授業の実施①						
第10回	【オンデマンド】	模擬授業の学習指導案作成とミニ模擬授業の実施② 模擬授業の学習指導案提出						
第11回	【対面】	模擬授業に向けた準備、予備実験、ミニ模擬授業の実施【理科室】 デジタル教科書などを含めたICTの活用						
第12回	【対面】	模擬授業の実施①② 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）【理科室】						
第13回	【対面】	模擬授業の実施③④ 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）【理科室】						
第14回	【対面】	模擬授業の実施⑤⑥ 地球・物質・エネルギー分野の観察・実験を中心とした模擬授業（反省会・授業評価等も含める）【理科室】						
第15回	【対面】	模擬授業の実施⑦ 総括レポートの作成【理科室】						
授業方法								
・ 第1～5回＜スクーリング1日目＞は、Microsoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業＜模擬授業実施に向けたグループワーク（学習指導案づくり、模擬授業の準備）を含む。＞ オンライン授業で、実質的に参加できない者や応答のない者は、欠席・早退等とみなし、成績に反映する。確実に双方向で応答できるようにすること（Webカメラ・マイクが必要）。								
・ 第6～10回は、Microsoft Teamsを利用したオンデマンド（非同期型）授業 テキストをよく読んでその内容を理解し、レポートをFormsアンケートに回答する形で提出する。学習指導案づくりは、グループで行うので、お互いによく相談ができるようにしておく。								
・ 第11～15回＜スクーリング2日目＞は、本学キャンパスでの対面授業								

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講前には、次の予習を行うこと。 ※①～⑩は、それぞれ学習時間 3 時間とする。
 - ①テキストのpp. 1-11を読み、指導要領改訂の経緯・基本方針、趣旨・要点を理解する。
 - ②テキストのpp.12-28を読み、理科の目標と内容構成を理解する。
 - ③テキストのpp.29-44を読み、3 学年の目標と内容を理解する。
 - ④テキストのpp.45-60を読み、4 学年の目標と内容を理解する。
 - ⑤テキストのpp.61-74を読み、5 学年の目標と内容を理解する。
 - ⑥テキストのpp.75-93を読み、6 学年の目標と内容を理解する。
 - ⑦テキストのpp.94-103を読み、指導計画の作成を理解する。
 - ⑧3～6 年の内容、単元等をよく見て、模擬授業を行う実験・教材を 2～3 時間分選んでおく。
 - ⑨⑧で選んだ模擬授業の該当学年については、年間指導計画を調べてその資料を準備しておく。
 - ⑩⑧で選んだ模擬授業が含まれる単元の指導計画、評価計画を調べ、その資料を準備しておく。
 ※⑨⑩については、教科書会社のホームページを参考にして、指導計画・評価計画等を準備すること。
- ・スクーリング受講後には、次の復習を行うこと。
 - ⑪第 1～5 回の授業を受けて、ワークシートの内容を完成させておく。グループで実施する模擬授業の学習指導案を完成させる。(学習時間10時間)。
 - ⑫第 6～10回では、テキストをよく読んで、レポートにまとめる。(学習時間10時間)
 - ⑬第11～14回の模擬授業を実施後、各グループで行った反省会や評価シートの内容を参考にして、各自で学習指導案を修正して提出する。(学習時間 6 時間)
 - ⑭全授業をふりかえって、ワークシート等の内容について復習し、ノート等にまとめる。(学習時間 4 時間)

受講上の注意事項

- ・テキストをしっかりと予習しておく。できれば小学校理科の教科書を入手し、各学年・各分野の学習内容や教材について理解したうえでの受講を期待する。
- ・理科の授業づくりのために必要な基礎基本を学ぶ。1 日目【オンライン】は、理科の教育課程の概要と指導案づくり、模擬授業の準備・授業設計について。オンデマンド（非同期型）授業は、テキストを読み込んでその内容を理解する。2 日目【対面】は模擬授業の実施を通して観察実験を含む授業づくりについて学ぶ。
- ・Microsoft Teamsの「ファイル」に、指導案・授業づくりのための資料、様式等をアップロードするので、スクーリング受講許可後、早めにダウンロードして活用すること。
- ・模擬授業の実施については、限られた時間の中での準備となるので、グループでよく相談して授業内容等を決め、指導案づくり、予備実験等に取り組む。そのためには、しっかりと予習を行うことが大切である。
- ・理科授業の進め方について実践的・効果的に学ぶために、主体的・積極的な態度での受講を期待する。

生成AIの利用について

本科目の課題等作成においては、生成AIの利用は認めない。

評価基準

- ①小学校理科の目標と内容、指導法、評価法を理解している。
 - ②適切な素材・器具、情報機器を用いて授業を展開するための指導計画と指導案を作成できる。
 - ③観察・実験を効果的に指導するための知識、技術（情報機器やデジタルコンテンツの利用、実験器具の取り扱いを含む）を身につけている。
- 上記①～③について、次の配点で評価する。
- ・1 日目【オンライン】については、学習指導案（模擬授業実施前の事前提出分）で評価を行う。 20%
 - ・オンデマンド（非同期型）については、Formsで回答するレポートの内容をもとに評価を行う。 40%
 - ・2 日目【対面】については、模擬授業の取組状況、学習指導案（模擬授業実施後の再提出分）で評価を行う。 40%

参考文献

- ・小学校理科教科書（東京書籍、啓林館）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20051	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・音楽 [2単位/90時間]					遠隔 + 対面
テキスト	● 初等科音楽教育研究会 『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社							
ISBN	9784276821026	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26060			
科目担当		臼井 真						
実務経験のある教員による科目		公立小学校音楽専科教諭						

科目の目的

「小学校学習指導要領 音楽」における目標と内容について、「表現」と「鑑賞」の観点から理解を深め、理論と実践から指導法を学ぶ。歌唱共通教材では楽曲の特性を理解し、音楽性豊かに表現できるようにする。ソプラノリコーダーや器楽合奏においては、各楽器の基礎的な演奏法を身につけられるようにする。鑑賞では、個々の感じ方だけではなく、音楽の見方・考え方を踏まえ、理論的に楽曲を理解できるようにする。模擬授業では、グループディスカッションやグループワークを通して他者と協働しながら学びを深める。講義では模範演奏に加えて、より具体的に表現のイメージが膨らむよう、音声資料や映像資料を用いる。公立小学校での38年間の実務経験を十分に生かし、小学校音楽科授業の指導法について実践的な教育を行う。

到達目標

- ・ 小学校音楽科の目標、指導内容について理解する。
- ・ 音楽科における「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「鑑賞」の活動について理解し、各分野の基礎的な技能と指導法を身につける。
- ・ 小学校音楽科の評価について「表現」と「鑑賞」の観点から捉え、全体目標・学年目標と関連付けて理解する。
- ・ 想像力と創造力を働かせ、豊かな表現ができるとともに、子供の情操教育につながる小学校音楽科学習指導案を作成することができるようになる。

授業計画

- | | | |
|------|----------|--|
| 第1回 | 【オンライン】 | オリエンテーション（本科目の目標・内容・評価方法・進め方など） |
| 第2回 | 【オンライン】 | 歌唱共通教材の指導法（第1学年）、呼吸法・発声法について |
| 第3回 | 【オンライン】 | 歌唱共通教材の指導法（第2学年）、鍵盤ハーモニカの奏法について |
| 第4回 | 【オンライン】 | 歌唱共通教材の指導法（第3学年）、ソプラノリコーダーの奏法① 導入編 |
| 第5回 | 【オンライン】 | 歌唱共通教材の指導法（第4学年）、ソプラノリコーダーの奏法② |
| 第6回 | 【オンデマンド】 | 歌唱共通教材の指導法（第5学年）、実技小テストの説明解説 |
| 第7回 | 【オンデマンド】 | 歌唱共通教材の指導法（第6学年）、鑑賞教材の見方と考え方 |
| 第8回 | 【オンデマンド】 | 歌唱共通教材の指導法（まとめ）、器楽合奏の指導法 |
| 第9回 | 【オンデマンド】 | 音楽科学習指導案の作成方法と評価基準について、筆記小テストの説明 |
| 第10回 | 【オンデマンド】 | 楽曲名を題材名に設定した学習指導案と横断的な学習テーマを題材名にした学習指導案を作成する |
| 第11回 | 【対面】 | 歌唱を題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む） |
| 第12回 | 【対面】 | ソプラノリコーダーを題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
筆記小テスト |
| 第13回 | 【対面】 | 器楽合奏・音楽づくりを題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
実技小テスト① |
| 第14回 | 【対面】 | 鑑賞教材を題材に設定した模擬授業（情報機器の活用及び教材の活用を含む）
実技小テスト② |
| 第15回 | 【対面】 | まとめ：「小学校学習指導要領 音楽」を理解し、音楽教育の意義を考える |

授業方法

- 第1～5回＜スクーリング1日目＞はMicrosoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業とオンデマンド（非同期型）授業
 第6～10回はMicrosoft Teamsを利用したオンデマンド（非同期型）授業
 第11～15回＜スクーリング2日目＞は本学キャンパスでの対面授業
 ・ テキスト及びスクーリング時に配付する教材プリントにより、歌唱・合唱・リコーダー奏に取り組む。
 ・ グループワークにより、音楽科学習指導案を作成し、模擬授業を体験する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- I. スクーリング受講までに、テキストより、下記の歌唱共通教材曲を歌えるように練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ① 1年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ④ 4年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |
| ② 2年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ⑤ 5年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |
| ③ 3年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ⑥ 6年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |
- II. スクーリング受講までに、テキストより、下記の歌唱共通教材曲をソプラノリコーダーで演奏できるように練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ① 1年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） | ④ 4年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） |
| ② 2年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） | ⑤ 5年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） |
| ③ 3年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） | ⑥ 6年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 2時間） |
- III. スクーリング受講までに、テキストの「第1章 音楽科の目標」、「第2章 音楽科の指導内容」、「第3章 音楽科の学習指導計画」、「第4章 音楽学習の評価」をよく読んで理解しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。
 （学習時間18時間）

受講上の注意事項

《準備・持参するもの》

- ・オンライン（同期型）授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、オンライン授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・ソプラノリコーダー（ジャーマン式）、テキスト、USBメモリー

◎ソプラノリコーダー及びテキストを忘れた場合は、スクーリングを受講することができない。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・オンライン及びオンデマンド授業（課題、学習指導案の作成）への取り組み 50%
- ・実技試験、筆記小テスト 30%
- ・グループワークによる模擬授業（模擬授業内容、検討会への取り組み） 20%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20052	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・図画工作〔2単位／90時間〕					遠隔＋対面
テキスト	● 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編＜平成29年7月＞』 日本文教出版							
ISBN	9784536590112	本体価格(円) (2026年1月現在)	100	生協 テキストNo.	26061	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		須増 啓之						

科目の目的

学習指導要領及び解説から図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価のあり方に関する知識や技術を理論と活動を通して学ぶ。また、資料や映像教材を通して児童の造形表現についての理解を深め、グループ活動での題材研究や学習指導案作成、模擬授業や検討会などを通して実践力や省察する力を養う。

到達目標

- ・児童の造形表現の発達や特徴を踏まえ、図画工作科の意義や目標、育成を目指す資質・能力、内容、指導方法や評価の観点などについて理論と活動を通して理解する。
- ・表現活動及び鑑賞活動における題材制作と展開方法についての理解をもとに、指導者としての視点や授業実践に対する発想や構想の能力を身につける。
- ・以上の点を踏まえ、図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業や検討会を行なうことで指導力及び実践について省察する力を養う。

授業計画

- | | | |
|------|----------|---|
| 第1回 | 【オンライン】 | オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認）「図画工作での児童の活動、教師の支援」について、映像から考える |
| 第2回 | 【オンライン】 | 図画工作科の目標、育成を目指す資質・能力について活動体験を通して考える |
| 第3回 | 【オンライン】 | 図画工作科の学年目標と内容構成について教科書を参考に考える |
| 第4回 | 【オンライン】 | 図画工作科における題材研究の大切さ～映像から学ぶ～ |
| 第5回 | 【オンライン】 | 模擬授業について（グループ分けと題材の決定など） |
| 第6回 | 【オンデマンド】 | 図画工作科学習指導案の作成における留意点について①～題材名、目標、題材についてなど～ |
| 第7回 | 【オンデマンド】 | 図画工作科学習指導案の作成における留意点について②～指導計画、準備物、展開など～ |
| 第8回 | 【オンデマンド】 | 図画工作科における評価規準の作成と評価方法について |
| 第9回 | 【オンデマンド】 | A表現及びB鑑賞についての題材研究 |
| 第10回 | 【オンデマンド】 | A表現及びB鑑賞についての学習指導案の作成 |
| 第11回 | 【対面】 | 指導案の調整と模擬授業の準備① |
| 第12回 | 【対面】 | 指導案の調整と模擬授業の準備② |
| 第13回 | 【対面】 | 模擬授業と振り返り①～A表現「絵・立体・工作に表す活動」～ |
| 第14回 | 【対面】 | 模擬授業と振り返り②～A表現「造形遊びをする活動」とB鑑賞「鑑賞する活動」～ |
| 第15回 | 【対面】 | 講義「図画工作科指導の実際と課題、教師の役割について」及びまとめレポート |

授業方法

- 第1～5回＜スクーリング1日目＞はMicrosoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業とオンデマンド（非同期型）授業
 第6～10回はMicrosoft Teamsを利用したオンデマンド（非同期型）授業
 第11～15回＜スクーリング2日目＞は本学キャンパスでの対面授業

- ・講義や題材研究を通して図画工作科学習指導案を作成し、模擬授業を実践する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・スクーリング受講までに、テキスト全体を読んで予習しておくこと。また、授業での学習を深めるために指定の参考文献を読んだり、小学校の教科書や教科書会社のホームページなどを調べたりすること。（学習時間25時間）
- ・書籍やインターネットで図画工作科の学習指導案を調べて、第6回以降の題材研究や模擬授業の準備の際に参考にすること。自分で作成した学習指導案を参考にしてもよい。（学習時間5時間）
- ・スクーリング受講後は、授業で学んだことをふまえて、授業で作成した学習指導案を再検討したり、教科書の題材などの指導案を個人で作成したりすること。また、授業で学んだことを自分なりにノートなどにまとめて整理すること。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

【受講に関する注意等】

- ・オンライン授業では、確実に双方向で応答できるようにすること（Webカメラ・マイクが必要）。
- ・図画工作が苦手でも構わない。授業づくりについて学ぶ科目である。特にオンデマンド（非同期型）授業での模擬授業の準備などでは、個人やグループで協力して行なって授業に臨むこと。
- ・対面授業における模擬授業では実技も行うため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。
- ※第6～10回のオンデマンド（非同期型）授業期間中における質問などへの対応については、スクーリング1日目に指示する。

【準備物】

- ・指定テキスト
- ・以下の材料・用具（忘れると活動できないので、必ず各自準備すること。）
 [第1～5回（【オンライン】<スクーリング1日目>）で使用予定]
 ●鉛筆 [2B程度]、消しゴム、コピー用紙（A4サイズ2枚以上、ノートでも可）…課題で簡単な絵を描く。
 [第6～15回で使用予定（第11～15回は【対面】<スクーリング2日目>）]
 ●水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※対面授業時のパレットや筆洗は本学で貸し出し可）、オイルパステル（クレパスなど）もしくはクレヨン、はさみ、カッターナイフ、のり、ホッチキス、セロテープ、両面テープ、木工用接着剤、その他（題材研究で必要な材料・用具）など。

《材料や用具に関する注意事項》

※上記の材料や用具は、題材研究や模擬授業で選んだ題材によって変わる（授業の進み具合などによって使用しない場合もある）。**第6～10回のオンデマンド（非同期型）授業においてグループで使用する材料や用具が決定した後、Microsoft Teamsにおいて全員に通知する。**全グループの模擬授業の準備物が決定してからの購入でも問題ないが、これらの材料や用具は「図画工作」、「美術」、「子どもと造形表現」などの授業でも使用する。

※対面授業<スクーリング2日目>で行う模擬授業で使用する際の画用紙などは本学で準備するが、グループでの題材研究の際は個人で購入すること。

- 対面授業<スクーリング2日目>において指導案の修正や印刷を行うため、可能な場合はノートパソコンやUSBメモリーを持参すること。（ただし、持参したノートパソコン・タブレット等では学内のWi-Fi環境に接続できません。）

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・オンライン及びオンデマンド授業（制作・鑑賞、課題）への取り組み 30%
- ・学習指導案の作成 15%
- ・模擬授業（題材研究を含む）や検討会への取り組み及び内容 30%
- ・レポート 25%

参考文献

- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の美術』 三元社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作』 東洋館出版社
 ※国立教育政策研究所のホームページ（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）からも閲覧、ダウンロードができる。
- ・『図画工作科教科書 1～6年』 開隆堂出版 日本文教出版
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）<平成29年3月>』 東京書籍又は文部科学省HP
 ※その他、授業中に適宜資料を提示する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20054	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・体育〔2単位／90時間〕					遠隔＋対面
テキスト	● 松田恵示 鈴木聡 眞砂野裕 『子どもが喜ぶ！体育授業レシピー運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくり』 教育出版							
ISBN	9784316803845	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26063			
科目担当		田中 聡						
実務経験のある教員による科目		教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校教員						

科目の目的

「小学校学習指導要領 体育」における目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等について指定テキストを参照しながら理解し、実践に活かせるようにする。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について、担当者の学校体育担当の指導主事経験を活かした解説、さらに優れた実践映像資料等を用いて学習を深め、模擬授業を通して実践的な指導力が身につけられるようにする。そのため、講義やディスカッション、グループワークなど多様な学習形態・方法を組み合わせて授業を進める。

到達目標

- ・文化的視点から身体運動を捉えることができるとともに、小学校体育科の目標、指導内容について理解する。
- ・体育科における各運動領域の特性と内容、保健領域の内容について理解する。
- ・小学校体育科の学習評価について、学習目標・内容と整合する考え方とその方法を理解する。
- ・小学校体育科学習指導案を作成するとともに、体育授業での指導方法を身につける。

授業計画

- | | | |
|------|----------|--|
| 第1回 | 【オンライン】 | 体育科は何を教える（何が学べる）教科なのか－体育の教科内容－ |
| 第2回 | 【オンライン】 | 体育科学習指導要領の目標・内容と授業の実践（情報機器及び教材の活用を含む） |
| 第3回 | 【オンライン】 | 体育科学習指導案の作成方法と学習過程・学習評価－PDCAサイクルと授業実践－ |
| 第4回 | 【オンライン】 | 保健学習について、2日目スクーリングにおける模擬授業について |
| 第5回 | 【オンライン】 | 模擬授業時の指導案の検討と作成（班ごとのグループミーティング） |
| 第6回 | 【オンデマンド】 | 器械運動・陸上運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第7回 | 【オンデマンド】 | 水泳運動・ボール運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第8回 | 【オンデマンド】 | 表現運動・体づくり運動領域に関する授業例の検討（動画視聴と分析） |
| 第9回 | 【オンデマンド】 | 模擬授業の指導案作成－単元計画部分－ |
| 第10回 | 【オンデマンド】 | 模擬授業の指導案作成－本時案部分－ |
| 第11回 | 【対面】 | 模擬授業の打合せ（班ごと） |
| 第12回 | 【対面】 | 模擬授業の準備（班ごと） |
| 第13回 | 【対面】 | 模擬授業の実施－器械運動領域、ボール運動領域－ |
| 第14回 | 【対面】 | 模擬授業の実施－ゲーム領域、体づくり運動領域、表現運動領域－ |
| 第15回 | 【対面】 | 模擬授業のふりかえり－成果と課題－ |

授業方法

- 第1～5回＜スクーリング1日目＞はMicrosoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業とオンデマンド（非同期型）授業
 第6～10回はMicrosoft Teamsを利用したオンデマンド（非同期型）授業
 第11～15回＜スクーリング2日目＞は本学キャンパスでの対面授業

第1～5回【オンライン】＜スクーリング1日目＞では、小グループごとのディスカッション・グループワークもオンライン上で実施する予定である。その際に、実質参加できない者や応答のない者は、欠席・早退等とみなし、成績に反映する。オンライン授業では、確実に双方向で応答できるようにすること。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<予習>

- ・参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』の中で、特に第2章における運動領域の構成とその内容について理解を深めておくこと。（学習時間10時間）
- ・参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』の技能の内容について、何が具体的な運動種目として例示されているかについても予習しておくこと。（学習時間10時間）
- ・保健領域の内容と指導上の留意事項について参考文献『小学校学習指導要領解説 体育編』を精読すること。（学習時間10時間）
- ・テキスト第Ⅱ章の運動のとらえ方並びに単元計画・授業計画例について知っておくとともに、模擬授業として具体化できるようにイメージしておくこと。（学習時間10時間）

<復習>

- ・スクーリング受講後、Microsoft Teamsで配付予定の資料等の内容について復習すること。（学習時間10時間）
- ・テキスト第Ⅳ章を精読すること。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・第1～5回【オンライン】＜スクーリング1日目＞では、オンラインで同期型講義を中心に実施する。教員の講義時は必ずしもビデオ・オンの必要はないが、各グループに分かれてのミーティングもオンラインで実施する予定である。その際にディスカッションに参加しない者、応答がない者は、欠席もしくは早退等とみなし成績に反映させる。双方向の通信ができるようにすること（Webカメラ・マイクが必要）。
- ・第6～10回【オンデマンド】では、Microsoft Teamsに投稿する課題について、各自で取り組み提出する。指定期限までに課題の提出がない場合は不合格となる。また、この間に、【対面】スクーリングで実施する模擬授業に向けて各班でチャット等により連絡を取り合ってもらうこともあるため、その心づもりをしておくこと。
- ・第11～15回【対面】＜スクーリング2日目＞では、模擬授業関連の活動があるため、運動着（ジャージ等）、体育館シューズ、タオル、飲み物（水分補給用）を忘れずに持参すること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・課題提出並びに対面時小論文 60%
- ・授業への取り組み（オンライン時・対面時等の参加態度等） 40%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
 - ・松田恵示 『「遊び」から考える体育の学習指導』 創文企画
- ※その他、スクーリング時に資料を配付する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20072	科目名 [単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅰ [1単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 齊藤勇紀 守巧 『子どもが共に育つための障害児保育 第2版』 萌文書林							
ISBN	9784893474506	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26067			
科目担当		細木 玉恵						
実務経験のある教員による科目		公的機関・研究機関での発達支援、相談援助						

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な支援を配慮とする子どもが数多く在籍している。本科目では、障害児保育に関する基礎的な知識を踏まえ、保育者として求められる姿勢や、保育のあり方について理解を深める。あわせて、子ども一人ひとりが安心していきいきと生活できるよう、保育における支援のあり方について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・子どもの発達の課程と、さまざまな障害の特性について理解を深める。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの行動の背景と、それに応じた支援のあり方について考えを深める。
- ・子どもの実態を把握し、支援に活かすための指導計画および個別の支援計画について理解する。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの発達を促す遊びや生活の援助、ならびに環境設定について理解する。
- ・特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や、関係機関等との連携の重要性について理解する。

授業計画

- 第1回 障害の定義と障害児保育の基本理念、多様なニーズの理解
- 第2回 障害の理解と支援① 知的障害児・視覚障害児・聴覚障害児の特性と保育における支援
- 第3回 障害の理解と支援② 発達障害児の特性と保育における支援
- 第4回 障害の理解と支援③ 障害以外の要因により特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援
- 第5回 障害児保育の実践① 全体的な計画に基づく指導計画と個別の支援計画
- 第6回 障害児保育の実践② 発達を促す遊びや生活の援助と子ども同士が育ち合う環境構成
- 第7回 障害児保育の実践③ 家族への支援と関係機関との連携
- 第8回 まとめ（インクルーシブ保育のふりかえり）、確認テスト

授業方法

- ・講義、グループワークを行い、発表・討論をする。
- ・適宜視聴覚教材を使用し、内容について討論をする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【スクーリング受講前 予習】（学習時間20時間）

テキスト全体を通読し、障害児保育に関する基礎的な内容について理解を深めておく。

〈課題〉テキストPART2を中心に、肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、発達障害児について、それぞれの特性と支援のあり方を整理し、総文字数1,200～1,500字程度にまとめる。

提出はスクーリング初日の授業開始時とする。ワープロソフトを使用する場合は、A4サイズ縦型・横書きとし、手書きの場合は市販の原稿用紙を用いてもよい。本課題は、各障害の特性や支援に関する基本的な内容を整理し、スクーリングでの学習をより深めることを目的とする。

【スクーリング受講後 復習】（学習時間10時間）

配付資料およびテキストを読み返し、スクーリングで扱った内容について整理する。あわせて、書籍や新聞等を通して、特別な配慮を必要とする子どもの保育や関連する動向について確認し、理解を深める。

受講上の注意事項

- ・テキストおよび提出課題を必ず持参する。提出課題には、学籍番号および氏名を明記する。
- ・グループワークや発表、討論の時間には、理解を深める意識をもって積極的に取り組む。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・講義やグループワークに臨む態度 20%
- ・課題や講義時間内に指示した小レポート 30%
- ・確認テスト（記述形式） 50%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
 - ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
 - ・『令和 5 年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ※テキスト以外の文献や資料にも目を向け、理解を深めること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20081	科目名 [単位数/学習時間]	児童教育学特殊講義Ⅰ [2単位/90時間]				対面授業
テキスト	● 井上美智子 無藤隆 神田浩行 『むすんでみよう 子どもと自然』 北大路書房						
ISBN	9784762827167	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26073		
テキスト	● 樋口拓 『青少年教育施設における伝統文化実践研究事業（報告書）～地域の伝統文化を活かした体験活動プログラムの導入にむけて～』（インターネットにて閲覧）						
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		https://researchmap.jp/higuchi_taku/misc/50874482	
科目担当		「親和通信」で連絡					
実務経験のある教員による科目		国立の青少年教育施設でのプログラム開発・評価、地域資源を活用した体験活動（ESD）の実践					

科目の目的

地域の自然・文化・産業等の地域資源を学習資源として位置づけ、子ども主体の体験活動と学校教育・社会教育を接続した実践デザインの理論と方法を修得する。担当教員がこれまで積み上げてきた実践知と経験知を基礎に据えたESD（持続可能な開発のための教育）、セーフティ&リスクマネジメント、評価（ロジックモデル/ルーブリック）、多機関連携の構築を横断的に扱い、短期集中で実装可能なプログラム設計力を涵養する。実務経験を授業に活かし、安全管理・評価設計・多機関連携の具体事例を用いて実践的教育を行う。

到達目標

次の5つの視点を到達目標（Learning Outcomes）に掲げる。

- LO1：地域資源を活用した児童向け体験学習の意義と理論（ESD・体験学習の原理）を説明できる。
- LO2：対象（児童・保護者・地域）に応じた学習目標と評価指標（ルーブリック/パフォーマンス課題）を設計できる。
- LO3：安全管理・コンプライアンスを踏まえたプログラム運営計画（事前・当日・事後）を立案できる。
- LO4：季節の行事・歳時記・自然体験等の教材化とファシリテーション計画を作成できる。
- LO5：学内外の関係者と連携し、試行実施・振り返りを通して改善案を提示できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：目的・評価・安全／ESDと体験学習の基本枠組み
- 第2回 地域資源の読み解き：自然・文化・産業のマッピングと価値化
- 第3回 テキストに学ぶ①：「むすんでみよう 子どもと自然」の実践論
- 第4回 ケーススタディ：季節の行事を学びに変える設計
- 第5回 ロジックモデル入門：目的・成果・指標の連関設計
- 第6回 安全管理とリスクアセスメント：屋外活動の計画
- 第7回 テキストに学ぶ②：「青少年教育施設における伝統文化実践研究事業（報告書）～地域の伝統文化を活かした体験活動プログラムの導入にむけて～」の実践活用
- 第8回 教材化ワーク：歳時記×自然体験のアクティビティ開発
- 第9回 フィールドワーク（学内・近隣）：観察・記録・行動計画
- 第10回 評価設計ワーク：ルーブリック/パフォーマンス課題/振り返り
- 第11回 連携設計：学校・家庭・地域・施設のコーディネーション
- 第12回 実践設計スタジオ①：個別案のブラッシュアップ
- 第13回 実践設計スタジオ②：安全計画・台本・資材計画
- 第14回 プレゼンテーション：改善提案の抽出
- 第15回 総括：成果共有・改善計画・今後の展開

授業方法

講義（ミニレクチャー）30%、演習・グループワーク50%、フィールドワーク20%。アクティブラーニング（協同学習、ケーススタディ、ピッチ&ピアレビュー）を採用する。なお、基本的には少人数のグループでフィールドワーク、プログラム作成、プレゼンテーションを行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【事前学修：合計24時間】

- ・指定テキスト「むすんでみよう子どもと自然」の通読と要約：12時間
- ・指定テキスト（論文）「青少年教育施設における伝統文化実践研究事業（報告書）～地域の伝統文化を活かした体験活動プログラムの導入にむけて～」の通読と受講者自身の地域資源リストアップ：12時間

【事後学修：合計36時間】

- ・実践設計課題（ロジックモデル+プログラム案+安全計画）の作成：18時間
- ・現地見学・関係者ヒアリング：6時間
- ・ルーブリック設計と評価ツール作成：6時間
- ・振り返りレポート（1,200～1,600字）：6時間

受講上の注意事項

- ・演習でスマートフォンやタブレットを用いた記録（写真・音声）を行う場合がある。
- ・フィールドワークに適した服装・履物を準備し、熱中症・天候に留意する。
- ・個人情報・撮影可否・地域資源の取り扱いに関する倫理規程を遵守する。

【持参物（全日程）】

筆記用具（メモ帳は表紙が固い小型のものを推奨する）、スマートフォン又はデジタルカメラ（記録用）、ノート型PC又はタブレット（課題・資料作成用）

【持参物（2日目：フィールドワーク中心）】

動きやすい服装・運動靴、雨具・帽子、軍手

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・確認試験（授業中テスト・課題提出）：40%（実践設計課題：ロジックモデル＋プログラム案＋安全計画）
 - ・授業へのとりくみ：30%（準備状況・貢献度・安全配慮・協働姿勢）
 - ・その他：30%（プレゼンテーション、ファシリテーション台本、成果発表）
- ※到達目標（LO1-LO5）への達成度で総合評価。

参考文献

- 図書館等で見つけれられる場合には活用すること。
- ・織田忍 『親子のじかん01 こどもとはじめる季節の行事』 自由国民社
 - ・主婦と生活社 『子どもと楽しむ にっぽんの歳時記』 主婦と生活社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20091	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援教育基礎理論 [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 安藤隆男 『特別支援教育基礎論』 放送大学教育振興会						
ISBN	9784595321757	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26075		
科目担当		瀬戸山 悠					
科目の目的 特別支援教育の理念や制度、歴史を概括的に学ぶとともに、特別な支援を必要とする子ども、特別支援教育を行う場、子どもを取り巻く関係機関の基礎的事項について学ぶ。 到達目標 ・特別支援教育の理念や制度の概要を知る。 ・特別な支援を必要とする子どもを取り巻く教育の基本的事項について知る。 授業計画 第1回 特別支援教育とは 第2回 特別支援教育の歴史・制度 第3回 インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育 第4回 特別支援教育の教育課程 第5回 自立活動の理念と指導 第6回 特別支援学校の教育の現状と課題 第7回 小・中学校等における特別支援教育の現状と課題 第8回 学びの振り返りと確認（記述式試験） 授業方法 遠隔（リアルタイムオンライン） テキストをもとに、Microsoft Teamsを利用した遠隔（リアルタイムオンライン）による授業を講義形式で行い、討論や発表も適宜行う。必要に応じて追加資料を配付する。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 スクーリング受講までに、テキスト第1章～第7章（pp.9-109）を予習しておくこと。（学習時間30時間） 受講上の注意事項 ・テキストを必ず準備すること。 ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。 ・スクーリング最終日の確認は記述式試験を行う。テキストと配付資料の参照を認める。 生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。 評価基準 ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など） 20% ・記述式試験（最終時間に実施） 80% 参考文献 ・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 海文堂出版又は文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 開隆堂出版又は文部科学省HP ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東京書籍又は文部科学省HP ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説＜平成29年7月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説＜平成29年7月＞』 文部科学省HP ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。 課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	20093	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児の心理B [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 小池敏英 北島善夫 『知的障害の心理学 発達支援からの理解』 北大路書房						
ISBN	9784762822155	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,800	生協 テキストNo.	26077		
科目担当		瀬戸山 悠					

科目の目的

認知的側面や言語的側面等に課題のある知的障害児に対しては、その心理的特性を踏まえるとともに、障害に対する理解を深めながら個に応じた適切な支援を行っていくことが必要になる。本科目では、知的障害の定義や知的障害児の心理特性について幅広く学習するとともに、アセスメントについての概要を理解することを目的とする。

到達目標

- ・ 文部科学省等の知的障害の定義を説明できる。
- ・ 知的障害児の心理的特性、言語特性の概要を理解する。
- ・ 知的障害のアセスメントの内容や方法を知る。
- ・ 自閉スペクトラム症児やダウン症児等の関連する諸障害の心理的特性について説明できる。

授業計画

第1回

知的障害の定義、分類

第2回

知的障害における心理機能と発達支援① 知覚・学習

第3回

知的障害における心理機能と発達支援② 言語と感覚運動機能

第4回

知的障害のアセスメント① 知能検査・発達検査

第5回

知的障害のアセスメント② 適応行動

第6回

知的障害に関連する諸障害① 自閉スペクトラム症

第7回

知的障害に関連する諸障害② ダウン症

第8回

まとめ（振り返りと支援における他機関や家庭との連携のあり方についての解説）

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・ Microsoft Teamsを利用し、テキストの使用及びテキストをもとにした関連資料を配付し、遠隔（リアルタイムオンライン）により講義形式で授業する。
- ・ ミニワークを行い、知的障害児の心理的特性を理解する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキストのpp.2-19、pp.23-90、pp.174-191を読み、他の文献も参考に予習しておくこと。

学習時間は、次の通り。

知的障害の定義（学習時間3時間）、知的障害の分類（学習時間3時間）、心理機能と発達支援（知覚・学習：学習時間6時間）、心理機能と発達支援（言語：学習時間6時間）、知的障害のアセスメント（学習時間6時間）、知的障害に関連する諸障害（自閉症：学習時間3時間）、知的障害に関連する諸障害（ダウン症：学習時間3時間）＜学習時間合計30時間＞

受講上の注意事項

- ・ 遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・ スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の参照を認める。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 最終試験 80%
- ・ 授業への取り組み 20%

参考文献

- ・ 梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義 『特別支援児の心理学 理解と支援』 北大路書房
- ・ 文部科学省 『特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
- ・ 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
- ・ 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20096	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児の心理・生理・病理B〔1単位／45時間〕				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 篠田達明 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂 3 版』 金芳堂						
ISBN	9784765316286	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	26080		
科目担当		松井 学洋					
実務経験のある教員による科目		特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師					

科目の目的

肢体不自由児への教育を考える上で、肢体不自由の原因や病態の理解を深めることは重要である。

本科目では肢体不自由の定義と原因を学ぶと共に、肢体不自由児の心理、生理、病理の特徴を理解し、その病態生理に応じた特別支援教育を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。また、現在、課題となっている学校内での医療的ケアについて概説を行う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

肢体不自由児の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、障害特性に合わせた支援方法・教育方法について理解を深める。

授業計画

第 1 回

障害の定義と肢体不自由の主な原因

第 2 回

脳性麻痺の障害の特性① 側彎・四肢関節拘縮・てんかん

第 3 回

脳性麻痺の障害の特性② 嚥下障害・胃食道逆流症

第 4 回

脳性麻痺の障害の特性③ 呼吸障害

第 5 回

学校内における医療的ケアの現状と課題

第 6 回

学校内における医療的ケアの実際① 吸引

第 7 回

学校内における医療的ケアの実際② 経管栄養

第 8 回

医療と教育の連携について

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

Microsoft Teamsを利用した遠隔（リアルタイムオンライン）による授業を具体的に理解ができるよう動画や写真を取り入れ、講義形式で行う。また、講義テーマを題材にグループディスカッションを行い、学びの言語化を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義は配付資料を基に行うが、スクーリング受講までには、テキストをよく読んでおくこと。（学習時間30時間）

受講上の注意事項

・

受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望む。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象とする。

・

遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

・

授業への取り組み（授業態度、意欲、発表内容など） 40%

・

授業内試験 60%

参考文献

・

文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20098	科目名 [単位数/学習時間]	病弱児の心理・生理・病理B [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	●宮本信也 土橋圭子 『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂						
ISBN	9784765316279	本体価格(円) (2026年1月現在)	3,200	生協 テキストNo.	26081		
科目担当		松井 学洋					
実務経験のある教員による科目		特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師					

科目の目的

健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識並びに心理面、社会面における影響を全人的に捉えて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。また、病気を持ちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について考える。実務経験を活かして教授する。

到達目標

様々な小児の疾患の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、病弱児の発達特性に合わせた支援方法・教育方法について理解を深める。

授業計画

第1回 子どもの悪性腫瘍
第2回 子どもの内分泌疾患
第3回 子どもの腎泌尿器疾患
第4回 アレルギー性疾患① 喘息
第5回 アレルギー性疾患② 食物アレルギー
第6回 子どもの心身症
第7回 児童虐待の現状と課題
第8回 医療と教育の連携について

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

Microsoft Teamsを利用した遠隔（リアルタイムオンライン）による授業を具体的に理解ができるよう動画や写真を取り入れ、講義形式で行う。また、講義テーマを題材にグループディスカッションを行い、学びの言語化を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までにテキストをよく読んでおくこと。「授業計画」に挙げた疾患については、その病態について理解を深めた上で授業に臨むこと。(学習時間30時間)

受講上の注意事項

・受講する目的を明確にした上での、主体的な授業への参加を望む。私語や居眠り等の迷惑行為は減点対象とする。
・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

・授業への取り組み（授業態度、意欲、発表内容など） 40%
・授業内試験 60%

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20100	科目名 [単位数/学習時間]	知的障害児教育論 I B [1 単位/45時間]				遠 隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 杉野学 上田征三 『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 大学図書出版						
ISBN	9784909655325	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生 協 テキストNo.	26083	生協での購入をおすすめします	
科 目 担 当		塚本 久義					
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

知的障害児の教育課程の編成、実施、評価等については、歴史的な経緯の中で、柔軟かつ弾力的に取り組まれてきた経過がある。本科目では、知的障害児に対する教育課程の特徴を学ぶとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用等、特別支援学校や特別支援学級で必要と考えられる基本的知識を概括して学び、知的障害児の教育に関する基本的知識を幅広く習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 特別支援学校（知的障害）における教育課程編成方法や内容に関する特徴を説明できる。
- ・ 知的障害児の学習上の特徴や教育的対応の基本を理解する。
- ・ 教科別の指導や各教科等を合わせた指導などの概要を説明できる。
- ・ 自立活動の 6 区分・27項目について理解し、実態把握から目標設定までのプロセスを理解する。
- ・ 個別の教育支援計画・個別の指導計画の概要を理解し、作成に必要な内容と留意点について理解する。

授業計画

第 1 回

知的障害児教育の教育課程の概要

第 2 回

知的障害の捉え方と関連する障害について

第 3 回

教科別の指導及び道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて行う指導

第 4 回

各教科等を合わせた指導① 日常生活の指導、遊びの指導

第 5 回

各教科等を合わせた指導② 生活単元学習、作業学習

第 6 回

個別の教育支援計画、個別の指導計画の概要

第 7 回

自立活動の概要

第 8 回

知的障害教育における進路指導とキャリア教育、まとめ（カリキュラム・マネジメントの視点による整理）

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・ テキストをもとに、Microsoft Teamsを利用した遠隔（リアルタイムオンライン）による授業を講義形式で行い、テーマに沿ったミニワーク（発表や意見交換など）も行う。
- ・ 必要に応じて、資料の配付、動画等を活用する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

テキスト及び参考文献において、「到達目標」に関連した章を読み、以下の予習をしておくこと。
知的障害児教育の教育課程の概要（学習時間 3 時間）、教科別の指導（学習時間 3 時間）、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて行う指導（学習時間 3 時間）、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導：学習時間 6 時間）、各教科等を合わせた指導（生活単元学習、作業学習：学習時間 6 時間）、自立活動の概要（学習時間 3 時間）、個別の教育支援計画、個別の指導計画の概要（学習時間 3 時間）、知的障害教育における進路指導とキャリア教育（学習時間 3 時間）＜学習時間合計30時間＞

受講上の注意事項

- ・ 指定テキストを、必ず準備すること。
- ・ 遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・ スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の参照を認める。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 最終試験 80%
- ・ 授業への取り組み 20%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20103	科目名 [単位数/学習時間]	肢体不自由児教育論B [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	●川間健之介 長沼俊夫 『肢体不自由児の教育 新訂』 放送大学教育振興会						
ISBN	9784595321719	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,400	生協 テキストNo.	26085		
科目担当		塚本 久義					
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					
科目の目的							
肢体不自由児の障害の特性をふまえ、肢体不自由児教育の意義、学習指導等における支援のあり方、肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場での取り組みなどについて学習する。 肢体不自由児の障害特性について、生理・病理と心理面から理解し、肢体不自由児教育の基本的事項を学ぶ。肢体不自由児教育における自立活動の意義とその指導及び肢体不自由の障害特性に配慮した各教科の指導等について学ぶ。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。							
到達目標							
・肢体不自由児の障害特性について、生理・病理、心理面からその特徴と学習指導上の配慮事項等を理解する。 ・肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場について理解する。 ・教育課程編成の基本的な事項について理解し、肢体不自由児教育における自立活動や学習指導における支援のあり方、肢体不自由児教育の今後の課題について学び、認識を深める。							
授業計画							
第1回 肢体不自由児の障害特性① 生理・病理 第2回 肢体不自由児の障害特性② 心理1 第3回 肢体不自由児の障害特性③ 心理2 第4回 肢体不自由教育の実際① 教育課程 第5回 肢体不自由教育の実際② 自立活動の指導 第6回 肢体不自由教育の実際③ 各教科の指導 第7回 肢体不自由教育の実際④ キャリア教育と進路指導 第8回 学びの振り返りと確認（記述式試験）							
授業方法							
遠隔（リアルタイムオンライン） ・テキストをもとに、Microsoft Teamsを利用した遠隔（リアルタイムオンライン）による授業を講義形式で行い、テーマに沿ったミニワーク（発表や意見交換など）も行う。 ・必要に応じて、資料の配付、動画等を活用する。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
スクーリング受講までに、テキストの第3章～第8章、第11章、第14章を予習しておくこと。また、参考文献の『特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』にも目を通しておくこと。（学習時間30時間）							
受講上の注意事項							
・指定テキストを、必ず準備すること。 ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。 ・スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の参照を認める。							
生成AIの利用について							
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準							
・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など） 20% ・記述式試験（最終時間に実施） 80%							
参考文献							
・文部科学省 『特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP ・筑波大学附属桐が丘特別支援学校 『肢体不自由教育の理念と実践』 ジアース教育新社 ・国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社 ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』第3編 障害の状態等に応じた教育的対応 IV肢体不自由 ジアース教育新社又は文部科学省HP							

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20105	科目名 [単位数/学習時間]	視覚障害児の心理・生理・病理 [1単位/45時間]					遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 文部科学省 『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領<平成29年4月告示>』 海文堂出版							
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2026年1月現在)	440	生協 テキストNo.	26087	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		辻岡 均						
実務経験のある教員による科目		公立小学校・知的支援学校・視覚支援学校・聴覚支援学校小学部教員・全盲児、弱視児、重複児担当及び外部支援（通級指導、巡回指導、教育相談、研修会講師等）						

科目の目的

勤務していた視覚支援学校の事例をもとに、視覚障害児の心理・生理・病理の基礎、障害特性、認知特性や発達課題を学習する。また、手引きの方法や点字、視覚障害者を取り巻く社会、制度、合理的配慮の考え方についても学習する。
本科目では、障害の理解、視覚障害の理解、視覚障害児・者の理解へと進み、障害理解教育の在り方についてもふれる。

到達目標

- ・ 障害の基礎として、障害の意味とその理解、ICF等障害の分類を理解する。
- ・ 視覚障害に関連する基本的知識を習得する。
- ・ 視覚の生理・病理について、視覚器の構造、視覚検査、視機能異常、眼疾患に分けてその概要を学習する。
- ・ 障害告知・障害受容など視覚障害児・者の心理の概要を習得する。
- ・ 障害理解教育の一環である疑似障害体験の意義やあり方を習得し、適切な疑似障害体験が実施できる方法を身につける。
- ・ 障害理解を進めるための背景となる社会の障害者観などを考察する。

授業計画

- 第1回 視覚の生理・病理① 視覚器の構造と主な眼疾患
- 第2回 視覚の生理・病理② 見え方と視機能検査
- 第3回 視覚の生理・病理③ 視覚障害による制限、手引きと歩行
- 第4回 視覚障害児・者の心理：心理とケア
- 第5回 視覚障害者と社会：歴史と現状
- 第6回 視覚障害児・者の支援と制度について：支援施設と制度、職業
- 第7回 視覚障害者の情報取得手段：情報機器と点字の仕組み
- 第8回 視覚障害者と災害 最終試験

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・ Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・ 配付資料、パワーポイントを活用して講義する。
- ・ 視機能（視力、視野、色覚、光覚、両眼視、眼球運動等）、情報入手手段（触察や手引きの配慮事項）、点字の読みなどを通して、視覚障害者の心理や取り巻く社会をより深く理解できるようにする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。（学習時間20時間）
- ・ スクーリング受講後は、配付資料をよく読むこと。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・ スクーリングまでに、視覚障害関連の図書を目を通しておくこと。筑波大学附属視覚特別支援学校などの各支援学校や国立特別支援教育総合研究所のHPなどでもよい。
- ・ 授業には意欲をもって積極的に取り組むこと。
- ・ 授業中に質問された場合は、積極的に発表すること。
- ・ 授業内容について「理解」（分かる）、「記憶」（覚える）、「思考」（考える）を大切にすること。
- ・ 最終授業時に試験を実施する。
- ・ 遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 最終試験 80%
- ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、質問・応答など） 20%

参考文献

- ・青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 改訂版』 ジアース教育新社
- ・全国盲学校長会 『視覚障害教育入門Q&A』 ジアース教育新社
- ・香川邦生 『視覚障害教育に携わる方のために』 慶應義塾大学出版会
- ・五十嵐信敬 『視覚障害幼児の発達と指導』 コレール社
- ・芝田裕一 『視覚障害児・者の理解と支援』 北大路書房
- ・白石正久 『発達の扉（上・下）』 かもがわ出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20107	科目名 [単位数/学習時間]	視覚障害児教育指導法〔1単位／45時間〕					遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 海文堂出版							
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2026年1月現在)	440	生協 テキストNo.	26087	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		辻岡 均						
実務経験のある教員による科目		公立小学校・知的支援学校・視覚支援学校・聴覚支援学校小学部教員・全盲児、弱視児、重複児担当及び外部支援（通級指導、巡回指導、教育相談、研修会講師等）						

科目の目的

勤務していた視覚支援学校の事例を中心に、視覚障害児の障害特性、認知特性から、視覚障害教育を考える。一般校など他の教育と比べながら、教科学習、自立活動に関する基本的知識、指導法の概要を学習する。

本科目では、視覚障害に特化するだけでなく、知的障害、発達障害など他の障害、特別支援教育、総合的な教育のあり方、障害理解教育や社会啓発の背景となる社会にも適宜ふれる。

到達目標

- ・ 視覚障害教育の概要を、乳幼児の相談から幼稚園、小学部、中学部、高等部、専攻科の教育まで幅広く理解する。
- ・ 障害特性と関連させて、全盲児、弱視児、重複障害児教育の概要や指導法を学ぶ。
- ・ 視覚障害教育における自立活動の概要と指導法を学ぶ。
- ・ 視覚障害教育のキャリア教育、合理的配慮、外部支援、理解教育について学ぶ。
- ・ 視覚障害児教育を特別支援教育の観点から考察し理解する。

授業計画

- 第1回 視覚障害の教育の全体像：就学から卒業まで
- 第2回 視覚障害乳幼児の発達と支援：五感を使って
- 第3回 全盲児の教育：教科指導と教材
- 第4回 弱視児の教育：教科指導と教材
- 第5回 弱視訓練及び視覚認知訓練：訓練内容と教材
- 第6回 重複障害児の教育① 日常生活動作、歩行
- 第7回 重複障害児の教育② 手指、運動、感覚、教材
- 第8回 視覚支援学校の教育：自立活動、キャリア教育、合理的配慮、外部支援 最終試験

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・ Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・ 配付資料、パワーポイントを活用して講義する。
- ・ 触察や点字学習、各教科の教材教具など紹介しながら、視覚障害児への配慮事項や学習内容について深く理解できるようにする。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ スクーリング受講までに、テキストを読んで予習しておくこと。（学習時間20時間）
- ・ スクーリング受講後は、配付資料を読むこと。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・ スクーリングまでに、視覚障害関連の図書を目を通しておくこと。筑波大学附属視覚特別支援学校などの各支援学校や国立特別支援教育総合研究所のHPなどでもよい。
- ・ 授業には意欲をもって積極的に取り組むこと。
- ・ 授業中に質問された場合は、積極的に発表すること。
- ・ 授業内容について「理解」（分かる）、「記憶」（覚える）、「思考」（考える）を大切にすること。
- ・ 最終授業時に試験を実施する。
- ・ 遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 最終試験 80%
- ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、質問・応答など） 20%

参考文献

- ・青柳まゆみ 鳥山由子 『視覚障害教育入門 改訂版』 ジアース教育新社
- ・全国盲学校長会 『視覚障害教育入門Q&A』 ジアース教育新社
- ・香川邦生 『視覚障害教育に携わる方のために』 慶應義塾大学出版会
- ・五十嵐信敬 『視覚障害幼児の発達と指導』 コレール社
- ・芝田裕一 『視覚障害児・者の理解と支援』 北大路書房
- ・白石正久 『発達の扉（上・下）』 かもがわ出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20110	科目名 [単位数/学習時間]	発達障害児教育論B [1単位/45時間]					対面授業
テキスト	●小野次朗 上野一彦 藤田継道 『よくわかる発達障害 LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群 第2版』 ミネルヴァ書房							
ISBN	9784623057368	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26090			
科目担当		「親和通信」で連絡						
科目の目的 LD、ADHDをはじめとする発達障害児は、小学校・中学校等の通常の学級を中心に支援されることが多く、幼児児童生徒の学習上・生活上の困難や教育的ニーズに基づく適切な支援方法の理解が求められている。また、発達障害は、低学力、不登校、行動上の問題などと深い関連があるとされる。 本科目では、LD、ADHD、自閉スペクトラム症についての定義、生理、病理、心理、認知・行動等の特徴、支援方法、学校・地域関連機関の連携システム等について、基本的知識を習得することを目的とする。さらに、重複障害、言語障害、情緒障害について、基本的知識を習得することを目的とする。								
到達目標 ・LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義について説明できる。 ・LD、ADHD、自閉スペクトラム症の特徴と支援方法について理解する。 ・自立活動の視点を踏まえた必要な支援の内容や方法を考えることができる。 ・地域における連携機関とその連携方法について理解する。 ・重複障害、言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。								
授業計画 第1回 LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義と生理・病理 第2回 発達障害の心理－アセスメントの実際－ 第3回 事例検討① LD 第4回 事例検討② ADHDと自閉スペクトラム症 第5回 個別の教育支援計画と個別の指導計画の概要と作成・活用上の留意点 第6回 発達障害のある児童生徒等の教育的ニーズと通常の学級における支援 第7回 重複障害、言語障害、情緒障害の理解と支援 第8回 発達障害のある児童生徒のための教材・教具等、まとめ（これまでの振り返り）								
授業方法 ・資料を配付し、講義形式で授業する。 ・DVDの視覚映像を提示し、発達障害の具体的理解を図る。 ・ミニワークを行い、具体的な支援方法を協議し交流する。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキスト及び参考文献『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』において、「到達目標」に関した章を読み、予習をしておくこと。学習時間は以下の通り。 LD、ADHD、自閉スペクトラム症の定義と生理・病理（学習時間 6 時間）、個別の教育支援計画と個別の指導計画の概要と作成・活用上の留意点（学習時間 6 時間）、発達障害の心理－アセスメントの実際－（学習時間 6 時間）、発達障害のある児童生徒等の教育的ニーズと通常の学級における支援（自立活動解説：学習時間 6 時間）、発達障害に関連する法規と教育政策（学習時間 6 時間）＜学習時間合計30時間＞								
受講上の注意事項 スクーリング最終日の試験は、授業中の講義資料の持ち込みを認める。								
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。								
評価基準 ・最終試験 80% ・授業への取り組み 20%								

参考文献

- ・尾崎洋一郎 『学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・尾崎洋一郎 『ADHD及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・尾崎洋一郎 『高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち 特性に対する対応を考える』 同成社
- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20111	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援学校教育実習事前事後指導 [1単位/45時間]				対面授業
テキスト	● 文部科学省 『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領<平成29年4月告示>』 海文堂出版						
ISBN	9784303124243	本体価格(円) (2026年1月現在)	440	生協 テキストNo.	26087	文部科学省HPよりダウンロード可能	
科目担当		塚本 久義					
実務経験のある教員による科目		公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

教育実習は大学の管理と実習校の教員の指導の下、大学で学んできた特別支援教育の知識・理論ないし技能を、実践的・総合的に習得するものである。このような教育実習をより充実したものとするため、実習の目的や意義をはじめ、特別支援学校での諸活動に関する事前の心構え、実習記録の書き方、学級経営、指導案の書き方、模擬授業など、実習に必要な諸事項について学びとともに、実務経験のある教員から特別支援学校における実務経験を活かした実践的な内容について学ぶ。

到達目標

- ・ 指導案を各自で書き、書式、必要な内容、指導案の論旨の一貫性について理解する。
- ・ 模擬授業を行い、基本的な授業スキルを身につける。
- ・ 特別支援学校の知識、教員の心構えを理解する。
- ・ 教育実習の記録の書き方に慣れる。

授業計画

<事前指導授業計画>

- 第1回 教育実習の意義と目的、教育実習の心得、教育実習の内容
- 第2回 「教育実習の記録」の書き方、「児童生徒観察記録」の書き方
- 第3回 特別支援学校の教育課程、学級経営、生徒指導について
- 第4回 特別支援学校の授業技術、指導案の書き方について①
- 第5回 指導案の書き方について②、模擬授業の計画
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 学びの振り返り

授業方法

<事前指導授業方法>

- ・ 指導案を各自で作成するとともに、必ず模擬授業を行う。
- ・ 他の受講者の模擬授業を参観し、お互いに評価し合う。

<事後指導>

実習終了後の提出物（教育実習の記録、学習指導案等）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

次の2つの課題をスクーリング初日に提出すること。（学習時間15時間）

【課題1】

教育実習校に赴任した最初の日に、自己紹介を兼ねたあいさつを求められます。あなたはどんなあいさつをしますか？

- ①全教職員を対象にしたあいさつ（場所は、職員室）
- ②全校朝礼の時に、全校児童・生徒を対象にしたあいさつ（場所は、運動場または体育館）

※時間はそれぞれ30秒以内で、2つのパターンのあいさつを考えること。

2つのあいさつ文案（400字詰原稿用紙1枚、手書き、150～200字程度）をスクーリング初日に持参のうえ提出すること。

スクーリング時に「模擬着任式」の場を設定し、お互いのあいさつを聞き合う。

【課題2】

スクーリングでは指導案をグループ・個人で作成し、模擬授業を行う。そこで特別支援学校の指導案を予習するために、インターネットで「特別支援学校学習指導案」で検索し、自分が実習する障害種（知的か肢体か病弱）の特別支援学校の指導案の中から、1つの指導案を選び、そのまま手書きで写す。また、選んだ指導案をもとに自分が授業することを想定し、具体的な留意点・配慮点を挙げて書き出したものを作成する。手書きの指導案及び留意点・配慮点を書きだしたものをスクーリング時に持参、提出すること。

【復習】

- 1. 「実習の記録」を整理する。（学習時間4時間）
- 2. 教育実習の成果についてまとめる。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

スクーリング受講にあたって、2つの課題（上記授業外学習の【予習】）に必ず取り組むこと。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み（模擬授業等） 40%
- ・授業中の提出物（指導案等） 60%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20116	科目名 [単位数/学習時間]	教職実践演習(幼・小)＜幼稚園教育実習終了者用＞[2単位/90時間]					対面授業
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』チャイルド本社							
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055			
科目担当		猪田 裕子・芝田 悦司・植山 佐智子						
実務経験のある教員による科目		猪田：私立幼稚園教諭 芝田：教育委員会主事・公立小学校長 植山：公立幼稚園教諭・主任教諭・園長						

科目の目的

教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況をふまえ、演習を通して教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、不足している知識技能を補う。実務経験（小学校・幼稚園教員）を活かして実践的教育を行う。

到達目標

- ・教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、社会性や対人関係構築能力を身につける。
- ・教諭に必要な子ども理解と学級経営の理論及び実践的指導力を確認する。
- ・大学内外の活動を通して、自らの課題を明確に持つ。
- ・『幼稚園教育要領』の趣旨を理解し、求められる保育者像を再考する。

授業計画

- 第1回 イントロダクション：教職実践演習の目的・意義及び課題の設定（芝田）
- 第2回 学校園組織や教員の役割・職務内容等の理解について（芝田）
- 第3回 教育実習で見いだされた課題について（小集団にて）（芝田）
- 第4回 生徒指導・子育ての課題と方策について（芝田）
- 第5回 保護者・地域との連携について（芝田）
- 第6回 教諭に必要な資質やスキル① 特別な支援を要する事例から考える（植山）
- 第7回 教諭に必要な資質やスキル② 事例を基に保護者への支援を考える（植山）
- 第8回 教諭に必要な資質やスキル③ 実習での事例を踏まえて話し合い（植山）
- 第9回 教諭に必要な資質やスキル④ 幼稚園、小学校との接続を考える（各自の資料を参考に話し合い）（植山）
- 第10回 ①～④ まとめと発表（植山）
- 第11回 教諭に必要な資質やスキル⑤ 幼稚園教育の役割と保育の基礎について（猪田）
- 第12回 教諭に必要な資質やスキル⑥ 子どもの発達と遊びを通じた教育について（猪田）
- 第13回 教諭に必要な資質やスキル⑦ 幼稚園での環境構成と教育の工夫について（猪田）
- 第14回 教諭に必要な資質やスキル⑧ 教育学の基礎と幼稚園教育への応用について（猪田）
- 第15回 実践演習の学びをまとめ、レポートとして提出する（猪田）

授業方法

教職課程における学びの総括として位置づけられる科目である。複数教員による担当で、講義および実践的内容、情報機器等を用いて演習形式で行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・幼稚園教育実習における自己課題や問題点等を振り返り、教職に就くに当たっての自分の課題についてまとめておく。
(学習時間10時間)
- ・「授業計画」を確認し事例研究ができるよう、自らの実践例をまとめる。(学習時間10時間)
- ・実習期間に経験した学級経営についての課題をまとめる。(学習時間10時間)
- ・実習期間に経験した保育実践を振り返り、自らの課題を明確にする。(学習時間10時間)
- ・テキストの中の『幼稚園教育要領』を熟読し、理解をする。(学習時間10時間)
- ・テキストの中の幼稚園と小学校との滑らかな接続に関する資料を収集し理解を深める。(学習時間10時間)

受講上の注意事項

- ・主体性をもって受講すること。
- ・実習での記録を整理し、実践事例が提出できるようまとめておく。
- ・実習等の活動記録から、自分自身の課題を考え、振り返りをしておくこと。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・各担当者が行う授業への取り組み 60%
- ・レポート（授業での各立案も含む）40%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20116	科目名 [単位数/学習時間]	教職実践演習(幼・小)＜小学校教育実習終了者用＞[2単位/90時間]					対面授業
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3月＞』 東京書籍							
ISBN	9784487287017	本体価格(円) (2026年1月現在)	505	生協 テキストNo.	26091	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		小坂 明・植山 佐智子・芝田 悦司						
実務経験のある教員による科目		小坂：公立小学校長 植山：公立幼稚園教諭・主任教諭・園長 芝田：教育委員会主事・公立小学校長						

科目の目的

教育課程や教育課程外での様々な活動を通して身に付けた教員としての資質能力を確かなものとする。その上で、教員生活をより円滑にスタートできるように、教員としての自分自身の課題を自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。実務経験（小学校・幼稚園教員）を活かして実践的教育を行う。

到達目標

- ・教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、児童や保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。
- ・児童の内的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営・保育指導ができる資質能力を培う。
- ・教育現場の生の情報を取り入れながら、教科指導、生徒指導、学級経営、保育指導など、教育・保育における実践的な指導力を養う。

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション：教職実践演習の目的・意義及び課題の設定（芝田）
- 第2回 学校園組織や教員の役割・職務内容等の理解について（芝田）
- 第3回 教育実習で見いだされた課題について（小集団にて）（芝田）
- 第4回 生徒指導・子育ての課題と方策について（芝田）
- 第5回 保護者・地域との連携について（芝田）
- 第6回 教諭に必要な資質やスキル① 特別な支援を要する事例から考える（植山）
- 第7回 教諭に必要な資質やスキル② 事例を基に保護者への支援を考える（植山）
- 第8回 教諭に必要な資質やスキル③ 実習での事例を踏まえて話し合い（植山）
- 第9回 教諭に必要な資質やスキル④ 幼稚園、小学校との接続を考える（各自の資料を参考に話し合い）（植山）
- 第10回 ①～④ まとめと発表（植山）
- 第11回 道徳の授業づくりについて（小坂）
- 第12回 道徳の指導略案検討について（小坂）
- 第13回 道徳模擬授業の取組について（小坂）
- 第14回 現行の学習指導要領で求められていることと、次期学習指導要領が目指すもの（小坂）
- 第15回 学びの振り返りとグループによるプレゼンテーションと講評、まとめ（小坂）

授業方法

- ・教員に必要な授業力を付けていくために、指導案作成・模擬授業を行う。
- ・各個人の課題解決に繋がる具体的な項目を提示し、学びを深めていく。
- ・事例研究や演習、グループワークを通して、実践力を付けていく。
- ・各自が資料をパソコン等で作成し発表する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜スクーリング受講前（予習）＞（下記①②合わせて、学習時間30時間）

- ①入学時より個々の学習内容、理解度等が示されているレポートやスクーリングの学びを見直すと共に、これまでの学びを振り返り、自身の課題を明確にし、目的意識をもっていること。
- ②教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、附則、テキスト第3章「特別の教科 道徳」、第6章「特別活動」を予習しておくこと。

＜スクーリング受講後（復習）＞（学習時間30時間）

すべての授業内容をしっかり把握し、理解し、教師としての力量を高めること。

受講上の注意事項

大学での学びを確認し、教員として着任したその日から活用できる知識や技能を身につける授業である。積極的に演習等に参加すること。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・「履修カルテ」に基づき自分自身の課題等に気づき、学びを明確にすることができる 20%
- ・学級経営案、道徳指導案、模擬授業、グループ討議、プレゼンテーション等を通して、教員として必要な資質・能力が付いているか 60%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表・表現等） 20%

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編＜平成30年 3 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編＜平成29年 7 月＞』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『生徒指導提要（令和 4 年12月）』 文部科学省HP
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3 年 1 月26日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和 4 年12月19日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（令和 6 年 8 月27日）』 中央教育審議会答申
- ・文部科学省 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和 6 年12月25日）』 中央教育審議会諮問

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20117	科目名 [単位数/学習時間]	音楽 [1 単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 初等科音楽教育研究会 『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社							
ISBN	9784276821026	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26060			
テキスト	● フェルディナント・バイエル 全音楽譜出版社 『標準バイエルピアノ教則本』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111010103	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,000	生協 テキストNo.	26092	グレードA・B選択者のみ		
テキスト	● ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー 北村智恵 『ブルクミュラー/ 25の練習曲』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111020102	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26093	グレードC・D・E選択者のみ		
科目担当		臼井 真・高 奈奈						
実務経験のある教員による科目		臼井：公立小学校音楽専科教諭 高：私立幼稚園音楽表現活動講師						

科目の目的

小学校での音楽表現において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、歌唱力やピアノ演奏力が十分に備わっていないといけない。

- ◆声楽（クラス授業）では、童謡・唱歌・歌曲・合唱曲を通して、発声法や歌唱法を学びながら豊かな表現力を身につける。身体表現をしながら、より豊かな表現での歌唱力を学ぶ。
- ◆器楽（各自の進度に合わせたグレード別個人レッスン授業）では、ピアノ奏法の基礎から学び、弾き歌いや身体表現のためのリズム曲の演奏法を身につける。

実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等の実践的な教育を行う。

到達目標

- ◆声楽
 - ・呼吸法及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付け、音程やリズムを正確に取り、表情豊かに歌唱することができる。
 - ・手話付きの歌曲を、手話を付けて歌唱することができる。
 - ・他の声部を聴きながら自分のパートの旋律を合わせることでできるハーモニー感を養う。
- ◆器楽
 - ・旋律、リズム、和音を正確に読み取る読譜力を身につけ、ピアノ曲や身体表現のためのリズム曲を音楽性豊かに演奏することができる。
 - ・表情豊かに弾き歌いをすることができる。
 - ・簡易伴奏付けによるピアノ伴奏ができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：声楽実技実習授業の進め方
- 第2回 声楽 実技実習授業①
- 第3回 声楽 実技実習授業②
- 第4回 声楽 実技実習授業③
- 第5回 声楽 実技実習授業④
- 第6回 声楽 実技実習授業⑤
- 第7回 まとめ（音楽理論全般について）と確認テスト（声楽）
- 第8回 オリエンテーション：器楽（ピアノ）実技実習授業の進め方、グレード分け、和音について
- 第9回 器楽（ピアノ）実技実習授業①
- 第10回 器楽（ピアノ）実技実習授業②
- 第11回 器楽（ピアノ）実技実習授業③
- 第12回 器楽（ピアノ）実技実習授業④
- 第13回 器楽（ピアノ）実技実習授業⑤
- 第14回 器楽（ピアノ）実技実習授業⑥
- 第15回 まとめ（実技試験全般について）と確認テスト（ピアノ）

授業方法

声楽と器楽（ピアノ）の授業を行う。

◎声楽【クラス授業】

- ・リラクゼーション リズムダンス
- ・呼吸法
- ・発声練習
- ・子どもの歌（唱歌・小学校合唱曲・手話付き歌）
- ・芸術歌曲
- ・合唱
- ・音楽理論

◎器楽（ピアノ）【個人レッスン】

・以下の表のように、A～Eのグレード別に分かれて、必修課題曲に取り組む。

①グレード表

グレード	内 容
A	全くの初心者で音符もあまり読めない
B	バイエルをほぼ終了している
C	バイエルを終了し、ブルグミュラー程度の曲なら数曲弾いている
D	ブルグミュラー程度の曲ならば、それほど練習に負担がかからない
E	ソナチネ（ソナタ）程度の曲をかなり弾いている

※グレードA～Eの選択基準について

器楽（ピアノ）の授業に関しては、授業開始時にグレードA～Eのどのグレードを選択するかを自己申告する。

各グレードの基準は上記のようにになっているが、次の②必修課題曲表を参考にして、各自どのグレードにするかを決めたい。え、必ず受講前に練習しておくこと。

②必修課題曲表

・「和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）及び移調」の課題については、スクーリングで詳しく説明する。和音付けの方法が分からない場合は、メロディーを右手で弾く練習をしておくこと。

全6回	器楽（ピアノ・弾き歌い）必修課題					
課 題 グレード	標準バイエル ピアノ教則本	ブルグミュラー 25の練習曲	保育のためのリズム曲集 ＜スクーリング受講許可 時に送付＞	カデンツ ＜スクーリング受講 許可時に送付＞	和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ） 及び移調	弾き歌い
グレードA （①グレード表 参照）	No.3,4,5,6,7,14 44,45,48,52		マーチ・かけあしよ り各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」（ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 「かたつむり」 ※簡易伴奏可
グレードB （①グレード表 参照）	No.65,78,80,86 88,96		マーチ・かけあしよ り各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」（ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より どちらか1曲 「うみ」 「虫のこえ」 ※簡易伴奏可
グレードC （①グレード表 参照）		No.2,5,6,7,9,11, 14,15,25より 2曲	マーチ・かけあし・ スキップより 各1曲ずつ計3曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 スキップ：No.39,41,49	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」 （ハ長調・二長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より どちらか1曲 「ふじ山」 ※簡易伴奏可
グレードD （①グレード表 参照）		No.2,5,6,7,9,11 14,15,25より 3曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プより 各1曲ずつ計4曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49	6つの調すべての カデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふじ山」 「もみじ」 ※簡易伴奏可
グレードE （①グレード表 参照）		No.14,15,17,24,25 より3曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プ・ワルツより 各1曲ずつ計5曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49 ワルツ：No.53,54,59	6つの調すべての カデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ト長調） 「こいのぼり」 （ヘ長調・任意の調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 2曲選択 「ふじ山」 「もみじ」 「われは海の子」 ※簡易伴奏可

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- I. 「声楽」については、スクーリング受講までに、テキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法』より、下記の歌唱共通教材曲について歌えるように練習しておくこと。
- ① 3年歌唱共通教材曲「ふじ山」（練習時間 1 時間）
 - ② 4年歌唱共通教材曲「まきばの朝」（練習時間 1 時間）
 - ③ 5年歌唱共通教材曲「冬げしき」（練習時間 1 時間）
 - ④ 6年歌唱共通教材曲「われは海の子」（練習時間 1 時間）
- II. 「器楽（ピアノ）」については、スクーリング受講までにグレードA・B・C・D・Eより各自のピアノ演奏スキルに合わせたグレードを1つ選び、下記の曲を練習しておくこと。
- ①『標準バイエルピアノ教則本』または『ブルクミュラー／25の練習曲』よりピアノ曲（練習時間 5 時間）
 - ②『保育のためのリズム曲集』＜スクーリング受講許可時に送付＞よりピアノ曲（練習時間 3 時間）
 - ③『カデンツ』＜スクーリング受講許可時に送付＞（練習時間 2 時間）
- ※グレードA・B・Cは八長調・ト長調・ヘ長調、グレードD・Eは6つの調すべてを左手で弾く練習をする。
- ④「弾き歌い」より歌曲の弾き歌い（練習時間 3 時間）

受講上の注意事項

＜持参する物＞

- ①スクーリング受講許可時送付の楽譜すべて
 - ②テキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法』と『標準バイエルピアノ教則本』または『ブルクミュラー／25の練習曲』（各自のピアノ演奏スキルに合わせて選択）
- ※上記の持参物を忘れた場合は、スクーリングを受講することができない。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み 20%
- ・声楽実技試験 30%
- ・器楽実技試験 40%
- ・音楽理論筆記試験 10%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20118	科目名 [単位数/学習時間]	美術 [1単位/45時間]			対面授業
テキスト						
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)	生協 テキストNo.			
科目担当		須増 啓之				
科目の目的 小学校図画工作科の内容について解説し、個人や共同での制作活動を通して、児童の造形表現について体験的に理解する。そして、様々な材料や表現方法、用具に触れることで指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情を養う。						
到達目標 - 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を理解し、図画工作科における造形指導の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。 - 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにし、他者の考え方や造形に触れながら自分とは異なる表現を楽しみ、受容することができるようになる。 - 児童の造形表現や内容について、活動を通して理解する。 - 造形活動に関心をもち、造形指導への意欲を培う。 - 活動について自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる（授業外学習）。						
授業計画 第1回 オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など） 自分の造形体験を振り返ることから造形表現について考える 第2回 描いてみよう ～形から発想しよう～ 第3回 パスで色をぬろう① ～いろいろなパスの表現を試そう～ 第4回 パスで色をぬろう② ～型紙を使って、パスを指でのぼそう～、及びパスについての基礎・基本 第5回 紙でつくろう ～紙を折ったり、切ったりして、いろいろな形を発見～ 第6回 絵具で色をぬろう① ～色について体験的に学ぼう～、及び色についての基礎・基本 第7回 絵具で色をぬろう② ～いろいろな用具を試して色をつけてみよう～ 第8回 うつしてみよう① ～彫刻刀を使ってみよう～、及び版画についての基礎・基本 第9回 うつしてみよう② ～彫刻刀を使って、回転木版画に挑戦～ 第10回 うつしてみよう③ ～つくった版にインクをつけてうつそう～ 第11回 仕組みを使ってつくろう ～動く仕組みを工夫して工作をしよう～ 第12回 感触を楽しもう ～粘土で遊ぼう～、及び粘土についての基礎・基本 第13回 材料で遊ぼう ～並べたり、積んだり、つなげたり～ 第14回 見てみよう ～つくった作品を鑑賞しよう～ 第15回 図画工作科の内容と児童の造形表現の特徴について						
授業方法 図画工作科の内容「造形遊び」や「絵や立体、工作」などの表現活動と鑑賞活動を行う（講義を含む）。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 - 授業での学習を深めるために、スクーリング受講前までにテキスト履修科目分のテキスト『子供に子供の美術を』（pp.56-80、pp.82-130）や参考文献を読み、図画工作科で大切にすることや指導方法などについて予習しておくこと。（学習時間 5 時間） - スクーリング受講後は、授業で取り組まなかった表現技法やさらに深めたい表現（授業で十分にできなかった表現を含む）などに各自取り組むこと。また、学んだことや授業で活動した作品のつくり方や工夫点、難しかった点、活動後の変化などについて、写真（制作過程や完成作品）などを使って自分なりにノートやデータ（WordやPowerPointなど）に視覚的にまとめて、学びを分析し深めること。（学習時間10時間）						
受講上の注意事項 【受講に関する注意等】 - 描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。失敗を恐れず、チャレンジすることが大切である。個人活動だけでなくグループ活動も行うため、積極的に参加すること。 - 実技がメインとなるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。 【持参する物】 - 以下の材料・用具（忘れると活動できないので、必ず各自準備のうえ持参すること。） [全日程共通] はさみ、カッターナイフ、のり、セロテープ [1日目で使用予定] オイルパステル（クレパスなど）もしくはクレヨン、折り紙 [2日目で使用予定] 水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※パレットや筆洗は本学で貸し出し可。） [3日目で使用予定] 両面テープ、木工用接着材 ※上記の材料、用具類は「教科教育法・図画工作」、「子どもと造形表現」などの授業でも使用する。なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。 ※テキスト履修科目分の内容への理解が深められるため、テキスト履修科目分のテキスト『子供に子供の美術を』を持参することをお勧めします。						

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・活動（制作・鑑賞）への取り組み 70%
- ・小レポート 30%

参考文献

- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・『図画工作科教科書 1～6年』 開隆堂出版または日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20132	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの食と栄養 [1 単位／45時間]				対面授業
テキスト	● 太田百合子 堤ちはる 『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本 第3版』 羊土社						
ISBN	9784758113809	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,600	生協 テキストNo.	26099		
科目担当		廣田 有加里					
実務経験のある教員による科目		管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）					

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力をはぐくみ、発達を支え、健康な身体を作る基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
- ・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
- ・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
- ・幼児期の生活習慣はその後も影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
- ・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
- ・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
- ・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

授業計画

第1回

子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題

第2回

栄養に関する制度／食事摂取基準と献立作成・調理の基本

第3回

子どもの発育・発達と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係

第4回

乳児期の食生活／乳汁栄養・離乳食期栄養の意義とその実践

第5回

幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食

第6回

学童期・思春期の心身の発達と食生活／学童期・思春期の食生活上の問題と対応と学校給食を活用した食育

第7回

食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／食生活指導及び食を通じた保護者への支援

第8回

食物アレルギーのある子どもへの対応／まとめとして、講義内容の理解度を確認するために試験を実施する

授業方法

- ・パワーポイントを使用した講義および演習をテキストと配付資料を用いて進める。
- ・受講生同士によるディスカッションを行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

- ・テキストpp.22-33を熟読し、栄養素の種類と機能について予習をしておくこと。（学習時間 6 時間）
- ・テキストpp.48-59を熟読し、妊娠前、妊娠期および授乳期の生活習慣が乳児に及ぼす影響について予習をしておくこと。（学習時間 4 時間）
- ・テキストpp.62-68を熟読し、乳汁栄養について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.68-75および参考文献『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』を熟読し、離乳食の意義と進め方のポイントを予習しておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.76-87を熟読し、幼児期の間食の意義と栄養問題について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.132-141を熟読し、児童福祉施設における食生活の実態と問題点について予習をしておくこと。（学習時間 3 時間）
- ・テキストpp.161-170を熟読し、食物アレルギーに関する新しい知識や見解を予習しておくこと。（学習時間 3 時間）

【復習】

- ・参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』から、離乳期の子どもへの意識、養育者の健康や食生活に対する考え方について復習する。（学習時間 2 時間）
- ・参考文献『令和 6 年国民健康・栄養調査の結果の概要』から、成人期（親世代）の生活習慣について復習する。（学習時間 1 時間）
- ・参考文献『日本人の食事摂取基準（2025年版）』の策定ポイントを正しく理解しておく。（学習時間 2 時間）

※参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』と『令和 6 年国民健康・栄養調査の結果の概要』の抜粋した資料は、スクーリング時に配付する。

受講上の注意事項

- ・保育士をめざす学生の素養として、日頃から食に関して興味や関心を持ち、新聞、書籍、雑誌、インターネットなどから情報を取り入れる習慣を持つ。
- ・子どもの望ましい発育のためには周りの大人が自覚ある生活を送ることが必要であるため、自分自身の食生活を振り返り、見直す姿勢を持ち、実践するように心がける。
- ・栄養素の基礎知識を身につけて受講に臨むこと。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・最終試験 50%
※試験は、講義の内容を理解した上で、設問に対して的確に解答していることを評価する。
- ・授業への取り組み 25%
※講義への参加態度に関しては、自ら積極的に発言する姿勢を評価する。
- ・提出物（課題） 25%
※課題の主旨を理解し、論理的に記述しているかを評価する。

参考文献

- ・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
- ・厚生労働省 『健康日本21（第三次）の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001158810.pdf>
- ・厚生労働省 『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針 リーフレット』
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf
- ・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf>
- ・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>
- ・厚生労働省 『令和6年国民健康・栄養調査結果の概要』
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001603146.pdf>
- ・『食物アレルギーの栄養食事指導の手引き2022』
<https://www.foodallergy.jp/wp-content/themes/foodallergy/pdf/nutritionalmanual2022.pdf>
- ・消費者庁 『食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/assets/caution_047_210120_0001.pdf
- ・農林水産省 『栄養素と食事バランスガイドとの関係』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20143	科目名 [単位数/学習時間]	教育実習事前・事後指導(初等)【幼稚園】[1単位/45時間]				対面授業
テキスト	● 文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館						
ISBN	9784577814222	本体価格(円) (2026年1月現在)	149	生協 テキストNo.	26101	文部科学省HPよりダウンロード可能	
テキスト	● 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館						
ISBN	9784577814246	本体価格(円) (2026年1月現在)	149	生協 テキストNo.	26102	文部科学省HPよりダウンロード可能	
科目担当		猪田 裕子					
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園教諭					

科目の目的

・ 幼児教育について理解を深め、幼稚園教諭としての資質の向上と実践に必要な力を身に付ける。

・ 様々な実習場面を想定することで、柔軟性及び対応力を養う。

・ 実習を通し、今後の自己の課題を明確にする。

到達目標

・ 幼児の興味や関心に沿った保育指導案を作成する。

・ 一日の保育の流れや個々の幼児の姿を的確にとらえた記録を作成する。

・ 必要な技術を身に付ける。

・ 実習の成果や評価を踏まえ、今後の自己課題を明確に持つ。

・ 教育的愛情に関する視点を深める。

授業計画

<事前指導授業計画>

第1回 幼稚園教育実習の意義と目的、及び各回授業の内容について（オリエンテーション）

第2回 幼児の特性、教師の役割について

第3回 教育実習の記録の書き方（環境の構成、教師の援助等の意味を考える）

第4回 DVD視聴を通して、幼稚園生活の一日の流れを把握する

第5回 エピソード記録の書き方

第6回 指導案の書き方

第7回 部分保育を想定した実技指導（季節の歌、絵本読み、身体を動かす遊び等）／課題を用いて行う模擬保育

第8回 模擬保育を振り返り学生同士で反省・評価をする

授業方法

<事前指導授業方法>

・ 幼稚園の生活が具現化できるよう講義や映像を通して学習する。

・ 毎日の保育記録が的確に作成できるように、模写や実際の映像をみて学習を進める。

・ 模擬授業を通し、歌や絵本、ゲームなどの実践的な能力を培う。

・ 教育現場でのマナーや心得、保護者対応のあり方などを学ぶ。

<事後指導>

・ 実習終了後の提出物『記録』によるものとする。なお、記録の内容や現場における評価から必要とみなされる場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・ 受講前（予習）…模擬保育で取り組む教材を作成し、スクーリング初日に持参すること。

ペープサート、エプロンシアター、手作り紙芝居等、各自で教材研究を行い作成すること。

(学習時間12時間)

模擬保育で使用する教材を想定し、その導入として行う手遊びを1つ、絵本を1冊選び、スクーリング初日に持参すること。

子どもの前で手遊びや絵本を読むことを意識して練習すること。(学習時間2.5時間)

・ 受講後（復習）…テキスト『幼稚園教育要領』（pp. 5 -13）の「第1章 総則」を熟読し、実習での学びを踏まえ考察すること。(学習時間14.5時間)

受講上の注意事項

・ 幼稚園現場での実習に備えた授業である。従って理論はもとより、実際に歌ったり、絵本を読んだりと模擬保育的な内容があるので、動きやすい服装で参加すること。

・ 事前にテキスト『幼稚園教育要領』や各種保育雑誌に目を通し、幼稚園教育について理解をしておくこと。

・ 授業外課題である教材研究で作成した教材は、確認のため初日に持参するが、使用予定は2日目である。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み 70%
- ・模擬保育への姿勢 15%
- ・課題等提出物 15%

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20143	科目名	教育実習事前・事後指導(初等)【小学校】[1単位／45時間]				対面授業
		[単位数/学習時間]					
テキスト	● 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍						
ISBN	9784487287031	本体価格(円) (2026年1月現在)	238	生協 テキストNo.	26028	文部科学省HPよりダウンロード可能	
科目担当		齋藤 隆彦					
実務経験のある教員による科目		中学校教諭（教科「国語科」）					

科目の目的

教育実習は、これまでに教職科目及び専門科目等で身に付けた教育に対する知見を実際の教育現場で試し、より鍛えていく意義ある機会である。この事前指導では、小学校における教育実習の目的や意義を理解し、心得や準備など、諸事項を学んで実習に備える。

担当者の実務経験をもとに教育実習で成長するための知識・技能、思考法などを内容とした講義・演習を行う。

到達目標

- ・ 小学校教育実習に向けて、実習の意義と概要を理解し、実習生としての心構えができる。
- ・ 自己紹介、実習記録や学習指導案の書き方、教室での言動など、実習に必要な知識やふるまいを理解し、身につける。
- ・ 「学習指導案」の作成・自己添削による授業の構想（またはミニ模擬授業）を通して、実際的な教育活動について、知識と技能を高めることを目的とする。

授業計画

<事前指導授業計画>

第 1 回 教育実習の意義と目的、教育実習の概観、心構えと服装、態度

第 2 回 学級経営、教科経営、生徒指導、教科指導

第 3 回 「自己紹介」を通して取材編集表現演習と教育実習の記録、観察演習

第 4 回 「自分を伝える」「子どもたちから受け取る」教室での表現と児童理解 それらをもとに「授業参観」や「実習日誌」の目的・方法を考える。

第 5 回 授業の構築と学習指導案 目標・発問・板書・ワークシート・評価等

第 6 回 「学習指導案」の自己添削とミニ模擬授業①

第 7 回 「学習指導案」の自己添削とミニ模擬授業②

第 8 回 「お礼の手紙」等の作法、教育実習で「学ばべきこと」「学びたいこと」

※上記計画の内容を行う予定であるが、その順序・各内容の軽重等に変更の場合がある。

授業方法

<事前指導授業方法>

講義方式と、受講生によるプレゼンテーション（自己紹介、授業構想等）、ペアまたはグループワーク等の演習方式で行う。

<事後指導>

実習修了後の提出物（教育実習記録・学習指導案・実習記録ノートなど）によるものとする。なお、必要と認められた場合は、個別面接指導を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講前

には、次の準備をすること。

1. 次の内容について考え、①②をあわせA4用紙 1 枚にまとめたものを作成する。（ワープロソフト等による作成可）
(学習時間 4 時間)
 - ①教育実習の期間中に、どんな力を高め、磨いていきたいのか。教育実習における自分自身の課題について。
 - ②教員志望の動機（なぜ、教員をめざすのか）、志望都道府県あるいは市の動機（なぜ、この都道府県あるいは市を選ぶのか）、教員として生かせる経験、めざす教員像について。
2. 実習校がすでに決定している場合は、実習校のHPなどで沿革、規模（児童数・教員数、学年構成など）、行事など、概要を把握しておくこと。決定していない場合は、任意の学校（自分の母校・近隣の学校など）について、同様の内容を調べ、「小学校」について把握に努めること。（学習時間 2 時間）
3. 小学校で指導する「学年別漢字配当表」（テキスト『小学校学習指導要領解説 国語編』）の漢字について、筆順を確認しておく。まれに、ひらがなの筆順のあやしい人もいるので、ひらがな、カタカナの筆順も確認しておく。
(学習時間 3 時間)
4. 次の①②③の 3 点を作成する。（ワープロソフト等による作成可）
 - ①挨拶文「教職員への挨拶（約200字）」「朝会における全校生への挨拶（約300字）」「担当学級児童への挨拶（約600字：何学年の児童へ向けての挨拶かも明記すること）」
A4用紙 1 枚に上記 3 つの自己紹介を書き分ける。（学習時間 2 時間）
 - ②自己紹介プリント
実習配属クラスにも「あなたの自己紹介」を掲示してもらえることになったと想定して、A4用紙 1 枚の「自己紹介ポスター」を書くこと。名前他、内容の項目やイラストなども自分で工夫・選択し作成する。（学習時間 2 時間）
 - ③学習指導案（教科は自由選択とする。）
任意に選択した 1 教科の単元について、A4用紙 3 枚程度にまとめる。
提出分と控え（自分用）として、2 部印刷してくること。
言うまでもないが、ネット等の資料の「丸写し」や「ほぼ丸写し」ではなく、自分自身で「この教科のこの題材を使って、児童にどんな力をつけたいか」を考えながら、作り上げる。（学習時間 4 時間）

スクーリング受講後 には、次の復習をすること。

1. 教員になるにあたって、講義の内容、他の受講生の意見などをもとに自分の課題を見直す。(学習時間 2 時間)
2. 教員志望の動機、都道府県あるいは市の動機について、講義の内容、他の受講者の意見などをもとに自分の動機を見直す。(学習時間 2 時間)
3. 板書など書字について、各自で見直し練習する。(学習時間 2 時間)
4. 挨拶文例・自己紹介ポスターを講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)
5. 授業参観の仕方・「実習日誌」の書き方を講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)
6. 学習指導案を講義の内容、他の受講生の意見などをもとに見直す。(学習時間 2 時間)

受講上の注意事項

- ・教師として相応しい服装で参加すること。(1 日目：実習初日に学校に向かう服装。2 日目：自分の想定する模擬授業にふさわしい服装。)
- ・「授業外学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間」の「スクーリング受講前の準備」で指示した、**次の(1)～(4)をスクーリング初日に持参すること。(※初日朝提出。提出物すべてに学籍番号と氏名を記載。)**
 - (1) 教育実習における自分の課題と教員志望の動機(スクーリング受講前の準備 1.①②)
 - (2) 挨拶文例(スクーリング受講前の準備 4.①)
 - (3) 自己紹介プリント(スクーリング受講前の準備 4.②)
 - (4) 学習指導案(スクーリング受講前の準備 4.③) <提出分と控え(自分用)として、2 部印刷してくること。>

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

なお、生成AIを利用した場合は、課題の末尾にその方法と程度を簡潔に記しておくこと。(例 「全部を書き終えた後チャットGPTを用いて文章を整えた」など。)

評価基準

- ・授業態度(講義を聴く、あるいは発言する態度。プレゼンテーションなどのペア・グループワーク時の参加の態度) 50%
- ・提出物(教育実習における自分の課題、教員志望の動機、挨拶文例、自己紹介プリント、学習指導案) 50%

参考文献

- ・筒井美紀 遠藤野ゆり 『ベストをつくす教育実習一強みを活かし実力を伸ばす』 有斐閣
- ※「教育実習」関係の書籍は上記以外にも多く出版されているので、図書館や書店で探し、自分なりに「よい」と思うものを熟読しておくこと。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」の **X**) を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20146	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（健康）[1単位／45時間]				対面授業
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第3版』 みらい						
ISBN	9784860156428	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26103		
科目担当		植山 佐智子					
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・主任教諭・園長					
科目の目的							
乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。また幼稚園、保育所、こども園において実際に実践していく中での知識を習得し、保育者としての実践力を身に付ける。幼児教育現場において学びが活かされるように、実践的内容をアクティブラーニングを通して学ぶ（運動遊びの保育指導案作成と模擬保育・「安全教育教材〇×クイズ」作成）。							
到達目標							
・子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める。 ・子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。 ・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。 ・子どもの健康と保育の意義について理解する。 ・授業については、グループワークで学びを深め、視聴覚教材や体験学習、遊びの指導案等の作成、子どもの健康に関する新聞記事等に目を通したり、情報機器を使い、アクティブラーニングを通してグループワーク研究を発表する。							
授業計画							
第1回 オリエンテーション 子どもの「遊びの中の学び①」を学び合う（保育3法を参考に）：園庭を描く実技「わらべうた」の遊びの展開を考える／グループで遊びについてどう保育するか考える（教材作り含む） 第2回 子どもの「遊びの中の学び②」を分析する（保育3法を参考に）：三つの資質能力分析 第3回 子どもの「遊びの中の学び③」を発表する（保育3法を参考に）：他者の分析を見る 第4回 安全教育について講義を聞き、園におけるその大切さを学ぶ 第5回 「〇×クイズ」を作成する・・・画用紙に6枚描いたり作ったりする 第6回 「〇×クイズ」を発表する・・・ほかの人の作品を見て学びを深める 第7回 危機管理について～東北大震災を通して学ぶ～ 第8回 振り返りとテスト／グループに分かれて発表をまとめる／グループで発表する							
授業方法							
・各単元終了後に受講後のまとめをする。 ・テキストを熟読し理解している上で、ワークショップによる講義や実技を通して遊びを展開する力を身につける。 ・受講生同士のディスカッションを大切にしながら、「健康に関する教材研究と発表」などのまとめを作成する。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
実践につながる学習を展開するので、スクーリング受講までにテキストを熟読し、健康に関する知識を身に付けておくこと。 (学習時間30時間)							
受講上の注意事項							
・授業では、グループディスカッションを予定しているので、積極的に参加する。 ・絵画や制作など実技を行うので、活動しやすい服装で出席すること。 ＜持参物＞色鉛筆・クレパスなど画材（園庭での遊びの分析と〇×クイズ）、色紙、USBメモリー、ハサミ、ホッチキス、のりなど保育教材を作ることのできる道具							
生成AIの利用について							
本科目の課題等作成においては、生成AIの利用は認めない。							
評価基準							
・テスト 30％ ・提出物 30％ ・実技・受講態度 40％							
参考文献							
・文部科学省 『幼児期運動指針 ガイドブック』 サンライフ企画又は文部科学省HP ・文部科学省 『幼児期運動指針』 ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館 ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館							
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連							
所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。							
課題に対するフィードバック							
スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	20147	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（人間関係）[1単位／45時間]					対面授業
テキスト	● 田村美由紀 室井佑美 『＜領域＞人間関係ワークブック』 萌文書林							
ISBN	9784893472625	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26104			
科目担当		福井 逸子						
実務経験のある教員による科目		公・私立幼稚園教諭（主任教諭）						

科目の目的

現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、乳幼児期の人との関わりは重要である。本科目では、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につけることを目的とする。実務経験を生かし、保育現場における実際のエピソード記録や映像等も取り入れながら、考察を深める機会を多く用いる。

到達目標

- ・保育における「人間関係」とは何かについて理解・考察を深める。
- ・領域「人間関係」のねらいと内容、保育実践上の配慮について理解・考察を深める。
- ・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
- ・グループワークによって、学習者同士の学びや保育観について、相互理解・考察を深める。

授業計画

- 第1回 保育内容「人間関係」について3つの現行のガイドラインより
- 第2回 フォトランゲージの実践ーグループ活動ー
- 第3回 保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶ① 指導案の書き方について
- 第4回 保育所保育指針・幼稚園教育要領から学ぶ② 教材研究、指導案の再考
- 第5回 指導計画の作成と実施（発表）
- 第6回 指導計画の実施と自己評価・他者評価
- 第7回 豊かな人間関係を導く保育実践のために（講義・グループ討議・発表）
- 第8回 人間関係における保育者の役割・再考と確認テスト

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。
- ・事前に調べ、取り組んだ課題学習（指導計画）については、グループディスカッション等を基に再考した上で、実践（発表）を行う。実践後は各自で振り返りを行い、指導計画のブラッシュアップをはかる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- スクーリング受講までに、下記の課題に取り組み、スクーリング初日に②を提出すること。
 - ①テキスト第1章～第10章にある章末の課題は、各章を丁寧に読み進めた上で、取り掛かる。（学習時間10時間）
 - ②スクーリング初日に提出する課題は以下の通りである。（学習時間15時間）
 - テキスト第13章の課題（2）に取り組む。A4サイズ、タテ型横書きとし、1課題あたり1枚の用紙を使用すること。本学所定レポート用紙やルーズリーフは用いず、パソコン用の白紙にすること。
 - テキスト第14章の（1）の指導案を作成する。＊ここでは、ゲーム編、製作編のどちらか一つを選ぶ。p.135、p.136をコピーして使用してもよい。また、該当ページの書式にならって、パソコン用の白紙（A4サイズ）を使用してもよい。＜パソコン（文書作成ソフト等）の使用可。＞
- スクーリング受講後は、スクーリングでの学びをふまえ、対象年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間5時間）

受講上の注意事項

- ・上記の事前課題①、②及び参考文献『幼稚園教育要領』他のガイドライン（解説書でも可）を必ず持参すること。
- ・グループディスカッションや個別に発表等も行うので、積極的に授業に参加することが望ましい。
- ・スクーリング最終日の試験は、持ち込み一切不可で行う。
- ・講義の中では、質疑応答の時間も設けるので、疑問などがある場合は、積極的に意見を述べて欲しい。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- 次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。
 - ・事前課題を行うなど、意欲的に授業に参加できているか 30%
 - ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 30%
 - ・試験問題の趣旨に沿って、授業で学んだ内容について、明確にわかりやすく解答できているか 40%

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』
北大路書房
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20148	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（環境）[1単位／45時間]					遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	●無藤隆 福元真由美 『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』 萌文書林							
ISBN	9784893472588	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26105			
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社							
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055			
科目担当		佐藤 智恵						
実務経験のある教員による科目		保育士						

科目の目的

学生が主体的で対話的な学びが得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育方法や保育内容のあり方への理解を深める。指導計画の作成、実践、ふり返りという流れを体験的に理解させるとともに、情報機器を活用する方法についても学びを深める。保育士としての実務経験を活かし、実際の保育実践で行える指導計画作成や模擬保育について教授する。

到達目標

主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

授業計画

- 第1回 いろいろな保育形態や指導方法について
- 第2回 保育形態に関するDVD視聴（視聴覚教材）
- 第3回 指導計画作成について
- 第4回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の計画①（指導計画作成）
- 第5回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の計画②（指導計画作成）
- 第6回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の実践①（模擬保育）
- 第7回 様々な道具や遊具を用いた保育内容の実践②（模擬保育とふり返り）
- 第8回 まとめ（領域「環境」の視点から保育実践を理解する）と最終レポート

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・グループワークによる指導計画の作成や模擬保育、ふり返り
- ・DVD視聴後のグループ討議

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・書籍やインターネットから情報を収集し、「様々な道具や遊具を用いた保育内容」をく5歳児クラス（20名）：45分～1時間程度の設定保育の中で行えるもの、室内での遊び。＞の条件で、5つ考え、箇条書きで記述したものをスクーリング初日に提出する（詳細はTeamsで連絡）。その中から指導案を作成し、2日目に模擬保育を行うので、実現可能なものを考えてくこと。「様々な道具や遊具」とは、画用紙・いろいろがみ・空き箱・紙皿なども含む。（学習時間10時間）
- ・スクーリング1日目に指導案の書き方を学習するので、終了後、書き方を復習しておくこと。指導案は、スクーリング2日目授業終了時に提出する。（学習時間3時間）
- ・スクーリング受講後、テキスト『新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』のpp.32-35を熟読し、保育実践における保育者の役割についての学びを深める。（学習時間17時間）

受講上の注意事項

- ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・2日目の模擬保育に必要な材料は、各自で用意すること。
 （※模擬保育はオンライン上で一人ずつ実施する。）

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・グループワークや模擬保育などへの参加の積極性 20%
- ・レポート 50%
- ・提出物（「様々な道具や遊具を用いた保育内容を記述した用紙」、「指導案」） 30%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20150	科目名 [単位数/学習時間]	保育内容（表現）[2単位／90時間]				対面授業
テキスト	● 文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館						
ISBN	9784577814475	本体価格(円) (2026年1月現在)	240	生協 テキストNo.	26107		
テキスト	● 厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館						
ISBN	9784577814482	本体価格(円) (2026年1月現在)	320	生協 テキストNo.	26108		
テキスト	● 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館						
ISBN	9784577814499	本体価格(円) (2026年1月現在)	350	生協 テキストNo.	26109		
科 目 担 当		岩濱 里江子					
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）					

科目の目的

学生が主体的で対話的な学びを得られるよう、グループワークや模擬保育の実践を取り入れ、保育内容や保育方法への理解を深める。幼児教育施設における表現活動を楽しむ幼児の具体的な姿をもとに、指導計画の作成、実践、ふり返りという流れを体験的に理解するとともに、指導上の留意点及び評価の考え方についても、実務経験を活かして教授する。

到達目標

- ・ 乳幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、また、5 領域すべてから捉えた総合的な「表現活動」のねらい及び活動の工夫について理解することができる。
- ・ 「表現」に関わる指導場面を想定し、その保育を構想する方法（評価を含む）を身に付ける。
- ・ 他者と共に協働し、互いの考えや表現の姿を受け入れ、共感し、より豊かな表現を生み出すことができる。

授業計画

第 1 回

オリエンテーション

第 2 回

絵本や物語を題材にした、幼児の表現活動鑑賞からレポート作成

第 3 回

表現活動（1） 総合表現を考える ～ねらい、題材、活動の工夫～

第 4 回

表現活動（2） 総合表現を考える（計画①）

第 5 回

表現活動（3） 総合表現を考える（計画②）

第 6 回

表現活動（4） 総合表現を考える（実践①）

第 7 回

表現活動（5） 総合表現を考える（実践②）

第 8 回

表現活動（6） 総合表現を考える（実践③）

第 9 回

表現活動（7） 総合表現を発表する（発表①）

第10回

表現活動の鑑賞から評価 改善点を考える

第11回

表現活動（8） 総合表現を考える（実践④）

第12回

表現活動（9） 表現活動を発表する（発表②）

第13回

表現活動の鑑賞から評価 指導計画の作成

第14回

5 領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目の視点から「表現活動」を考える

第15回

レポート作成 「表現」の視点から子供の育ちと保育者の役割について考える

授業方法

- ・ PC教室においての講義、ダンス室等での実践を行う。
- ・ テーマに基づいてグループ学習を行う。
- ・ 学習成果の発表や鑑賞、パソコンを活用した最終レポート、指導案作成を行う。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

<スクーリング受講前（予習）>

表現活動に関して、題材、テーマにしたいお話、そのために使用したい絵本や童話、資料や音楽、小道具などの作品づくりのための材料等について、調べて、準備しておく。(学習時間50時間)

<スクーリング受講後（復習）>

スクーリングで学習した内容について、さらに理解を深めるように復習する。(学習時間10時間)

受講上の注意事項

- ・ 将来、保育者をめざす人には必要な身体表現活動なので、積極的に参加すること。
- ・ 実技の際は、運動着やジャージ等の動きやすい体育実技の服装等で臨むこと（髪は括り、アクセサリは外す）。
- ・ 持ち物：筆記用具、書く時の下敷き代わりになる物、体育館シューズ、汗拭きタオル、水分補給用飲み物
必要に応じてデータ保存用USBメモリー等や表現活動に必要な資料・材料等

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・表現発表 40% ・最終レポート 20% ・鑑賞レポート 10%
- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、グループ活動など） 30%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20158	科目名 [単位数／学習時間]	子どもの理解と援助 [1 単位／45時間]				対面授業
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社						
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055		
科目担当		権藤 眞織					

科目の目的

人間形成の土台を築く乳幼児期では、子どもたちの心身の育ちがめざましく、多く変化する。その発達の過程を理解し、発達段階に合わせた保育や援助が求められる。生活の中で、子どもたちが何を経験し、何を学んでいくのかについて理解を深め、子どもの学びや育ち、発達の様相を適切に援助・支援できる保育実践についても学ぶ。

到達目標

- ・「保育」とは何か、「こどもの発達」とは何かについて理解・考察を深める。
- ・子どもを観察・理解する方法について学び、乳幼児期の子どもの発達について、理解・考察を深める。
- ・「学習」のプロセスについて理解を深め、学習過程の支援・援助について学ぶ。
- ・保育者援助や保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
- ・グループワークによって、学習者同士の学びや保育観について、相互理解・考察を深める。

授業計画

第1回

はじめに：保育雑誌『保育とカリキュラム』から学ぶ

第2回

保育と心理学 ～保育とは何か 心理学とは何か～

第3回

子どもの発達 ～発達とは何か～

第4回

発達過程に応じた保育実践 ～子どもの援助とは何か～

第5回

子どもの生活・遊びと学び

第6回

基本的生活習慣の発達および獲得と援助

第7回

さまざまな角度からの子ども理解とその方法と評価

第8回

発達障害に対する援助、まとめ（発達の統合的理解と実践にむけて）・確認テスト

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。
- ・PCを活用するなどして事前に調べたり、取り組んだりした課題学習について、グループディスカッション、発表をする。また、模擬保育実践も行う。その後、質疑応答の時間も設ける。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、以下の（１）から（５）の課題を行い、プリントアウトしてスクーリング初日に持参すること。スクーリング時に互いに発表し、ディスカッションを予定している。<ワープロソフト使用可。>

（１）

保育とは何か。（80字～150字程度／学習時間 3 時間）

（２）

子育てとは何か。（80字～150字程度／学習時間 3 時間）

（３）

あなたが保育者に求めることは？最も重視したいことを 3 項目程度あげなさい。（100～200字程度／学習時間 3 時間）

（４）

近年、保育・教育業界では、「生きる力」の育成に力点を置いている。あなたの考える「生きる力」とは何か。生涯にわたって人生を切り拓けるような力とは何か。そして、乳幼児期に育んでおくべき「生きる力」とはどのような力だと思うか。（学習時間 3 時間）

（５）

今現在の社会状況や世の中を見渡し、あなたは、乳幼児期の子どもや子育て家庭の人々が直面している課題や問題があると感じるか。あるいは、将来的に懸念されるようなことでも構わない。もし、あるとするならば、それはどのような課題や問題、懸念であるだろうか。あなたが深刻だと思うものを 3 項目程度あげなさい。（学習時間 3 時間）

スクーリング受講後は、以下の（１）、（２）に取り組む。

（１）

『保育所保育指針』をよく読み、年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間 5 時間）

（２）

乳児期、幼児期にふさわしい保育実践を立案し、指導案を作成する。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・保育雑誌『月刊 保育とカリキュラム』（ひかりのくに）を持参すること。何月号でもよいが（2025～2023年のバックナンバーでも可）、4月号は年間カリキュラムがついてるのでとても参考になる。
- ・スクーリング最終日の確認テストは、持ち込み可。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題に取り組むなど、意欲的に授業に参加できているか 50%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 50%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・永田豊志 『すべての勉強は、「図」！どうまくいく 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』 三笠書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20161	科目名 [単位数/学習時間]	乳児保育演習〔1単位／45時間〕				対面授業
テキスト	● 乳児保育研究会『資料でわかる乳児の保育新時代 改訂 5 版』 ひとなる書房						
ISBN	9784894642539	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26115		
科目担当		大江 まゆ子					
科目の目的 乳児の育ちを支える保育士としての実践力を身に付けるため、乳児保育の理論と実際を習得することを目的とする。長時間、保育所及び乳児院等で過ごす子どもたちの豊かな成長、発達の保障に必要な知識と実際の保育における技術を学ぶ。 ・ 乳児保育の意義、役割等について理解する。 ・ 0 歳・1 歳・2 歳の発達過程を理解し、生活や遊びにおいて乳児の発達を保障する保育内容と方法を学び、乳児保育の具体的な事例の検討を踏まえながら保育者の援助や配慮を学ぶ。 ・ 乳児保育における環境と保育のあり方を学ぶ。							
到達目標 ・ 乳児保育に携わる保育者としての確かな保育観と専門性を養い、愛情をもって適切に援助する実践力を身につける。 ・ 0 歳・1 歳・2 歳児の発達特性を理解し、個人差に配慮しつつ、一人ひとりの発達を保障するための生活や遊びの環境を考え、保育の内容や方法を理解する。 ・ 乳児を取り巻く社会情勢の変化に伴い、子育ての状況も大きく変化している現状を理解する。 ・ 多様化する保育ニーズに応えるため、乳児保育の意義や基本理念の理解を深め、課題を考察する。 ・ 保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。							
授業計画 第 1 回 乳児期の重要性和と乳児保育の意義と目的 第 2 回 0 歳児の心身の発達と保育 第 3 回 1 歳児の心身の発達と保育 第 4 回 2 歳児の心身の発達と保育 第 5 回 個々の発達を促す生活と遊びの環境を保障する乳児保育についてグループディスカッション・発表 第 6 回 乳児保育の現状・課題と保護者との連携 第 7 回 多様化する保育ニーズに応える保育 第 8 回 まとめ＜確認試験（授業中テスト）と乳児保育の役割＞							
授業方法 講義、DVDを活用した授業、討論発表等 ・ 前半はテキスト、乳児の発達の姿のDVDを用いながら講義を行い、後半は、乳児保育の実際を視聴後にグループディスカッションを行い、発表、討論を行う。 ・ テキストをもとに講義する。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・ スクーリング受講までに、テキストの「はじめに」～第 3 章（pp.2-87）、第 5 章（pp.108-125）を予習しておくこと。また、参考文献『保育所保育指針』の第 1 章、第 2 章、第 4 章を一読しておくこと。（学習時間15時間） ・ テキスト第 3 章（pp.62-87）をよく読み、テーマ「0 歳児期、1 歳児期、2 ～ 3 歳児期の遊びの様子と必要な環境構成および保育者の関わり」について、1,000 字程度でまとめたレポート（A4 用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間 5 時間） ・ スクーリング受講後は、テキストの第4章、第6章、第7章、第8章をよく読んで、保育の実際に必要な事項について学習すること。（学習時間10時間）							
受講上の注意事項 ・ スクーリング初日には予習で事前作成したレポートを必ず持参。 ・ スクーリング最終日の確認試験（授業中テスト）は、持ち込み一切不可で行う。 ・ グループディスカッションを行うので、積極的に参加すること。 ・ テキストを必ず持参。							
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準 ・ 確認試験（授業中テスト） 50% ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表などにより評価する。） 30% ・ その他（授業終了時に提出を求める小レポート） 20%							

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・ChaCha Children & Co. 『見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II』 萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20162	科目名 [単位数/学習時間]	社会的養護Ⅱ [1単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 吉田眞理 高橋一弘 村田紋子 『児童の福祉を支える <演習> 社会的養護Ⅱ 第2版』 萌文書林							
ISBN	9784893474209	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26117			
科目担当		波来谷 徹生						
実務経験のある教員による科目		児童養護施設施設長						
科目の目的 ヤングケアラーの問題が多く取り上げられているが、本来自分たちができるはずの通学等もできなくなっている。その状況の中でも特に子育て世帯が貧困で孤立し虐待が発生していると考えられる。 本科目では「子どもの最善の利益」とは何かを考え、児童養護施設を利用する家庭の状況を把握し、施設が行っている児童・親への援助方法を検証する。そして、国が里親委託を推進している理由と施設の小規模化により現場が抱える問題点を考え、援助する大人に求められる資質と社会的養護のあり方を考えていく。								
到達目標 「子どもの最善の利益」とは何か「権利擁護と意見表明の受け止め方」について考えていく。 - 家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事・学業や進学之机を奪われている子どもたちがいるという現状を知り、どういった社会的支援が有り、どういった支援がなされているかを学習する。そして、施設・小規模施設・里親養育の現状を比較して、それぞれのよい所・不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守るための「社会的支援」はどうあるべきか考える。								
授業計画 第1回 社会的養護における子どもの理解と支援方法 第2回 社会的養護における保育士等の専門性 第3回 児童養護の体系と児童福祉施設の概要 第4回 施設養護・家庭養護の生活と支援の違い 第5回 里親の種類と里親制度の実態 第6回 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその実践 第7回 地域への支援と施設の在り方 第8回 今後の課題と展望								
授業方法 - 児童養護施設で生活する子ども達の事例を例示しながらテキストを通して講義を行い、社会的養護の現状を説明し社会の抱える課題を検証する。 - できるだけ事例を取り上げながら説明する。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 - テキストを読み、子どもの権利条約・児童憲章を参考にして「子どもを真ん中」に支援方法を考える。そして、「子どもの最善の利益とは何か」について自分の意見をまとめ、400字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間30時間） - 先にテキスト履修分の学習を進めており、レポートがすでに返却されている場合は、スクーリング受講までに見直して復習しておくこと。								
受講上の注意事項 - テキストを読み込んで受講すること。 - 児童養護施設についての文献を読んでおくこと。 - テキストは授業中に使用するので必ず持参すること。								
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。								
評価基準 - 最終試験 50% - 授業への取り組み 50%								
参考文献 - 児童養護研究会 『養護施設と子どもたち』 朱鷺書房 - 土井高德 『神様からの贈り物 里親土井ホームの子どもたち』 福村出版 - 小田兼三 石井勲 『養護内容の理論と実際』 ミネルヴァ書房								
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。								
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。								

科目コード	20166	科目名 [単位数/学習時間]	子どもの健康と安全 [1単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 高内正子 梶美保 『保育の場で生きる 子どもの健康と安全』 建帛社							
ISBN	9784767951249	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,100	生協 テキストNo.	26121			
科目担当		小島 光華						
科目の目的 保育の現場で起こりうる様々な状況に対応できる実践力及び応用能力を養うと同時に、必要な技術を習得する。内容として、子どもの成長と発達、健康状態を把握するための観察と評価、子どもの養護と看護に必要な技術、緊急時の応急処置、事故や安全管理の方法、保健面での子育て支援などについて広く学習する。								
到達目標 - 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 - 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ保育における感染症対策、衛生管理・事故防止及び、安全対策・危機管理・災害対策について理解する。 - 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。 - 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態に即した適切な対応について理解する。 - 子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。								
授業計画 第1回 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助：身体計測、発育の評価 第2回 保育における健康及び安全管理①：衛生管理、感染症対策、全身の清潔（沐浴、清拭） 第3回 保育における健康及び安全管理②：事故防止及び安全対策 第4回 子どもの体調不良等に対する適切な対応①：バイタルサインズの測定、電法、与薬 第5回 子どもの体調不良等に対する適切な対応②：応急処置、救急蘇生法、エピペン 第6回 保育における保健的対応：抱き方、寝かせ方、衣服の着脱、おむつ交換、調乳 第7回 健康及び安全管理の実施体制：保健活動の計画及び評価 第8回 まとめと確認								
授業方法 ・1項目ごとに講義、実習を行う。 ・実習はペアまたはグループで実施する。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキスト・下記ガイドライン（3種類）を熟読しておくこと。（学習時間30時間） ①『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）』 厚生労働省 2019（平成31）年4月 ②『保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版）』 こども家庭庁 2018（平成30）年3月（2023（令和5）年5月一部改訂／同年10月一部修正） ③『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成28年3月								
受講上の注意事項 【受講に関する注意等】 ・乳幼児と接するにふさわしい動きやすい服装・履物で受講すること。沐浴の実習時は半袖が望ましい。（スーツ、スカート、ハイヒール、サンダル、ネイル不可）。 【スクーリング受講時の持参物】 ・指定テキスト ・上記のガイドライン（3種類） ※プリントアウトして持参またはデバイス上で閲覧できるようにしておくこと。 ・2日間とも使用：ハンドタオル1枚 ・1日目で使用：バスタオル1枚、体温計（実測体温計は不可）、飲料水（水または茶）、ティースプーン								
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。								
評価基準 ・確認試験（授業中テスト）70%（テキスト・資料持ち込み不可） ・レポート 20% ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表・表現などにより評価する） 10%								
参考文献 ・小野次朗 榊原洋一 『幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』 ジアース教育新社								

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20167	科目名 [単位数/学習時間]	子育て支援 [1単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 公益財団法人児童育成協会 『新・基本保育シリーズ 19 子育て支援』 中央法規出版							
ISBN	9784805857991	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26122			
科目担当		北野 富美子						
実務経験のある教員による科目		公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長						
科目の目的 保育士は専門的知識や技術を持って、社会的養護、虐待を受けた子どもや障害がある子どもなどの支援、保護者対応や地域の子育て支援等を行う。そのための子育て支援の意義と現場での実践事例を通して、子どもの育ちを支え、保護者や地域の育児力を高められるよう理論と技術を学ぶ。実務経験を活かして教授する。								
到達目標 ・子どもの最善の利益と福祉の重要性を学ぶ。 ・保育者の行う子育て支援の特性について学ぶ。 ・地域の資源の活用と関係機関との連携・協力について学ぶ。 ・多様な支援ニーズを抱える子育て家庭を理解する。								
授業計画 第1回 子育ての現状と子育て支援の必要性 第2回 保育における支援とその実際 第3回 職員間の連携・協働 第4回 保育所等における支援 第5回 地域の子育て家庭における支援 第6回 特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援 第7回 保育・教育相談支援の方法と技術（事例検討：保護者の立場からのロールプレイ） 第8回 保育者の求められる子育て支援とは 確認テスト								
授業方法 ・講義と演習により保育現場における子育て支援の実際を経験する。 ・テキストにより講義を行う。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・平成27年4月より、子ども・子育て支援新制度が本格的に実施されている。「子ども・子育て関連3法」で3つの法律と7つの特徴の中に、「地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実」が挙げられている。あなたの居住地で、どのような子育て支援（メニュー、内容等）が実施されているか調べ、800字程度にまとめたレポート（A4用紙、ワープロソフト使用による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間5時間） ・子どもの最善の利益と福祉の重要性について予習しておくこと。（学習時間5時間） ・保護者に対する支援と指導（保育所・幼稚園・こども園・地域の子育て家庭）について予習・復習すること。（学習時間5時間） ・保育現場での実際の事例を検討し、グループ討議やワークショップ等で発表するので練習しておくこと。（学習時間10時間） ・まとめと確認テスト調べをすること（復習）。（学習時間5時間）								
受講上の注意事項 ・テキストを必ず持参すること。 ・グループ討議・ワークショップ等を行うので積極的に参加すること。 ・スクーリング最終日に確認テストを行う。（テキスト持ち込み不可）								
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。								
評価基準 ・確認テスト（筆記試験） 60% ・授業への取り組み（授業態度、関心、意欲、発表、表現等により評価する） 40%								
参考文献 ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社								
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。								
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。								

科目コード	20169	科目名 [単位数/学習時間]	特別支援教育入門（初等）[1単位／45時間]					遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 小林倫代 『改訂版 教員と教員になりたい人のための 特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる。』 学研教育みらい							
ISBN	9784058017623	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26123			
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社							
ISBN	9784805403303	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26055			
テキスト	● 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）<平成29年3月>』 東京書籍							
ISBN	9784487287017	本体価格(円) (2026年1月現在)	505	生協 テキストNo.	26091	文部科学省HPからダウンロード可能		
科目担当		瀬戸山 悠						

科目の目的

- ・幼稚園・小学校における障害のある幼児・児童の障害の特性や教育の体制、目的、支援の方法について学習する。
- ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童について、生活・行動上の課題と支援方法を学習する。
- ・障害のある幼児・児童の保護者や関係機関との連携について学習する。

到達目標

- ・障害のある幼児・児童の基本的な障害特性について概要を理解する。
- ・障害のある幼児・児童に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。
- ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。
- ・保護者・関係機関との連携について理解する。

授業計画

- 第1回 特別支援教育の基本的考え方を知る。
- 第2回 五障害（視、聴、知、肢、病）に関して理解する。
- 第3回 発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。
- 第4回 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。（教育課程、自立活動、交流及び共同学習）
- 第5回 通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。
- 第6回 通常の学校における支援体制について理解する。
- 第7回 保護者・関係機関との連携について理解する。
- 第8回 確認テストとまとめ（「到達目標」にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返りと確認及び質疑応答）

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・テキスト『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』を用い、「到達目標」に基づいた基本的な内容を幅広く講義する。必要に応じて資料を配付する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、テキスト『教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト』の第1章～第5章を予習しておくこと。

◆幼稚園教諭免許状の取得を希望する場合は、以下のテキストや参考文献に目を通しておくこと。（学習時間30時間）

『幼稚園教育要領』第1章 総則 第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導

『幼稚園教育要領解説』第1章 総説 第5節 特別な配慮を必要とする幼児への指導 1 障害のある幼児などへの指導
(1) 障害のある幼児などへの指導

◆小学校教諭免許状の取得を希望する場合は、以下のテキストや参考文献に目を通しておくこと。（学習時間30時間）

『小学校学習指導要領』第1章 総則 第4 児童の発達の支援 2 特別な配慮を必要とする児童への指導 及び「第2章 各教科 第1節 国語 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (9)」

『小学校学習指導要領解説 総則編』第3章 教育課程の編成及び実施 第4節 児童の発達の支援 2 特別な配慮を必要とする児童への指導 (1) 障害などのある児童などへの指導 ① 児童の障害の状態等に応じた指導の工夫

『小学校学習指導要領解説 国語編pp.159-160、社会編pp.139-140、算数編pp.327-328、理科編p.97、生活編pp.65-66、音楽編p.122、図画工作編p.111、家庭編p.76、体育編pp.165-166、外国語活動・外国語編pp.47-48、p.127、特別の教科・道徳編pp.113-114、総合的な学習の時間編pp.43-44、特別活動編pp.148-149

受講上の注意事項

- ・テキストを必ず準備すること。
- ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・スクーリング最終日の確認は記述式試験を行う。テキストと配付資料の参照を認める。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表など） 20%
- ・記述式試験（最終時間に実施） 80%

参考文献

- ・文部科学省 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』 文部科学省HP
 - ・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
 - ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP
- このほか、小学校学習指導要領 解説の各教科編等を参考にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20171	科目名 [単位数/学習時間]	教科教育法・外国語（英語）[1単位/45時間]				遠隔 + 対面						
テキスト	● 樋口忠彦 加賀田哲也 泉恵美子 衣笠知子『最新 小学校英語教育入門』 研究社												
ISBN	9784327411084	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26125								
科目担当	眞崎 克彦												
実務経験のある教員による科目	公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事												
科目の目的 テキストの実践的な内容の章を講読するとともに、映像資料を視聴したり、実務経験のある担当者によるモデル授業に児童として参加したり、模擬授業を行ったりすることによって、教授方法の理解を深め、実践的な指導力を身につける。													
到達目標 小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識と実践的指導技術を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す（やりとり・発表）」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目指す。さらに、外国語指導助手（ALT等）とのチームティーチングの方法についても理解を深める。													
授業計画 第1回 【オンライン】 オリエンテーション、小学校の英語教育の基礎知識・小学校英語教育の歴史 2日目の模擬授業をイメージしながら、発音練習等に取り組む。(第1回から第4回) ・小学校英語で使える文法の範囲、語彙・教室英語（テキスト 資料1 pp.229-233） ・小学校の英語運用能力（4技能・5領域） 第2回 【オンライン】 アクティビティの考え方と実践1 ＜聞く・話す活動＞ ・Small Talk with Ema sensei (Model Talk) ・Teacher Says (Simon Says)・絵本の読み聞かせ (The Very Hungry Caterpillar by Eric Carle 他) その他の活動 第3回 【オンライン】 アクティビティの考え方と実践2 ＜読む・書く活動＞ ・Alphabet Jingle (ABC Chants) ・文の書き方のおさらい Rules of Writing 第4回 【オンライン】 授業過程と学習指導案の作り方（12章） 授業づくり事前準備からふりかえりまで（13章） ・年間計画、単元計画、本時の計画・導入と展開 ・模擬授業で自分の行う活動を決定、授業準備、指導案作成 第5回 【対面】 指導案の具体的な書き方、模擬授業についての注意事項 第6回 【対面】 模擬授業説明、模擬授業1と2：（教師役1名 児童役3名）×2授業（1セット＝模擬授業15分＋ふりかえり10分）第2回～第4回で学習したActivityを参考に、＜聞く・話す活動＞＜読む・書く活動＞から一つ選び、グループ内で模擬授業する。グループのメンバーがローテーションで教師役、児童役をする。模擬授業のふりかえり 第7回 【対面】 模擬授業3と4：（教師役1名 児童役3名）×2授業（1セット＝模擬授業15分＋ふりかえり10分）第2回～第4回で学習したActivityを参考に、＜聞く・話す活動＞＜読む・書く活動＞から一つ選び、グループ内で模擬授業する。グループのメンバーがローテーションで教師役、児童役をする。模擬授業のふりかえり 第8回 【対面】 授業のまとめ （1）第1日目の知識・理解のテスト （2）模擬授業のふりかえりを含めて、2日間の学習についてレポートを作成。													
授業方法 第1～4回＜スクーリング1日目＞はMicrosoft Teamsを利用したオンライン（同期型）授業 第5～8回＜スクーリング2日目＞は本学キャンパスでの対面授業 講義やディスカッション、グループワーク、模擬授業などを組み合わせて授業を進める。													
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 テキストの第1章～第14章から、1章を選ぶ（注意：テキスト履修科目分で選んだ章は重複させないこと）。選んだ章の章末の「学習課題」のうち、いずれか1問についてテキストの内容をまとめ、自分の意見を書いてスクーリング2日目に提出すること。レポートには、「学習課題」の問題の文章と、キーワード（3つ～5つ）を明示すること。キーワードは、問題の文章（タイトル）の下に記述し、レポート本文内のキーワードには、すべて下線を引くこと。（1,000字程度。A4用紙でパソコン等による作成可。）（学習時間30時間） 【注意事項】 1. 「学習課題」は、テキストを読んで取り組めるものを選択すること。 2. テキスト履修科目分のレポート課題で選んだ課題は、重複させないこと。													
受講上の注意事項 ・オンライン（同期型）授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、オンライン授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。 ・テキストの内容を踏まえた上での授業を行うため、テキスト全体をよく読んでおくこと。 ・4人組のグループで模擬授業発表を行うので、あらかじめ準備をしておくこと。スケッチブック、カラーペン、100円ショップのホワイトボード、学習カードの材料等、各自で必要なもの。 ・授業外学習で課しているレポートは、対面授業日（2日目）のみでの提出となるため、持参提出を忘れないこと。													

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 提出課題レポート（事前） 20% （2日目対面授業での提出となるので、必ず持参して提出すること。）
- ・ 授業への取り組み 30%
- ・ 模擬授業発表（事後レポートを含む）と確認テスト 50%

参考文献

- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20173	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと健康 [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第3版』 みらい						
ISBN	9784860156428	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,200	生協 テキストNo.	26103		
科目担当		植山 佐智子					
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・主任教諭・園長					

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深める。また、常に社会の変化に敏感な視点を持ち、子どもの実態と理解を深める。また世界的な歴史の流れを理解し、広い視野で子どもの健康についての知識を得る。教員の実務経験をもとに教授する。幼児教育現場において学びが活かされるように、実践的内容をアクティブラーニングを通して領域健康から学ぶ（怪我と病気のミニ本作り・「ほけんだより」作成・リズムジャンプの保育）。

到達目標

- ・子どもの健康と保育の意義について理解する。
- ・『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
- ・乳幼児期の心と体の発達の特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
- ・子どもの心身の発達について理解する。
- ・生涯を健康に送るための基礎として健康環境を考える。

授業計画

第1回

・オリエンテーション

・健康に生きる 健康に関する世界と日本の流れと健康の歴史を知る
日本の健康の流れと母子手帳の役割についてまとめる

第2回

『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と幼児期の終了までに育ってほしい3つの資質能力について理解し、グループで話し合い、発表する①

第3回

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と幼児期の終了までに育ってほしい3つの資質能力について理解し、グループで話し合い、発表する②

第4回

「子どもの怪我と病気」のミニ本を作る

第5回

「ほけんだより」を作成し発表する①

第6回

「ほけんだより」を作成し発表する②

第7回

「体と心と頭を育てるリズムジャンプ」をパワーポイントで学ぶ

第8回

振り返りとまとめ

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・各単元終了後に受講後のまとめをする。
- ・テキストを熟読し理解している上で、ワークショップによる講義を展開する。
- ・受講生同士のディスカッションを大切にしながら、「健康に関する教材研究と発表」などのまとめを作成する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

実践につながる学習を展開するので、スクーリング受講までにテキストを熟読し、健康に関する知識を身に付けておくこと。
(学習時間30時間)

受講上の注意事項

- ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・授業では、グループディスカッションを予定しているので、積極的に参加する。
＜準備物＞はさみ・ホッチキス（ミニ本づくり）、「ほけんだより」を手書きで作成する場合は画材と用紙

生成AIの利用について

本科目の課題等作成においては、生成AIの利用は認めない。

評価基準

- ・テスト（振り返り課題） 30%
- ・提出物（ほけんだより） 40%
- ・受講態度 30%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20174	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと人間関係 [1 単位／45時間]					遠 隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」 第 2 版』 萌文書林							
ISBN	9784893472922	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,900	生 協 テキストNo.	26127			
科 目 担 当		福井 逸子						
実務経験のある教員による科目		公・私立幼稚園教諭（主任教諭）						

科目の目的

本科目では、領域「人間関係」の基盤となる、乳幼児の「人と関わる力の育ち」に関する専門的事項についての知識を身に付けることを目的とする。なお、本科目で使用するテキスト内に示されている0歳～5歳児の各年齢における「人との関わり」の発達の特性については、写真や動画等の視聴覚教材、及び事例を用いて、理解を深めていく。実務経験を生かし、保育現場における実際のエピソード記録や映像等も取り入れながら、考察を深める機会を多く用いる。

到達目標

- 乳幼児期の人間関係の発達について、保育現場における関係発達論の視点から理解する。
- ・乳時期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
 - ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、説明できる。
 - ・自立心の育ち、協同性の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる
 - ・道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿を合わせて説明できる。
 - ・家族や地域との関わりの育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。

授業計画

- 第1回 現代の子ども達に必要な「人と関わる力」について（1）
- 第2回 現代の子ども達に必要な「人と関わる力」について（2）
- 第3回 0、1、2歳児の人間関係の特徴と保育者の援助（支援）について
- 第4回 3、4歳児の人間関係の特徴と保育者の援助・指導について
- 第5回 5歳児の人間関係の特徴と保育者の援助・指導について
- 第6回 保育現場における個と集団の関わりとは
- 第7回 保育現場における人間関係について（保育者間、保護者との関係）
- 第8回 領域「人間関係」についての振り返りと確認テスト

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・各テーマについて、講義とグループディスカッション・発表等を行いながら、学びを深める。
- ・事例や動画を通して、子ども理解を深めながら、個別ワーク（事例検討）を行う。
- ・事前学習（課題）については、グループ内で発表し合いながら、他者の意見を取り入れる。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、以下の（1）～（3）に取り組み、（3）については、スクーリング初日の授業開始までに提出すること（詳細はTeamsで連絡）。

- （1）参考文献に示している3つのガイドライン『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の総則及び領域「人間関係」に関する記載箇所を熟読しておく。（学習時間7時間）
- （2）テキストlecture 4～lecture 8に示されているエピソードを読み深めておく。（学習時間5時間）
- （3）上記に示したlectureを中心に、テキスト巻末に示されている引用・参考文献、インターネット等を用いて0歳～5歳までの子どもの各年齢の「人間関係」に関する発達の特性について、簡潔にまとめる。書式は自由、A4用紙1～2ページ以内の分量にまとめる。*「社会性」の発達に置き換えて考えても良い。文献やインターネットで探索する場合は、「社会性」のキーワードの方が適切。（学習時間10時間）

スクーリング受講後は、スクーリングでの学びをふまえ、年齢に応じた保育実践上の配慮をまとめる。（学習時間8時間）

受講上の注意事項

- ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・上記の事前課題（3）及び参考文献『幼稚園教育要領』他のガイドライン（解説書でも可）を必ず準備すること。
- ・グループディスカッションや個別に発表等も行うので、積極的に授業に参加することが望ましい。
- ・スクーリング最終日の試験は、テキスト・資料等の参照不可で行う。
- ・講義の中では、質疑応答の時間も設けるので、疑問などがある場合は、積極的に意見を述べて欲しい。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題を行うなど、意欲的に授業に参加できているか 30%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 30%
- ・試験問題の趣旨に沿って、授業で学んだ内容について、明確にわかりやすく解答できているか 40%

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
- ・無藤隆 古賀松香 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』 北大路書房
- ・無藤隆 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌）』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20175	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと環境 [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』 萌文書林						
ISBN	9784893474278	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26128		
科目担当		佐藤 智恵					
実務経験のある教員による科目		保育士					

科目の目的

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけることをめざす。領域「環境」の各項目に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、講義形式で学びを深めるとともに、学生自身が乳幼児期に適した活動内容を自ら考え、試行錯誤する中で理解を深める。保育士としての実務経験を活かし、実際の保育実践の中で領域「環境」がどのように展開されているのかを教授する。

到達目標

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけ、感性を養う。

- ・ 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
- ・ 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
- ・ 幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達を理解する。

授業計画

第1回 幼児は季節をどう捉えているか
第2回 紙を使用した遊び（「おさかなクルクル」作り）
第3回 数量・図形などを使った幼児の活動について理解する（DVD視聴を通して考える）
第4回 数量・図形などを使った遊びを考える
第5回 自然に関する知識（紅葉、どんぐりなど）
第6回 標識や文字の必要性について
第7回 文化や行事を考える
第8回 まとめ（領域「環境」について）と最終レポート

授業方法

遠隔（リアルタイムオンライン）

- ・ Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。
- ・ 領域「環境」の事項に関するグループワーク
- ・ DVD視聴後のグループ討議

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ 書籍やインターネットから情報を収集し、「数量・図形に関する遊びや活動」を5つ考え、箇条書きで記述したものをスクーリング初日に提出する（詳細はTeamsで連絡）。遊び・活動とは、一斉保育の中で行うものだけでなく、自由遊び、また生活の中で行う活動も含めること。活動は、3歳児クラスと5歳児クラスそれぞれ5つずつ（合計10個の遊びや活動）を考えること。提出したものをもとに、当日グループワークを行う。（学習時間13時間）
- ・ スクーリング受講後、参考文献『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の保育内容に関する項目を熟読し、領域「環境」についての学びを深める。（学習時間17時間）

受講上の注意事項

- ・ 遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。
- ・ 初日に提出する「数量・図形に関する遊びや活動」を考える課題については、書式のきまりはない。わかりやすく箇条書きなどでWordなどに各々自由に作成すること。インターネットで検索をした図や写真などを使用する際は、必ずそのURLを記載すること。用紙の上部に学籍番号と名前を記載しておくこと。
- ・ 1日目の「おさかなクルクル」では、次のものを各自準備しておくこと。①はさみ、②定規、③ペンか鉛筆、④紙（紙については、チラシ・コピー用紙・ハガキ・色紙など幾つかの種類を用意する。大きさはハガキ大で十分である。）
- ・ 2日目「自然に関する知識」では色鉛筆（12色程度）を準備しておくこと。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ グループワークへの参加の積極性 30%
- ・ レポート 40%
- ・ 提出物（「数量・図形に関する遊びや活動」の課題、スクーリング中に提出を求める課題） 30%

参考文献

・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育方針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20176	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと言葉 [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	● 高橋一夫 『ことばを育む・保育に活かす 言語表現 第2版』 みらい						
ISBN	9784860154219	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,500	生協 テキストNo.	26129		
科目担当		高橋 一夫					
科目の目的 「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付けるために、言葉に関わる児童文化財への理解を深め、保育実践に活かすことができるようにする。 到達目標 子どもの言葉の育ちを支えるために、児童文化財の活用方法を提案できる力を身に付ける。 授業計画 第1回 子ども言葉の育ちを支えるための基本の整理 第2回 児童文化財の絵本について考察するー絵本の文章を論理的に解釈する 第3回 児童文化財の絵本について考察するー絵本の挿絵を論理的に解釈する 第4回 保幼小連携の視点から絵本を捉える 第5回 児童文化財（無形）の素話について考察する 第6回 口承文芸である昔話について考察する 第7回 日本における児童文学について考察する 第8回 子ども言葉の育ちを支える児童文化財の活用方法についてのまとめと、最終レポート 授業方法 遠隔（リアルタイムオンライン） ・Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。 ・テーマに基づいて講義を行い、内容を理解する。 ・講義内容に関わる課題に取り組む。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 <スクーリング受講前（予習）>（学習時間15時間） ・テキストを熟読し、内容について全体的な理解を深めておくこと。 ・特に、絵本の挿絵および文章の論理的解釈について予習しておくこと。 <スクーリング受講後（復習）>（学習時間15時間） ・課題で取り上げた作品以外についても、文章や挿絵の論理的解釈に挑戦すること。 ・絵本や紙芝居を 1 作品以上選び、読み聞かせの実践を想定した練習を行うこと。 ・素話について、昔話のなかから題材を 1 作品選び、実践を想定した練習を行うこと。 受講上の注意事項 ・遠隔授業ではWebカメラとマイクが必要。円滑な授業実施のため、遠隔授業受講中は指示に従ってカメラ・マイクをオン・オフすること。 ・テキストを必ず用意すること。 ・絵本の挿絵および文章の論理的解釈について課題に取り組むため、必ず手元に絵本を 1 冊用意しておくこと（絵本は文章量のあるもので、対象年齢が 4 歳児以上の作品がよい）。 ・課題について積極的に取り組むこと。 生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。 評価基準 ・授業への取り組み（授業態度、関心・意欲など） 40% ・レポート 60% 参考文献 ・三森ゆりか 『絵本で育てる情報分析力ー論理的に考える力を引き出す 〈2〉』 一声社 ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の)を参照すること。 課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。							

科目コード	20177	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと音楽表現 [1 単位/45時間]					対面授業
テキスト	● 小林美実 『続 こどものうた200 保育実用書シリーズ』 チャイルド本社							
ISBN	9784805400029	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26130			
科目担当		高 奈奈						
実務経験のある教員による科目		私立幼稚園音楽表現活動講師						
科目の目的 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいおよび内容を他の領域を踏まえて理解し、幼児の生活や発達に即した保育を行うことができる様々な表現技術を身につける。実務経験を活かして実践的な技術を教授する。 到達目標 ・子どもの豊かな表現を引き出せるよう、歌唱や器楽の演奏において豊かな表現力を身につける。 ・これまで実践されてきた保育現場における音楽表現活動や教育法に触れ、その技法を学ぶ。 ・子どもの姿を想像しながら指導案を作成し、グループでの表現活動を行う。 授業計画 第 1 回 乳幼児と音楽について（領域「表現」について、赤ちゃんを取りまく音の環境、乳幼児の音楽的な発達） 第 2 回 わらべうた・童謡・唱歌への理解を深め、環境や発達に即した音楽表現を考える 第 3 回 様々な楽器の演奏法と表現方法 第 4 回 身の回りのもので作る楽器を保育に取り入れる方法 第 5 回 リトミックを取り入れた音楽表現活動（スカーフ、フープなどを使った活動）、保育現場で歌う季節の歌の歌唱法 第 6 回 様々なリズム（マーチ・スキップ・ギャロップなど）の特性を理解し、子どもの表現を引き出す方法、保育現場で歌う生活の歌 第 7 回 乳幼児の表現を引き出す環境設定、指導計画の作成について、保育現場で歌う行事の歌 第 8 回 保育現場を想定したグループでの表現活動（場面に合わせた効果音を考える）、スケッチブックシアターを用いた歌唱指導 授業方法 ・講義形式 ・実技形式 ・グループによる演習 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ○予習 テキストに掲載されている楽曲の中から、以下の楽曲をアカペラで歌唱できるように繰り返し練習する。あそびうたは、遊び方についても習得すること。（学習時間20時間） ①「いっぽんばし にほんばし」（p.22）、②「小さな庭」（p.31）、③「とんとんとんとんひげじいさん」（pp.32-33）、④「八百屋のお店」（p.67）、⑤「ずいずいずっころばし」（p.74）、⑥「十五夜さんのもちつき」（p.75）、⑦「キャンプだホイ」（p.92）、⑧「世界中のこどもたちが」（p.101）、⑨「バスごっこ」（pp.102-103）、⑩「はじめの一步」（pp.152-153）、⑪「たのしいね」（pp.172-173）、⑫「きのこ」（pp.212-213）、⑬「やきいもグーチャーパー」（p.219） ○復習 授業の中で学んだ手遊びや子どもの歌を繰り返し練習し、表情豊かに表現する。（学習時間10時間） 受講上の注意事項 ・身体表現を伴うため、動きやすい服装・靴で受講すること。 ・感染症等が流行傾向にある場合は、不織布マスクを着用して受講すること。 ・状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。 生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。 評価基準 ・授業への取り組み 60% ・グループによる発表 20% ・確認テスト 20% ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の X）を参照すること。 課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。								

科目コード	20178	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと造形表現 [1単位/45時間]				遠隔 (リアルタイムオンライン)
テキスト	●松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社						
ISBN	9784883034208	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,700	生協 テキストNo.	26132		
科目担当		須増 啓之					
科目の目的 領域「表現」（造形表現）の内容について解説し、個人での制作活動を通して、乳・幼児期の子供の造形表現について体験的に理解する。そして、様々な材料や表現方法、用具に触れることで指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情を養う。 到達目標 - 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を生かし、乳・幼児期における多様な表現活動及び展開についての基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。 - 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにし、他者の考え方や造形に触れながら自分とは異なる表現を楽しみ、受容することができるようになる。 - 乳・幼児期の造形表現や内容について、活動を通して理解する。 - 造形活動へのイメージを広げて、造形指導への意欲を培う。 - 活動について自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる（授業外学習）。 授業計画 第1回 オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など）、及び領域「表現」（造形表現）における子供の活動や保育者の役割について考える 第2回 技法から始まる造形活動① ～色や線との出会い～、及び描画材の基礎・基本 第3回 技法から始まる造形活動② ～技法を使って作品をつくろう～ 第4回 目的から始まる造形活動① ～身の回りにあるものを使っておもちゃをつくろう～、及び材料の基礎・基本 第5回 目的から始まる造形活動② ～飛び出す仕組みを使ったカードをつくろう～ 第6回 感触を楽しむ造形活動 ～粘土の感触を楽しもう～、及び粘土の基礎・基本 第7回 子供が始めて出会う芸術表現としての絵本 ～絵本の絵や構成を見てみよう～ 第8回 子供の作品や活動などから乳・幼児期の表現での子供の姿について考える [映像資料の活用]、及び情報機器を使用した過程の記録の重要性について 授業方法 遠隔（リアルタイムオンライン）  - Microsoft Teamsを利用した遠隔授業（リアルタイムオンライン）を行う。 - 造形遊びや造形表現、鑑賞などの活動と講義を行う。 授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 - 授業での学習を深めるために、スクーリング受講前までにテキスト（pp.12-67）や参考文献を読んだり、インターネットなどで調べたりして、乳・幼児期の子供の造形表現や内容について予習しておくこと。（学習時間5時間） - スクーリング受講後は、参考文献に挙げている書籍やインターネットなどで調べた表現技法や作品、さらに深めたい表現（授業で十分にできなかった表現を含む）などに各自取り組むこと。（学習時間15時間）また、学んだことや授業や授業外に活動した作品のつくり方や工夫点、難しかった点、活動後の変化などについて、自分なりに写真（制作過程や完成作品）などを使ってノートやデータ（WordやPowerPointなど）に視覚的にまとめて、学びを分析し深めること。（学習時間10時間） 受講上の注意事項 【受講に関する注意等】 - 遠隔（リアルタイムオンライン）授業では、Webカメラとマイクが必要。確実に双方向で応答できるようにすること。制作活動中は、原則としてカメラをオンで受講すること。 - 描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。失敗を恐れず、チャレンジすることが大切である。オンライン授業のため個人活動だけになるが、鑑賞などは受講生全員で行うため、各活動に積極的に参加すること。 - 制作活動がメインとなるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを準備して受講すること。 【準備物】 - 指定テキスト - 以下の材料・用具（準備していないと活動できないので、授業当日までに必ず各自準備しておくこと。100円均一ショップでの購入でもよい。） 【全日程共通して使用する材料・用具】 ●筆記用具、はさみ、カッターナイフ、定規、のり、セロテープ、両面テープ、木工接着剤 ●白画用紙…八つ切り（約272×393mm）、5枚～10枚あればよい ●色画用紙（赤、青、黄、緑、黒などを含む10色程度）…B4サイズ（約253×352mm）程度、各2枚程度あればよい ●下描きなどに使用するコピー用紙（10枚程度）やノートなど ※自宅での活動となるため、新聞紙やビニールシート（大きいゴミ袋）など敷くものを準備すること。							

〔1日目で使用予定〕

第2～3回：水彩用具（水彩絵具・筆・パレット・筆洗・筆拭き用の布）、オイルパステル（クレパスなど）もしくはクレヨン ※絵具は第6回でも使用するため、制作途中で足りなくなることがないように量を考えて購入しておくこと。

第4回：家にある材料（ペットボトル、段ボール、プラスチック廃材、紙コップ、紙皿、ストロー、割り箸、紙袋、毛糸など課題に合わせて集めること）、カラーペン（8色程度、油性が望ましい）

〔2日目で使用予定〕

第6回：紙粘土（1～2個）もしくは小麦粉（500g程度、アレルギーの場合は米粉でもよい）、水彩用具、紙皿やパックなど作品を入れるもの

第7回：好きな絵本1冊（自宅にある場合のみ。なければ無理に買う必要はない）

※上記の材料、用具類の一部は「図画工作」、「美術」、「教科教育法・図画工作」の授業でも使用する。なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・活動（制作・鑑賞）への取り組み 80%
- ・レポート 20%

参考文献

- ・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社
- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・平田智久 『＜感じる＞からはじまる 子どもの造形表現』 教育情報出版
- ・槇英子 『保育をひらく造形表現 第2版』 萌文書林
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の❶）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20179	科目名 [単位数/学習時間]	子どもと身体表現 [1 単位／45時間]					対面授業
テキスト	● 文部科学省 『幼児期運動指針ガイドブック』 サンライフ企画							
ISBN	9784904011478	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,300	生協 テキストNo.	26133	文部科学省HPよりダウンロード可能		
科目担当		岩濱 里江子						
実務経験のある教員による科目		公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）						
科目の目的 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における身体表現の意義とねらい、保育者の指導方法について、具体的な実践を通して学ぶことを目的とする。身体表現の基礎的な技能の習得をするとともに、年齢による身体表現の内容、環境の構成、教師の援助のあり方とともに、身体表現による子どもの育ちについて、実務経験を活かして教授する。								
到達目標 ・ 幼児にとっての身体表現（運動遊びを含む）の意義と幼児の育ちを支える教師の役割について理解する。 ・ 身体表現についての基礎的な知識や活動内容、指導法を学ぶことを通し、幼児に関わるための豊かな感性や創造性を身に付ける。								
授業計画 第 1 回 オリエンテーション（授業展開説明等） 第 2 回 音楽を取り入れた身体表現の展開と基礎的な機能の獲得 律動、オリジナル体操の展開と指導方法 第 3 回 身体活動（運動遊び）の展開と指導方法 第 4 回 用具を使った身体表現活動の展開と指導方法 第 5 回 体験したことを表現する身体表現の展開と指導方法 第 6 回 確認テスト（身体表現実技） 第 7 回 身体活動・身体表現の振り返り 第 8 回 第 1 回～第 7 回を振り返り、子どもと身体表現についてレポートする								
授業方法 ・ 身体表現の実技を中心に授業を展開し、実技内容に関する解説等については随時行う。 ・ 学習内容に応じて小グループを作り、活動する。 ・ 学習成果の発表（身体表現実技）を行う。								
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 <スクーリング受講前（予習）> 授業は、軽度のリズムカルな表現的運動による実技（身体表現）を中心とするため、効果的に学習できるように備えることを目的とし、ウォーキングやストレッチなどで自分自身の身体を整えて、準備しておくこと。（学習時間20時間） <スクーリング受講後（復習）> スクーリングで学習した内容について、さらに理解を深めるように、自分なりにノートにまとめたり、実技を復習したりする。（学習時間10時間）								
受講上の注意事項 ・ 将来、保育者をめざす人には必要な身体表現活動なので、積極的に参加すること。 ・ 実技の際は、運動着やジャージ等の動きやすい体育実技の服装等で臨むこと（髪は括り、アクセサリーは外す）。 ・ 持ち物：筆記用具、体育館シューズ、汗拭きタオル、水分補給用飲み物								
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。								
評価基準 ・ 表現活動 30% ・ レポート 30% ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、グループ活動など） 40%								
参考文献 ・ 文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館 ・ 厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館 ・ 内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館								
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連 所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩ）を参照すること。								
課題に対するフィードバック スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。								

科目コード	20184	科目名 [単位数/学習時間]	教育学演習Ⅰ [2単位/90時間]			対面授業
テキスト						
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		隈元 泰弘				

科目の目的

本科目の目的は、大学における基本的な学問的スキルの一つであるレポート作成の基礎を習得することである。論理的な思考を基にした問題提起、情報収集、整理、分析、思索、そしてこれらを効果的に文章で表現する方法を学ぶ。

到達目標

- ・主に自由課題レポートにおいて課題を設定し、資料を収集し、レポートにまとめあげる力をつけることを到達目標とする。
- ・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画

第1回

オリエンテーション（科目の目的・進め方・評価基準 レポートの意義・役割と重要性）

第2回

レポートの基本構成（序論・本論・結論の構成と役割）

第3回

問題意識とテーマの選定（問題意識を明確にする方法 良いテーマの条件）

第4回

情報収集の方法（1）：図書館やデータベースの活用

第5回

情報収集の方法（2）：インターネットと資料の活用

第6回

論理的な文章構成の基礎

第7回

引用の仕方と参考文献の活用法

第8回

レポート執筆の流れ（執筆の計画と原稿の下書きから完成までのステップ）

第9回

タイトルのつけ方と序論の書き方

第10回

本論の書き方（1）：論点の整理と展開

第11回

本論の書き方（2）：データや事例の活用

第12回

結論の書き方

第13回

推敲と編集の技術（内容の一貫性や説得力を高める方法）

第14回

レポート執筆の最終準備（受講生相互の意見交換）

第15回

授業のまとめ（レポートの執筆とふりかえり）

授業方法

基本的に講義を行ったあと、各自で作業を行い、それを発表して議論する、という手順で進めていく。講義よりも実際に考えたり、資料を探したりする時間、発表時間を多く取るので、積極的に参加してほしい。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業では、自由にテーマを設定してレポートをまとめてもらう。そのため、スクーリング受講前には、ある程度テーマを考えておいてもらいたい。関連する書籍（新書程度でよい）を1冊は読んでおくことが望ましい。（学習時間30時間）

また、スクーリング終了後には、内容の振り返りと提出レポートのリライトを行うことが望ましい（提出不要）。
（学習時間30時間）

受講上の注意事項

パソコンを用いてレポートを作成するので、USBメモリーもしくはSDメモリーカードを持参すること。容量は128MB以上あれば問題ない。

生成AIの利用について

本科目のレポート作成においては、生成AIの利用は認めない。レポートは授業内容及び授業に際して配付された資料に基づいて作成すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み 30%
- ・授業中の発表 40%
- ・最終時間に仕上げたレポート 30%

参考文献

授業中に適宜紹介する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20184	科目名 [単位数/学習時間]	教育学演習Ⅰ [2単位/90時間]			対面授業
テキスト						
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		間 渕 泰 尚				
科目の目的						
本科目では、社会科学の方法論に則って、幼児教育および初等教育における現代的な問題について議論し、理解を深め、最終的に主張に沿ってレポートにまとめる作業を行う。						
到達目標						
・主に自由課題レポートにおいて課題を設定し、資料を収集し、レポートにまとめあげる力をつけることを到達目標とする。 ・本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。						
授業計画						
第1回 イントロダクション・授業の進め方について 第2回 社会科学の考え方 第3回 思考整理法について 第4回 テーマ設定① マインドマップを書いてみる 第5回 テーマ設定② マインドマップで発表する 第6回 問いを立てる① 第7回 問いを立てる② グループ討議 第8回 問いを立てる③ 発表する 第9回 情報収集① 図書館 第10回 情報収集② インターネット 第11回 レポートの構成① 第12回 レポートの構成② 第13回 レポートの構成③ 第14回 レポート執筆の最終準備 第15回 授業のまとめ（レポートの執筆とふりかえり）						
授業方法						
基本的に講義を行ったあと、各自で作業を行い、それを発表する、という手順で進めていく。講義よりも実際に考えたり、資料を探したりする時間、発表時間を多く取るので、積極的に参加してほしい。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業では、自由にテーマを設定してレポートをまとめてもらう。そのため、スクーリング受講前には、ある程度テーマを考えておいてもらいたい。関連する書籍（新書程度でよい）を1冊は読んでおくことが望ましい。（学習時間30時間） また、スクーリング終了後には、内容の振り返りと提出レポートのリライトを行うことが望ましい（提出不要）。（学習時間30時間）						
受講上の注意事項						
議論には情報収集が不可欠であるし、発表方法も知っておく必要がある。受講者には何らかの問題意識を持って演習に参加してもらいたい。なお、パソコンを用いてレポートを作成するので、USBメモリーもしくはSDメモリーカードを持参すること。容量は128MB以上あれば問題ない。						
生成AIの利用について						
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
評価基準						
・授業への取り組み 30% ・授業中の発表 40% ・最終時間に仕上げたレポート 30%						
参考文献						
・戸田山和久 『最新版 論文の教室』 NHK出版 ・トニー・ブザン 『ザ・マインドマップ』 ダイヤモンド社 ・川喜田二郎 『発想法』 中央公論新社						
ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連						
所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のX）を参照すること。						
課題に対するフィードバック						
スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。						

科目コード	20185	科目名 [単位数／学習時間]	教育学演習Ⅱ〔2単位／90時間〕			対面授業
テキスト	スクーリング時に資料・ワークシートを配付する。					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		権藤 眞織				

科目の目的

子どもと関わる専門家になるには様々な専門知識や技能が求められるが、それらを総合的に活用し、現場で活かす「実践力」も求められる。本演習では、学習心理学の考え方を応用して、子どもとのかかわり方、ほめ方や叱り方など現場実践で求められるかかわり方のスキルを学ぶ。乳幼児期から学童期に重要な「しつけ」、「基本的生活習慣」「学習習慣」「社会性の獲得」など、子どもたちは様々な「生きる力」に繋がる行動の獲得が必要となる。また、障害のある子どもたちへのかかわり方（特別支援教育）など幅広く考察していく。

到達目標

- ・「学習」の定義を理解し、日常例を挙げることができる。
- ・学習理論の基礎を理解し、日常例を挙げることができる。
- ・「しつけ」について、学習心理学の観点から理解することができる。
- ・「行動」に着目した視点で、子どもの支援の計画を理解することができる。

授業計画

第1回

オリエンテーション（この講義の進め方と評価）

第2回

しつけ・基本的生活習慣とは何か① ディスカッションから学ぶ

第3回

しつけ・基本的生活習慣とは何か② 事例から学ぶ

第4回

しつけ・基本的生活習慣から「生きる力」を考える 学習心理学の立場から考える

第5回

援助・支援とは何か① 事例から学ぶ

第6回

援助・支援とは何か② 学習心理学の立場から考える

第7回

援助・支援から「生きる力」を育むために ディスカッションから学ぶ

第8回

事例から学ぶ①（「事例から学ぶ」ではグループで討議と考察も行う予定）

第9回

事例から学ぶ②

第10回

事例から学ぶ③

第11回

事例から学ぶ④

第12回

さまざまな実践例① 保育所・幼稚園の事例

第13回

さまざまな実践例② 学童期の事例

第14回

さまざまな実践例③ 特別支援学校の事例

第15回

まとめ

授業方法

- ・各テーマについて、講義とグループディスカッションおよび発表を行い、学びを深める。
- ・PCを活用するなどして事前に調べたり、取り組んだりした課題学習について、グループディスカッション、発表をする。また、事例検討も行う。その後、質疑応答の時間も設ける。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

スクーリング受講までに、以下の（１）から（３）の課題を行い、プリントアウトしてスクーリング初日に持参すること。課題作成用紙は、A4サイズ、タテ型横書きとし、本学所定レポート用紙やルーズリーフは用いず、パソコン用の白紙を使用すること。＜ワープロソフト使用可。＞

課題の回答内容は、グループワーク時に受講生同士で、閲覧し合ってシェアする。

（１）しつけとは何か。（80字～100字程度／調べ学習とまとめの学習時間 3 時間）

（２）乳幼児期のしつけで大切だと思うこと（3 項目をあげる）とその理由を説明する。（100字～200字程度／調べ学習とまとめの学習時間3.5時間）

（３）学童期のしつけで大切だと思うこと（3 項目をあげる）とその理由を説明する。（100字～200字程度／調べ学習とまとめの学習時間3.5時間）

（４）「参考文献」にあげた 3 冊の新書から、興味が湧いたものを 1 冊選び、よく読み内容を把握する。そして、学習とは何か、また、学習心理学や行動分析学がどんな学問なのか、自分なりに捉えなさい。（学習時間20時間）

スクーリング後の復習とさらなる展開学習

（１）学習心理学からみた「しつけ」と「生活習慣の獲得」とは何か。（レポート用紙 1 ページ程度にまとめる／学習時間 5 時間）

（２）乳幼児期の発達と保育実践上の援助についてのおさらい。（学習時間 5 時間）

（３）学童期の発達と保育実践上の援助についてのおさらい。（学習時間 5 時間）

（４）子どもについての「経験」の重要性についておさらい。（学習時間 5 時間）

（５）子どもの行動の支援についての専門的なテクニックや方法論のおさらいや、各自、興味を持ったことについて調べる。（学習時間 5 時間）

（６）行動分析学・応用行動分析に関する書籍を各自検索し、読む。（学習時間 5 時間）

受講上の注意事項

- ・グループディスカッションなど、受講生との意見交流を行う。
- ・事例については、グループで討議し、発表を行う予定。
- ・「参考文献」にあげた書籍から選んだ1冊を持参する。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

次の観点について、提出物、授業中の発言・発表、試験により評価を行う。

- ・事前課題に取り組むなど、意欲的に授業に参加できているか 50%
- ・授業内容や受講生同士の意見交流の内容を適切に理解し、自分なりの考察を深めているか 50%

参考文献

- ①杉山尚子 『行動分析学入門ーヒトの行動の思いがけない理由 (2005)』 集英社 (本体840円)
- ②奥田健次 『メリットの法則 行動分析学・実践編 (2012)』 集英社 (本体880円)
- ③島宗理 『使える行動分析学ーじぶん実験のすすめ (2014)』 筑摩書房 (本体860円)

<入門としてわかりやすいのでこちらの書籍でもかまわない>

- ・島宗理 『パフォーマンス・マネジメントー問題解決のための行動分析学ー 第2版 (2022)』 米田出版 (本体1,800円)

なお、全ての書籍について、ネットにおいては中古本も流通している。選んだ書籍は、スクーリング当日に持参すること（購入しても借りてもかまわない）。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20185	科目名 [単位数/学習時間]	教育学演習Ⅱ [2単位/90時間]				対面授業									
テキスト	● 文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館															
ISBN	9784577814475	本体価格(円) (2026年1月現在)	240	生協 テキストNo.	26107											
科目担当	横田 郁子															
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭、園長															
科目の目的 幼稚園教育要領解説に書かれている保育・教育における理論と実践の関係性を具体的に展開することで、各々の保育・教育観や子ども観の構築をめざす。また、様々な遊びのもつ面白さや効果、現代における子どもの生活や遊びの姿を考察し、子ども理解を深めていくことを目的とする。																
到達目標 ・ 幼稚園教育要領解説を通して、現代保育・教育の在り方を考察する。 ・ 様々な保育方法を学ぶことで、自らの保育を振り返り、分析及び考察を行うことができるようになる。 ・ 子どもを捉える視点を深めることで、現代保育・教育における意味や意義を考察する。																
授業計画 第1回 オリエンテーション（本科目の概要）幼稚園教育の役割＜テキストpp.10-21＞ 第2回 幼稚園教育の基本＜テキストpp.23-49＞ 第3回 幼児期に育みたい資質・能力及び育ってほしい姿＜テキストpp.50-73＞ 第4回 表現実践演習（集団遊びの実践を通して、指導について考察する。） 第5回 表現実践演習（わらべうたによる心の教育について考察する。） 第6回 教育課程の役割及び指導計画について＜テキストpp.74-78、pp.96-99＞ 第7回 表現実践演習（絵本の読み聞かせの実践と効果について考察する。） 第8回 表現実践演習（折り紙等の伝承遊びの実践と効果について考察する。） 第9回 指導計画の具体的なねらい及び内容について・幼児教育における五領域（「健康」「人間関係」）について＜テキストpp.141-192＞ 第10回 幼児教育における五領域（「環境」「言葉」「表現」）について＜テキストpp.193-247＞ 第11回 特別な配慮を必要とする幼児への指導について＜テキストpp.124-130＞ 第12回 表現実践演習（軍手人形・スケッチブックシアターの製作） 第13回 表現実践演習（軍手人形・スケッチブックシアターによる実演と検証） 第14回 ディスカッション（総合的な指導のあり方について） 第15回 まとめと確認（表現実践演習を通して、幼児・学童期の環境に必要なこと、あるいは大切な指導についてレポート作成）																
授業方法 ・ 講義と演習を交えた形式で行う。 ・ 各々の保育・教育実践をふまえ、その方法や内容についてのディスカッションを行う。 ・ 具体的な遊びの実践を通して、幼児・児童の学びの姿を考察する。																
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 ＜予習＞ ・ テキストを熟読しておくこと。（学習時間30時間） ・ 実践演習でする遊びについて調べ、参加者と一緒に楽しくできるようにしておく。またそれらの遊びについて、意義や効果をまとめておく。（学習時間30時間）																
受講上の注意事項 ・ テキストを必ず持参すること。 ・ 2日目に絵本1冊、折り紙1セット（10枚程度）を持参すること。 ・ 3日目に軍手人形又はスケッチブックシアターの製作の仕上げと発表をするので、材料を調達しておくこと（詳細は1日目に説明する）。 ・ 積極的に講義及びグループディスカッション等に参加すること。																
生成AIの利用について 事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。																
評価基準 ・ 授業への積極的な取り組み（含む予習） 40% ・ 授業内において実施する最終レポートの提出 60%																

参考文献

- ・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
- ・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

科目コード	20186	科目名 [単位数/学習時間]	児童体育 [2単位／90時間]			対面授業
テキスト	●必要に応じてスクーリング時に資料を配付する。					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.		
科目担当		田中 聡				
実務経験のある教員による科目		教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				
科目の目的						
幼児、児童が習得していく運動遊び・運動種目について、運動実技の体験を通し、基礎的な運動技能やその楽しさの特性、指導法を理解・習得していく。さらに運動遊びや運動の実技を通して、幼児や児童の全人的な発育・発達と運動実践との関係を考える機会とする。						
到達目標						
・子どもの発達段階に応じた適切な運動、運動遊びの実施方法を知る。 ・幼児、児童が習得していく基礎的な運動技能について、実技を通して理解する。 ・実技を行う中で、各種の運動遊び、運動種目特有の楽しさを、「運動特性」として体験的に理解する。 ・各種運動遊び、運動種目における運動技術や支援方法、指導方法を身に付ける。						
授業計画						
第1回 体ほぐしの運動①ーペアを中心にー						
第2回 体ほぐしの運動②ー用具を用いてー						
第3回 体ほぐしの運動③ー「気づき」をテーマにー、小学校低学年の体育①ー体ほぐしの運動遊びー						
第4回 小学校低学年の体育②ー幼児期の運動遊びと小学校低学年の運動遊びの接続ー						
第5回 小学校低学年の体育③ー身近な用具を使った幼児期の運動遊びー						
第6回 器械運動① マット運動						
第7回 器械運動② 跳び箱運動						
第8回 器械運動③ 鉄棒運動、陸上運動① 短距離・リレー						
第9回 陸上運動② ハードル走						
第10回 陸上運動③ 走り幅跳びと走り高跳び						
第11回 ボール運動① ゴール型						
第12回 ボール運動② ネット型						
第13回 ボール運動③ ベースボール型、表現運動① リズム遊び						
第14回 表現運動② 表現						
第15回 表現運動③ リズムダンス・フォークダンス						
授業方法						
6つの運動領域について運動実技中心に行う。各運動領域の実技にあたっては内容に応じて小グループを作り活動する。また、実技内容に関する解説を随時行う。						
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
小学校学習指導要領にもとづき、小学校学習指導要領解説体育編で例示されている各種運動遊び・スポーツ・ダンスを、その指導法とともに実際に実技として学ぶことを狙いとしている。そこで、受講生においては、小学校指導要領解説体育編に低学年・中学年・高学年の中にある、「体づくり運動」「器械運動」「陸上運動」「水泳運動」「ボール運動」「表現運動」の運動6領域に例示されている各運動遊び・運動種目例、並びに内容に関する留意点の熟読、また初等教育の体育として幼小の体育の接続を考える上でも文部科学省「幼児期運動指針」の確認、さらにはスポーツにおける技術習得に関する理論として「スポーツ運動学」に関する専門書籍の読書を行うことが望まれる。(学習時間<予習・復習>60時間)						
受講上の注意事項						
《持参する物》 運動着（ジャージ等）、体育館シューズ、フェイスタオル、飲み物（水分補給用）、筆記用具 本科目では運動実技を行う。上記の物を毎回準備すること。指導者も実技内容には配慮するが、1日の授業（実技）は長時間となり、それなりに体力が必要となる。けが防止のために、スクーリングまでに体を動かしておくこと。						
《注意事項》 母子の健康を最優先としますので、妊娠している方の体育実技を含むスクーリングの受講は認めません。						
生成AIの利用について						
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。						
評価基準						
・授業への取り組み 80% ・実技技能・指導法理解 20%						

参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
- ・文部科学省 『幼児期運動指針ガイドブック＜平成24年 3 月＞』
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
- ・クルト・マイネル 『スポーツ運動学』 大修館出版
※その他「スポーツ運動学」の名称がつく専門書、入門書

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20187	科目名 [単位数/学習時間]	児童音楽 [2 単位／90時間]					対面授業
テキスト	● 初等科音楽教育研究会 『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社							
ISBN	9784276821026	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26060			
テキスト	● フェルディナント・バイエル 全音楽譜出版社 『標準バイエルピアノ教則本』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111010103	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,000	生協 テキストNo.	26092	グレードA・B選択者のみ		
テキスト	● ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルクミュラー 北村智恵 『ブルクミュラー／25の練習曲』 全音楽譜出版社							
ISBN	9784111020102	本体価格(円) (2026年1月現在)	800	生協 テキストNo.	26093	グレードC・D・E選択者のみ		
科目担当		臼井 真・高 奈奈						
実務経験のある教員による科目		臼井：公立小学校音楽専科教諭 高：私立幼稚園音楽表現活動講師						

科目の目的

小学校での音楽表現において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、歌唱力やピアノ演奏力が十分に備わっていないといけない。

- ◆声楽（クラス授業）では、童謡・唱歌・歌曲・合唱曲を通して、発声法や歌唱法を学びながら豊かな表現力を身につける。身体表現をしながら、より豊かな表現での歌唱力を学ぶ。
- ◆器楽（各自の進度に合わせたグレード別個人レッスン授業）では、ピアノ奏法の基礎から学び、弾き歌いや身体表現のためのリズム曲の演奏法を身につける。

実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等の実践的な教育を行う。

到達目標

- ◆声楽
 - ・呼吸法及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付け、音程やリズムを正確に取り、表情豊かに歌唱することができる。
 - ・手話付きの歌曲を、手話を付けて歌唱することができる。
 - ・他の声部を聴きながら自分のパートの旋律を合わせることのできるハーモニー感を養う。
- ◆器楽
 - ・旋律、リズム、和音を正確に読み取る読譜力を身につけ、ピアノ曲や身体表現のためのリズム曲を音楽性豊かに演奏することができる。
 - ・表情豊かに弾き歌いをすることができる。
 - ・簡易伴奏付けによるピアノ伴奏ができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：声楽実技実習授業の進め方
- 第2回 声楽 実技実習授業①
- 第3回 声楽 実技実習授業②
- 第4回 声楽 実技実習授業③
- 第5回 声楽 実技実習授業④
- 第6回 声楽 実技実習授業⑤
- 第7回 まとめ（音楽理論全般について）と確認テスト（声楽）
- 第8回 オリエンテーション：器楽（ピアノ）実技実習授業の進め方、グレード分け、和音について
- 第9回 器楽（ピアノ）実技実習授業①
- 第10回 器楽（ピアノ）実技実習授業②
- 第11回 器楽（ピアノ）実技実習授業③
- 第12回 器楽（ピアノ）実技実習授業④
- 第13回 器楽（ピアノ）実技実習授業⑤
- 第14回 器楽（ピアノ）実技実習授業⑥
- 第15回 まとめ（実技試験全般について）と確認テスト（ピアノ）

授業方法

声楽と器楽（ピアノ）の授業を行う。

◎声楽【クラス授業】

- ・リラクゼーション リズムダンス
- ・呼吸法
- ・発声練習
- ・子どもの歌（唱歌・小学校合唱曲・手話付き歌）
- ・芸術歌曲
- ・合唱
- ・音楽理論

◎器楽（ピアノ）【個人レッスン】

・以下の表のように、A～Eのグレード別に分かれて、必修課題曲に取り組む。

①グレード表

グレード	内 容
A	全くの初心者で音符もあまり読めない
B	バイエルをほぼ終了している
C	バイエルを終了し、ブルグミュラー程度の曲なら数曲弾いている
D	ブルグミュラー程度の曲ならば、それほど練習に負担がかからない
E	ソナチネ（ソナタ）程度の曲をかなり弾いている

※グレードA～Eの選択基準について

器楽（ピアノ）の授業に関しては、授業開始時にグレードA～Eのどのグレードを選択するかを自己申告する。

各グレードの基準は上記のようにになっているが、次の②必修課題曲表を参考にして、各自どのグレードにするかを決めたい。え、必ず受講前に練習しておくこと。

②必修課題曲表

・「和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）及び移調」の課題については、スクーリングで詳しく説明する。和音付けの方法が分からない場合は、メロディーを右手で弾く練習をしておくこと。

全6回	器楽（ピアノ・弾き歌い）必修課題					
課 題 グレード	標準バイエル ピアノ教則本	ブルグミュラー 25の練習曲	保育のためのリズム曲集 ＜スクーリング受講許可 時に送付＞	カデンツ ＜スクーリング受講 許可時に送付＞	和音付け（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ） 及び移調	弾き歌い
グレードA （①グレード表 参照）	No.3,4,5,6,7,14 44,45,48,52		マーチ・かけあしよ り各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」（ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 「かたつむり」 ※簡易伴奏可
グレードB （①グレード表 参照）	No.65,78,80,86 88,96		マーチ・かけあしよ り各1曲ずつ計2曲 マーチ：No.7,11 かけあし：No.24,26	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」（ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より どちらか1曲 「うみ」 「虫のこえ」 ※簡易伴奏可
グレードC （①グレード表 参照）		No.2,5,6,7,9,11, 14,15,25より 2曲	マーチ・かけあし・ スキップより 各1曲ずつ計3曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 スキップ：No.39,41,49	ハ長調・ト長調・ ヘ長調のカデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「春がきた」 （ハ長調・二長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より どちらか1曲 「ふじ山」 ※簡易伴奏可
グレードD （①グレード表 参照）		No.2,5,6,7,9,11 14,15,25より 3曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プより 各1曲ずつ計4曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49	6つの調すべての カデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ハ長調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふじ山」 「もみじ」 ※簡易伴奏可
グレードE （①グレード表 参照）		No.14,15,17,24,25 より3曲	マーチ・かけあし・ ギャロップ・スキッ プ・ワルツより 各1曲ずつ計5曲 マーチ：No.7,11,16 かけあし：No.24,26,28 ギャロップ：No.33,37,92 スキップ：No.39,41,49 ワルツ：No.53,54,59	6つの調すべての カデンツ	『最新 初等科音楽 教育法』より 「ふるさと」 （ヘ長調・ト長調） 「こいのぼり」 （ヘ長調・任意の調）	『最新 初等科音楽 教育法』より 2曲選択 「ふじ山」 「もみじ」 「われは海の子」 ※簡易伴奏可

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

I. 「声楽」については、スクーリング受講までに、テキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法』より、下記の歌唱共通教材曲を歌えるように練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| ① 1年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ④ 4年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |
| ② 2年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ⑤ 5年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |
| ③ 3年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） | ⑥ 6年歌唱共通教材曲 4曲（練習時間 5時間） |

II. 「器楽（ピアノ）」については、スクーリング受講までにグレードA・B・C・D・Eより各自のピアノ演奏スキルに合わせたグレードを1つ選び、下記の曲を練習しておくこと。また、受講後もよく復習しておくこと。

- ①『標準バイエルピアノ教則本』または『ブルクミュラー／25の練習曲』よりピアノ曲（練習時間 5時間）
- ②『保育のためのリズム曲集』＜スクーリング受講許可時に送付＞よりピアノ曲（練習時間 5時間）
- ③『カデンツ』＜スクーリング受講許可時に送付＞（練習時間 2時間）

※グレードA・B・Cは八長調・ト長調・ヘ長調、グレードD・Eは6つの調すべてを左手で弾く練習をする。

- ④「弾き歌い」より課題曲をアカペラで歌う。（練習時間 6時間）
「弾き歌い」より課題曲の伴奏を片手ずつの練習も含め両手で弾けるようにする。（練習時間 6時間）
「弾き歌い」より課題曲を弾き歌いできるように繰り返し練習する。（6時間）

受講上の注意事項

《持参する物》

- ①スクーリング受講許可時送付の楽譜すべて
 - ②テキスト『改訂版 最新 初等科音楽教育法』と『標準バイエルピアノ教則本』または『ブルクミュラー／25の練習曲』（各自のピアノ演奏スキルに合わせて選択）
- ※上記の持参物を忘れた場合は、スクーリングを受講することができない。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・授業への取り組み 20%
- ・声楽実技試験 30%
- ・器楽実技試験 40%
- ・音楽理論筆記試験 10%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスを行う。

科目コード	20188	科目名 [単位数/学習時間]	図画工作 [2単位/90時間]		対面授業
テキスト					
ISBN		本体価格(円) (2026年1月現在)		生協 テキストNo.	
科目担当		須増 啓之			
科目の目的					
小学校図画工作科の内容について解説し、個人や共同での制作活動を通して、児童の造形表現について体験的に理解する。そして、様々な材料や表現方法、用具に触れることで指導実践に生かすことのできる基礎的な知識や技術を習得する。また、活動を通して描いたり、つくったり、見たりすることの楽しさを味わい、造形を愛好する心情を養う。					
到達目標					
- 様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を理解し、図画工作科における造形指導の基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につける。 - 制作活動や鑑賞活動を通して感性を豊かにし、他者の考え方や造形に触れながら自分とは異なる表現を楽しみ、受容することができるようになる。 - 児童の造形表現や内容について、活動を通して理解する。 - 造形活動に関心をもち、造形指導への意欲を培う。 - 活動について自分なりに体験を分析し、記録としてまとめることができる（授業外学習）。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方・準備物の確認など） 自分の造形体験を振り返ることから造形表現について考える				
第2回	描いてみよう ～形から発想しよう～				
第3回	パスで色をぬろう① ～いろいろなパスの表現を試そう～				
第4回	パスで色をぬろう② ～型紙を使って、パスを指でぬぼう～、及びパスについての基礎・基本				
第5回	紙でつくろう ～紙を折ったり、切ったりして、いろいろな形を発見～				
第6回	絵具で色をぬろう① ～色について体験的に学ぼう～、及び色についての基礎・基本				
第7回	絵具で色をぬろう② ～いろいろな用具を試して色をつけてみよう～				
第8回	うつしてみよう① ～彫刻刀を使ってみよう～、及び版画についての基礎・基本				
第9回	うつしてみよう② ～彫刻刀を使って、回転木版画に挑戦～				
第10回	うつしてみよう③ ～つくった版にインクをつけてうつそう～				
第11回	仕組みを使ってつくろう ～動く仕組みを工夫して工作をしよう～				
第12回	感触を楽しもう ～粘土で遊ぼう～、及び粘土についての基礎・基本				
第13回	材料で遊ぼう ～並べたり、積んだり、つなげたり～				
第14回	見てみよう ～つくった作品を鑑賞しよう～				
第15回	図画工作科の内容と児童の造形表現の特徴について				
授業方法					
図画工作科の内容「造形遊び」や「絵や立体、工作」などの表現活動と鑑賞活動を行う（講義を含む）。					
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
- 授業での学習を深めるために、スクーリング受講前までに図画工作科で大切にすることや内容、指導方法などについて、参考文献（小学校で使用されている教科書なども含む）を読んだり、インターネットなど調べたりして予習しておくこと。 (学習時間15時間) - スクーリング受講後は、授業で取り組まなかった表現技法やさらに深めたい表現（授業で十分にできなかった表現を含む）などに各自取り組むこと。(学習時間25時間) また、学んだことや授業で活動した作品のつくり方や工夫点、難しかった点、活動後の変化などについて、写真（制作過程や完成作品）などを使って自分なりにノートやデータ（WordやPowerPointなど）に視覚的にまとめて、学びを分析し深めること。(学習時間20時間)					
受講上の注意事項					
【受講に関する注意等】					
- 描いたり、つくったりすることが苦手でも構わない。失敗を恐れず、チャレンジすることが大切である。個人活動だけでなくグループ活動も行うため、積極的に参加すること。 - 実技がメインとなるため、汚れを気にしない服装やエプロンなどを持参して受講すること。					
【持参する物】					
以下の材料・用具（<u>忘れると活動できないので、必ず各自準備のうえ持参すること。</u>） [全日程共通] はさみ、カッターナイフ、のり、セロテープ [1日目で使用予定] オイルパステル（クレパスなど）もしくはクレヨン、折り紙 [2日目で使用予定] 水彩用具（水彩絵具・筆・筆拭き用の布 ※パレットや筆洗は本学で貸し出し可。） [3日目で使用予定] 両面テープ、木工用接着材 ※上記の材料、用具類は「教科教育法・図画工作」、「子どもと造形表現」などの授業でも使用する。<u>なお、授業の進み具合などによって使用しない場合もある。</u>					

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・活動（制作・鑑賞）への取り組み 70%
- ・小レポート 30%

参考文献

- ・松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社
- ・松岡宏明 『子供の世界 子供の造形』 三元社
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編＜平成29年7月＞』 文部科学省HP
- ・大橋功 『美術教育概論 新訂版』 日本文教出版
- ・『図画工作科教科書 1～6年』 開隆堂出版または日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

＜対象：科目等履修生＞

**認定こども園法改正に伴う
幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の
特例制度にかかる科目**

認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生を対象とした科目です。

正科生・課程正科生は該当しませんので、注意してください。

科目コード	20915	科目名 [単位数/学習時間]	子ども家庭支援論＜特例教科目:子育て支援分野＞ [1単位/45時間]				対面授業
テキスト	● 公益財団法人児童育成協会 『新・基本保育シリーズ 19 子育て支援』 中央法規出版						
ISBN	9784805857991	本体価格(円) (2026年1月現在)	2,000	生協 テキストNo.	26122		
科目担当		北野 富美子					
実務経験のある教員による科目		公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長					
科目の目的							
本特例教科目「子ども家庭支援論」＜テキスト・スクーリング履修科目＞は「子ども家庭支援論」「子育て支援」の2つの教科目（分野）の目標・内容をもとに構成されるが、スクーリング履修分については「子育て支援」分野について学ぶ。幼稚園教諭免許状を有する者が幼稚園等での実務経験により保護者対応等の経験を一定程度積んでいることを考慮し、幼稚園等での実務経験では得られない内容等を集中して学ぶ。 保育士は専門的知識や技術を持って、社会的養護、虐待を受けた子どもや障害がある子どもなどの支援、保護者対応や地域の子育て支援等を行う。そのための子育て支援の意義と現場での実践事例を通して、子どもの育ちを支え、保護者や地域の育児力を高められるよう理論と技術を学ぶ。実務経験を活かして教授する。							
到達目標							
・子どもの最善の利益と福祉の重要性を学ぶ。 ・保育者の行う子育て支援の特性について学ぶ。 ・地域の資源の活用と関係機関との連携・協力について学ぶ。 ・多様な支援ニーズを抱える子育て家庭を理解する。							
授業計画							
第1回 子育ての現状と子育て支援の必要性 第2回 保育における支援とその実際 第3回 職員間の連携・協働 第4回 保育所等における支援 第5回 地域の子育て家庭における支援 第6回 特別な対応を必要とする子どもや家庭への相談と支援 第7回 保育・教育相談支援の方法と技術（事例検討：保護者の立場からのロールプレイ） 第8回 保育者の求められる子育て支援とは 確認テスト							
授業方法							
・講義と演習により保育現場における子育て支援の実際を経験する。 ・テキストにより講義を行う。							
授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
・平成27年4月より、子ども・子育て支援新制度が本格的に実施されている。「子ども・子育て関連3法」で3つの法律と7つの特徴の中に、「地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実」が挙げられている。あなたの居住地で、どのような子育て支援（メニュー、内容等）が実施されているか調べ、800字程度にまとめたレポート（A4用紙、ワープロソフト使用による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間5時間） ・子どもの最善の利益と福祉の重要性について予習しておくこと。（学習時間5時間） ・保護者に対する支援と指導（保育所・幼稚園・こども園・地域の子育て家庭）について予習・復習すること。（学習時間5時間） ・保育現場での実際の事例を検討し、グループ討議やワークショップ等で発表するので練習しておくこと。（学習時間10時間） ・まとめと確認テスト調べをすること（復習）。（学習時間5時間）							
受講上の注意事項							
・テキストを必ず持参すること。 ・グループ討議・ワークショップ等を行うので積極的に参加すること。 ・スクーリング最終日に確認テストを行う。（テキスト持ち込み不可）							
生成AIの利用について							
事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。							
評価基準							
・確認テスト（筆記試験） 60% ・授業への取り組み（授業態度、関心、意欲、発表、表現等により評価する） 40%							
参考文献							
・『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社							
課題に対するフィードバック							
スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。							

科目コード	20917	科目名 [単位数/学習時間]	乳児保育＜特例教科目：乳児保育Ⅱ分野＞〔1単位/45時間〕				対面授業
テキスト	● 乳児保育研究会 『資料でわかる乳児の保育新時代 改訂 5 版』 ひとなる書房						
ISBN	9784894642539	本体価格(円) (2026年1月現在)	1,800	生協 テキストNo.	26115		
科目担当		大江 まゆ子					

科目の目的

本科目は特例教科目である。

乳児の育ちを支える保育士としての実践力を身に付けるため、乳児保育の理論と実際を習得することを目的とする。長時間、保育所及び乳児院等で過ごす子どもたちの豊かな成長、発達の保障に必要な知識と実際の保育における技術を学ぶ。

- ・ 乳児保育の意義、役割等について理解する。
- ・ 0 歳・1 歳・2 歳の発達過程を理解し、生活や遊びにおいて乳児の発達を保障する保育内容と方法を学び、乳児保育の具体的な事例の検討を踏まえながら保育者の援助や配慮を学ぶ。
- ・ 乳児保育における環境と保育のあり方を学ぶ。

到達目標

- ・ 乳児保育に携わる保育者としての確かな保育観と専門性を養い、愛情をもって適切に援助する実践力を身につける。
- ・ 0 歳・1 歳・2 歳児の発達特性を理解し、個人差に配慮しつつ、一人ひとりの発達を保障するための生活や遊びの環境を考え、保育の内容や方法を理解する。
- ・ 乳児を取り巻く社会情勢の変化に伴い、子育ての状況も大きく変化している現状を理解する。
- ・ 多様化する保育ニーズに応えるため、乳児保育の意義や基本理念の理解を深め、課題を考察する。
- ・ 保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。

授業計画

第 1 回

乳児期の重要性と乳児保育の意義と目的

第 2 回

0 歳児の心身の発達と保育

第 3 回

1 歳児の心身の発達と保育

第 4 回

2 歳児の心身の発達と保育

第 5 回

個々の発達を促す生活と遊びの環境を保障する乳児保育についてグループディスカッション・発表

第 6 回

乳児保育の現状・課題と保護者との連携

第 7 回

多様化する保育ニーズに応える保育

第 8 回

まとめ＜確認試験（授業中テスト）と乳児保育の役割＞

授業方法

講義、DVDを活用した授業、討論発表等

- ・ 前半はテキスト、乳児の発達の姿のDVDを用いながら講義を行い、後半は、乳児保育の実際を視聴後にグループディスカッションを行い、発表、討論を行う。
- ・ テキストをもとに講義する。

授業外学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ スクーリング受講までに、テキストの「はじめに」～第 3 章（pp.2-87）、第 5 章（pp.108-125）を予習しておくこと。また、参考文献『保育所保育指針』の第 1 章、第 2 章、第 4 章を一読しておくこと。（学習時間15時間）
- ・ テキスト第 3 章（pp.62-87）をよく読み、テーマ「0 歳児期、1 歳児期、2～3 歳児期の遊びの様子と必要な環境構成および保育者の関わり」について、1,000字程度でまとめたレポート（A4用紙でパソコン等による作成可）をスクーリング初日に提出すること。（学習時間 5 時間）
- ・ スクーリング受講後は、テキストの第 4 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章をよく読んで、保育の実際に必要な事項について学習すること。（学習時間10時間）

受講上の注意事項

- ・ スクーリング初日には予習で事前作成したレポートを必ず持参。
- ・ スクーリング最終日の確認試験（授業中テスト）は、持ち込み一切不可で行う。
- ・ グループディスカッションを行うので、積極的に参加すること。
- ・ テキストを必ず持参。

生成AIの利用について

事前課題や授業での提出課題にあたって生成AIを利用する場合は、「神戸親和大学における生成AI活用に関する基本方針」に基づいて利用すること。提出課題等に生成AIが出力した内容をほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したりすることは、盗作や剽窃といった不正行為にあたるので注意すること。

評価基準

- ・ 確認試験（授業中テスト） 50%
- ・ 授業への取り組み（授業態度、関心・意欲、発表などにより評価する。） 30%
- ・ その他（授業終了時に提出を求める小レポート） 20%

参考文献

- ・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
- ・ChaCha Children & Co. 『見る・考える・創りだす 乳児保育 I・II』 萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の **X**）を参照すること。

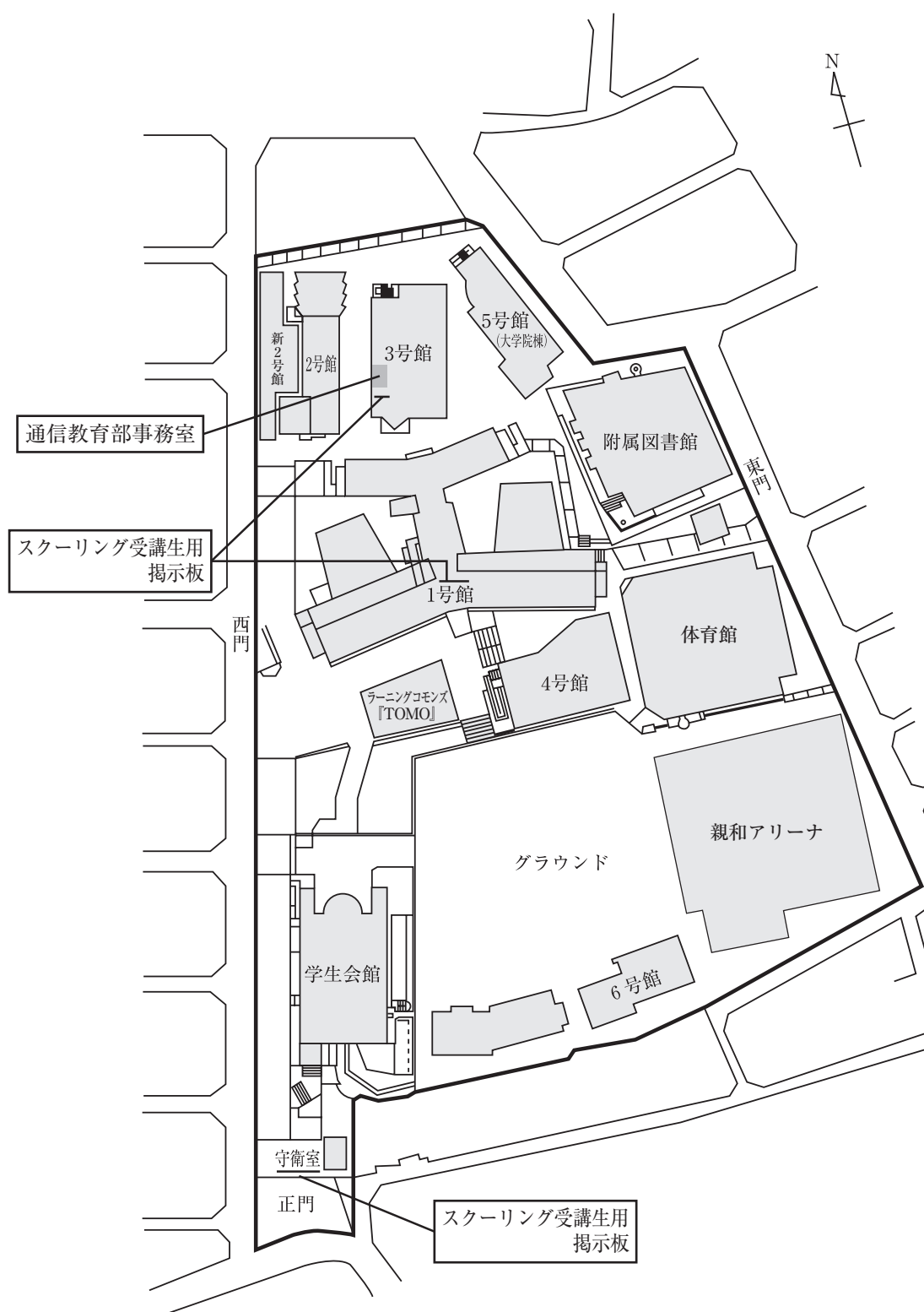
課題に対するフィードバック

スクーリング終了後に「親和通信」で講評、受講後の学習に関するアドバイスをを行う。

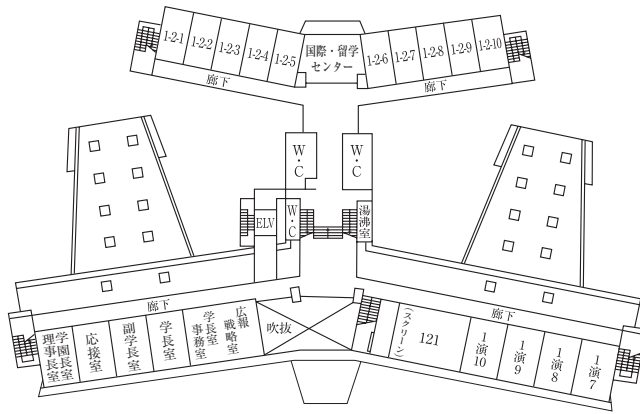
校 舎 配 置 図

[2026 年 1 月 現在]

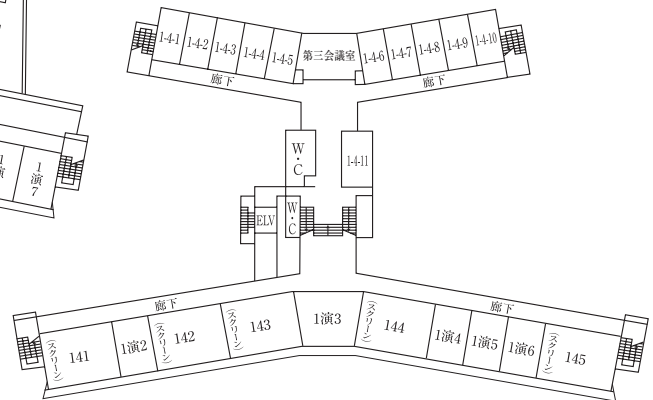
全体配置図



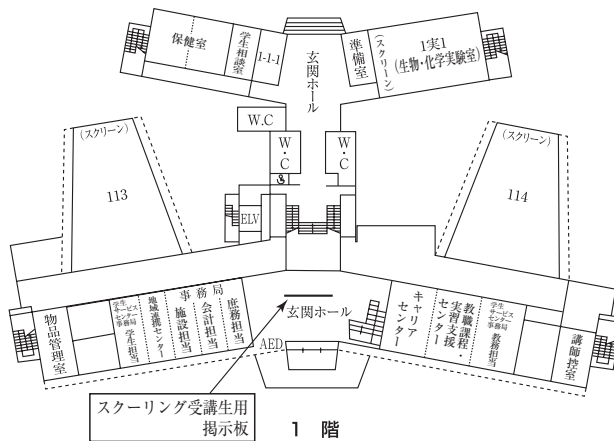
1 号 館



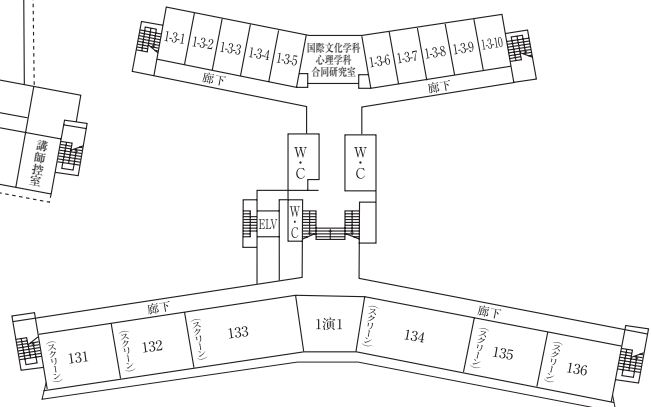
2 階



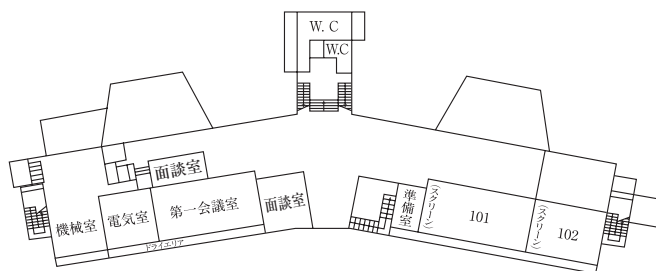
4 階



1 階

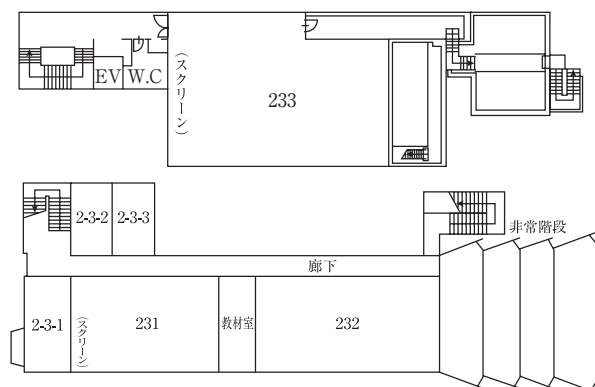


3 階

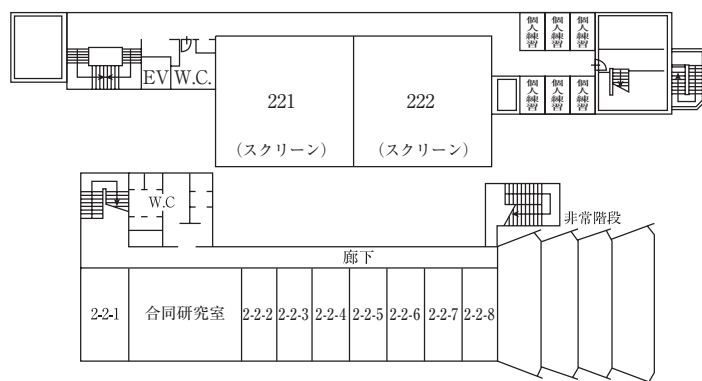


B 1 階

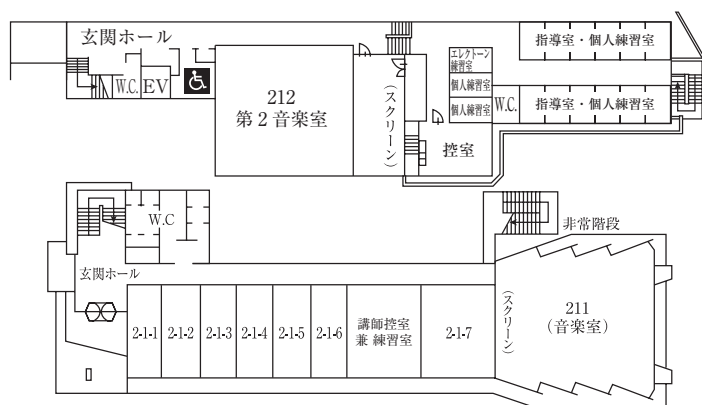
2号館・新2号館



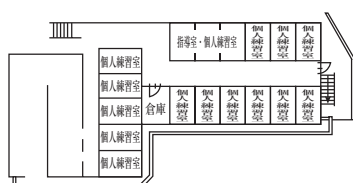
3 階



2 階

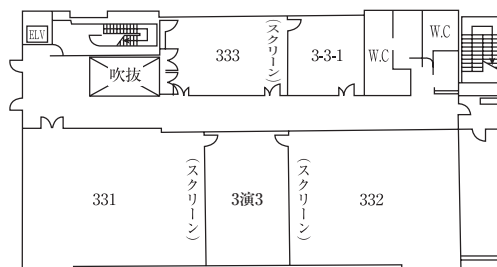


1 階

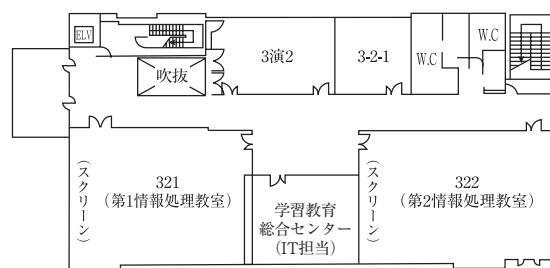


B 1 階

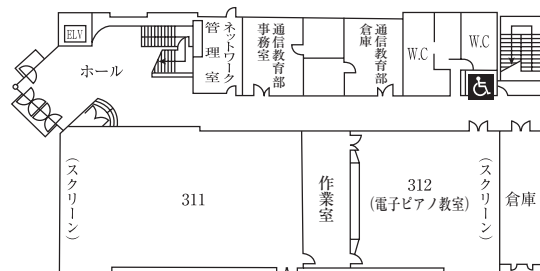
3号館



3 階

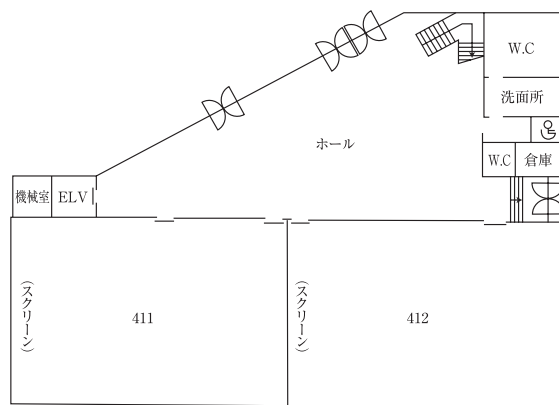
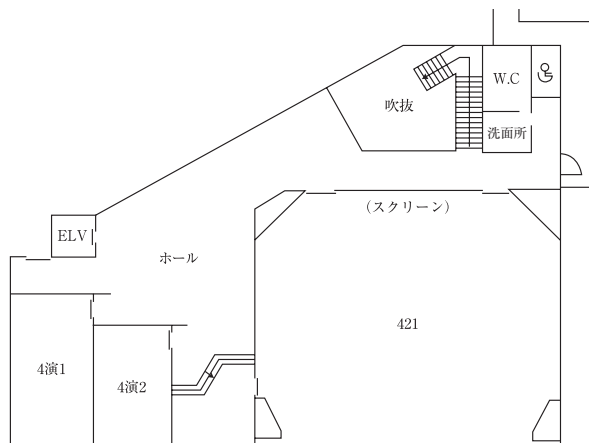


2 階

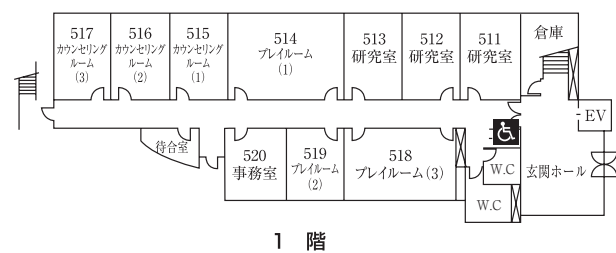
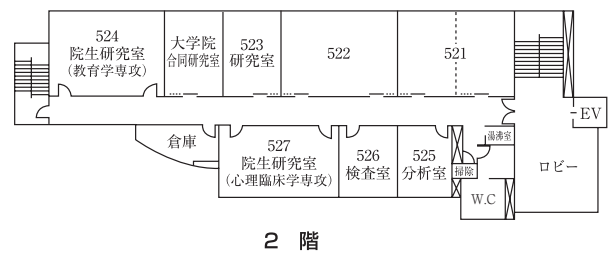
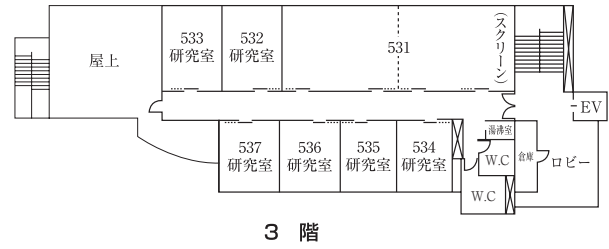


1 階

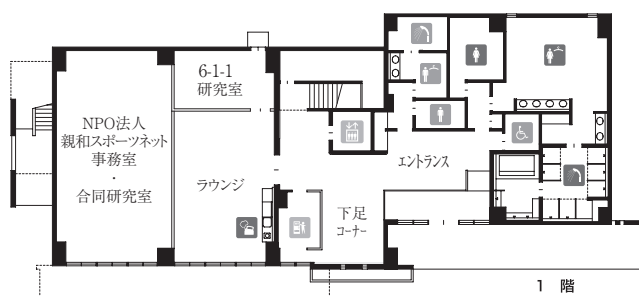
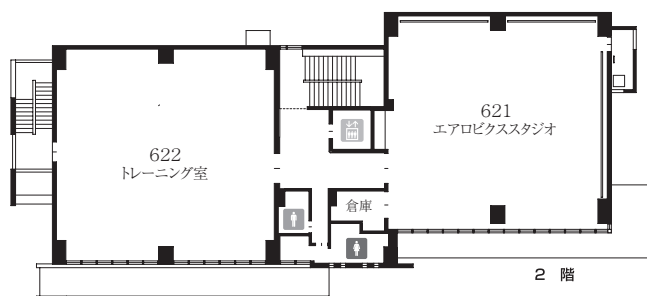
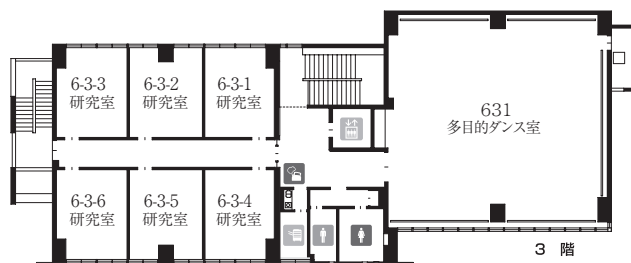
4 号 館



5 号 館



6 号 館



親 和 ア リ ー ナ

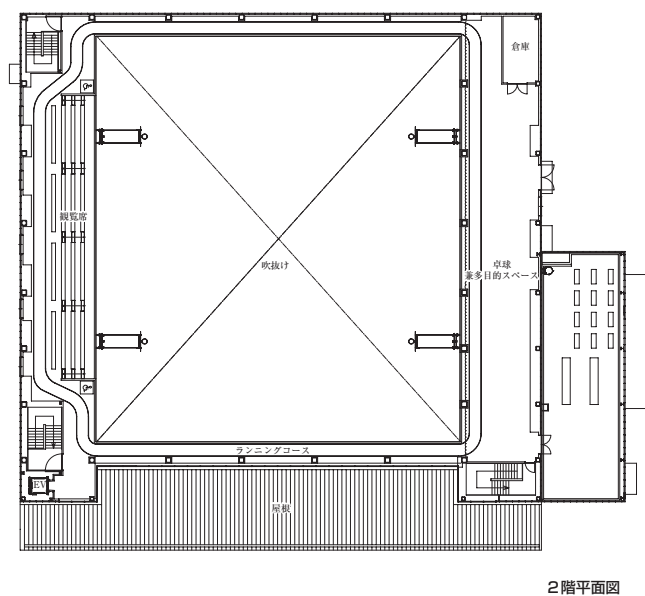
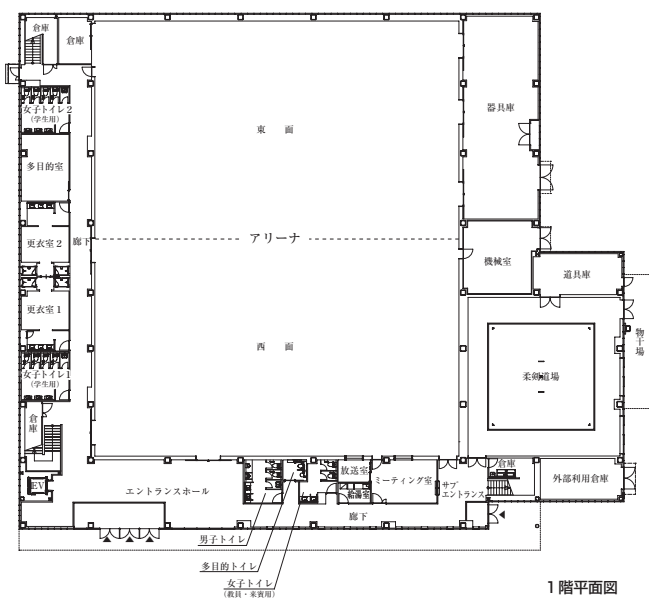
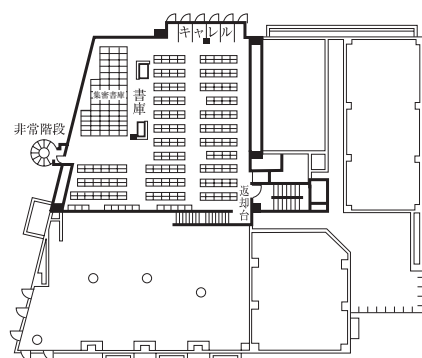
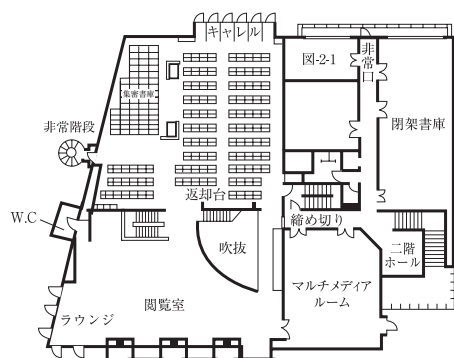


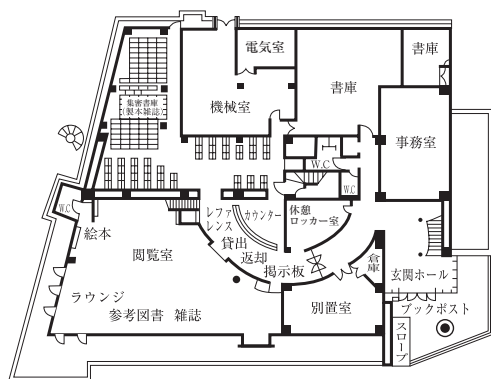
図 書 館



3 階

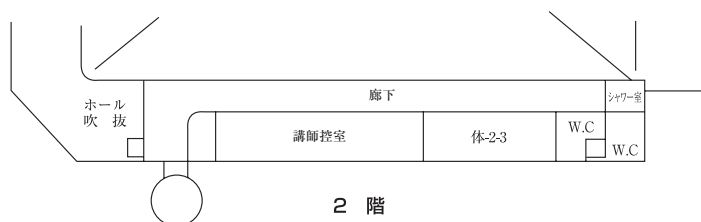


2 階

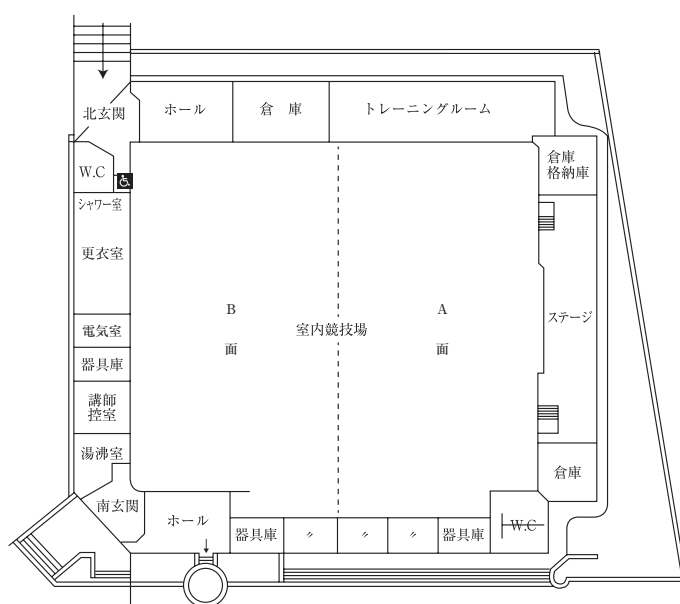


1 階

体 育 館

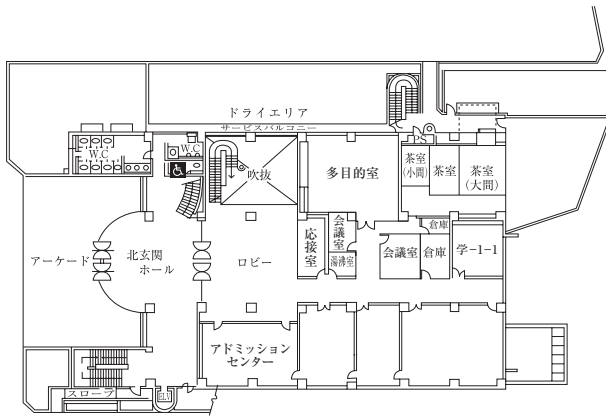


2 階

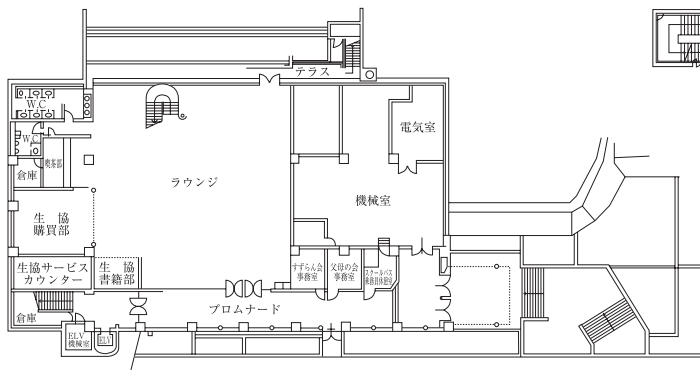


1 階

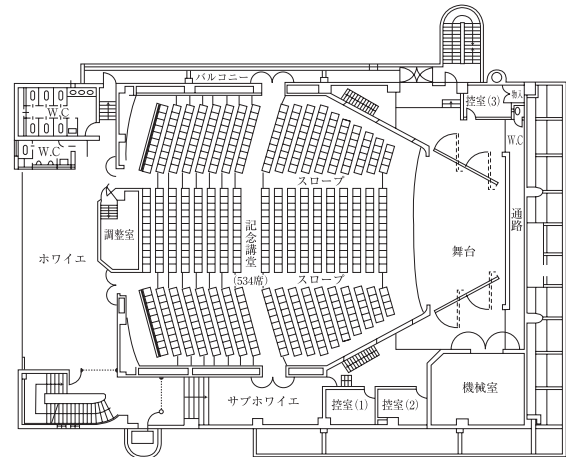
学生会館



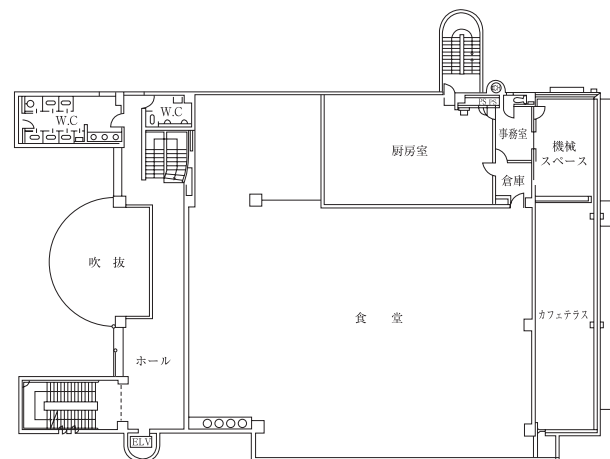
1 階



B 1 階



3 階



2 階



神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部事務室

〒651-1194 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1

TEL 078-591-8796 FAX 078-591-8797

URL <https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/>